
高砂市
人権に関する市民意識調査
報告書

令和7年3月

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の実施について	1
(3) 調査票の回収状況	1
(4) 留意点	1
2. 調査結果	2
(1) あなたのことについて	2
(2) 人権問題に対する意識について	4
(3) 各分野の人権問題について	32
(4) 相談体制について	65
(5) 人権啓発について	68
(6) さいごに	82
3. 調査結果のまとめ	93
(1) 人権問題に対する意識について	93
(2) 各分野の人権問題について	95
(3) 相談体制について	99
(4) 人権啓発について	99
(5) さいごに	100
資料編（調査票）	101

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、令和8年度から5年間を計画期間とする「高砂市人権教育及び啓発に関する基本計画」の策定に向け、市民の人権に関する意識を調査し、実情を把握することを目的として実施しました。

(2) 調査の実施について

以下の調査を実施しました。

調査名	高砂市 人権に関する市民意識調査
対象者	高砂市にお住まいの18歳以上の方の中から無作為抽出した1,000人
実施期間	令和6年9月24日（火）～令和6年10月11日（金）
実施方法	郵送配布、郵送回収・WEB回答

(3) 調査票の回収状況

回収状況は以下のとおりです。

配布数	1,000件
有効回答数	334件
有効回答率	33.4%

(4) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下のとおりとなっています。

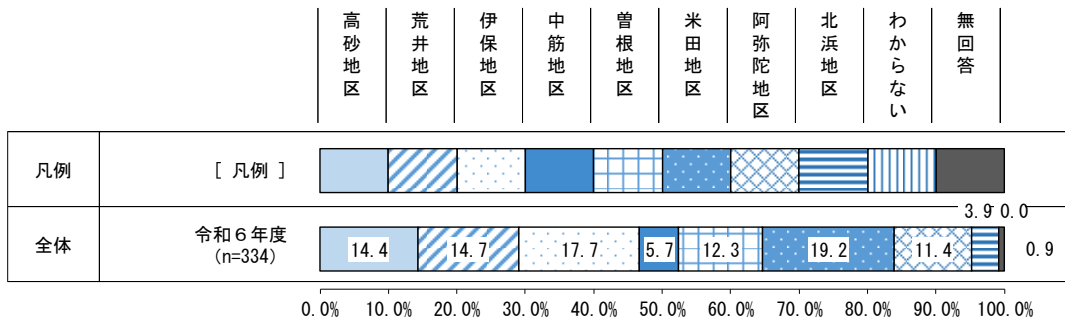
1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
3. 複数回答の場合、図中にMA (Multiple Answer)、3LA (3 Limited Answer)、5LA (5 Limited Answer) と記載しています。また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合があります。
4. 比較対象としている各調査の概要は以下のとおりとなっています。
 - ・令和2年度調査…高砂市において令和2年度に実施した「高砂市人権意識調査」
 - ・兵庫県調査…兵庫県・公益財団法人 兵庫県人権啓発協会において令和5年度に実施した「人権に関する県民意識調査」

Q1-3 あなたのお住まいの地区を教えてください。(〇は1つ)

【全体】

○ 地区について、「米田地区」が19.2%で最も多く、次いで「伊保地区」が17.7%、「荒井地区」が14.7%となっています。

【地区】

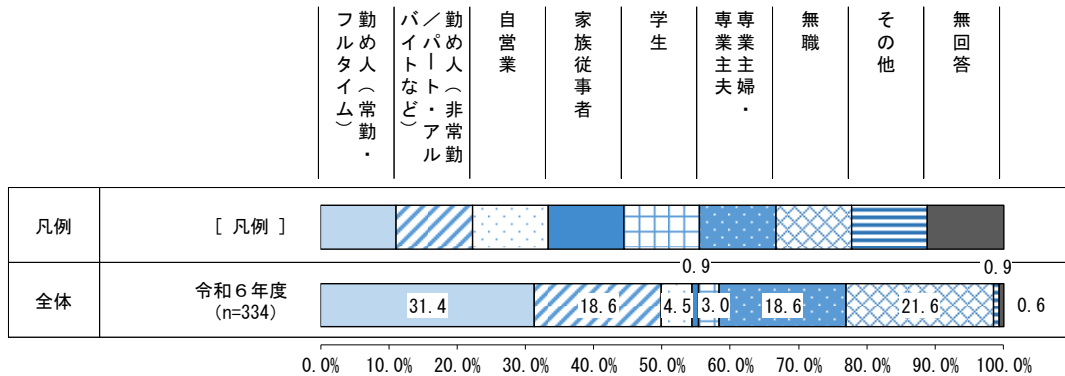


Q1-4 あなたの職業を教えてください。(〇は1つ)

【全体】

○ 職業について、「勤め人(常勤・フルタイム)」が31.4%で最も多く、次いで「無職」が21.6%、「勤め人(非常勤/パート・アルバイトなど)」「専業主婦・専業主夫」が18.6%となっています。

【職業】

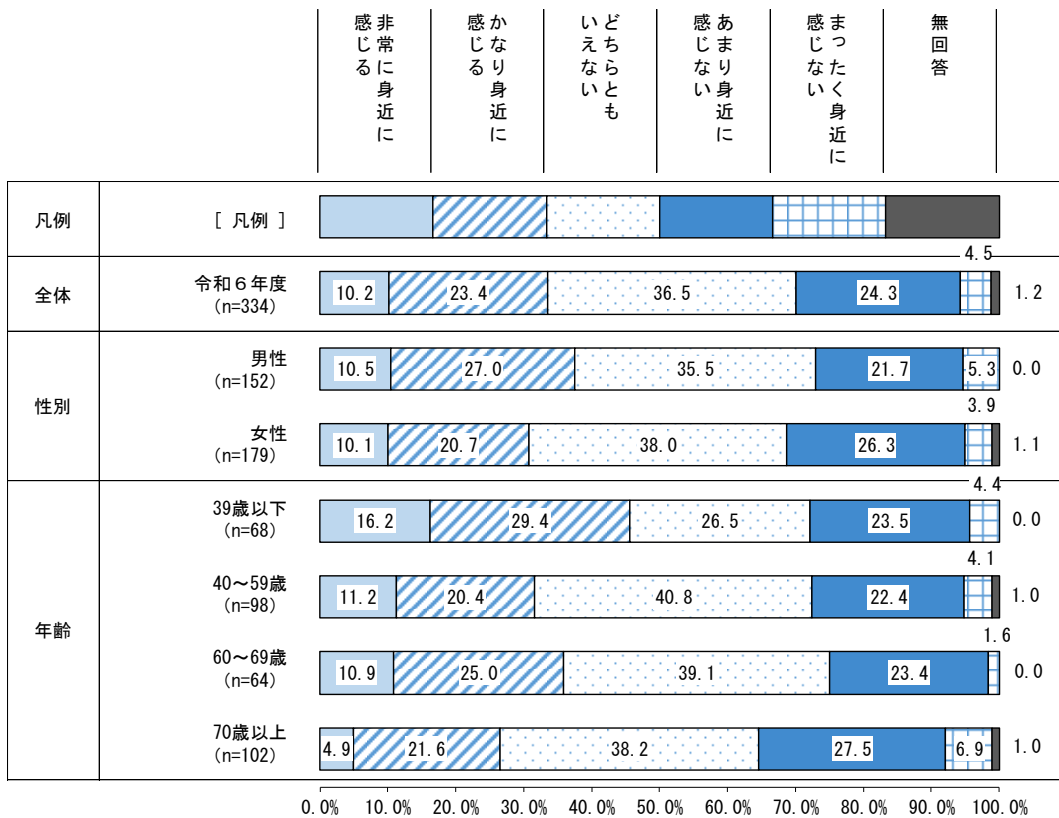


(2) 人権問題に対する意識について

Q2-1 あなたは、「人権」をどのくらい身近な問題として感じておられますか。(〇は1つ)

- 【全体】**
 ○ 「人権」の身近さについて、「どちらともいえない」が36.5%で最も多く、次いで「あまり身近に感じない」が24.3%、「かなり身近に感じる」が23.4%となっています。「非常に身近に感じる」「かなり身近に感じる」を合わせた“身近に感じる”は33.6%となっています。
- 【性別】**
 ○ 男性では、“身近に感じる”は37.5%と、女性の30.8%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
 ○ 39歳以下では、「非常に身近に感じる」が16.2%、「かなり身近に感じる」が29.4%と、いずれも他の年齢層に比べて多くなっています。
 ○ 70歳以上では、「あまり身近に感じない」「まったく身近に感じない」を合わせた“身近に感じない”が34.4%と他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】

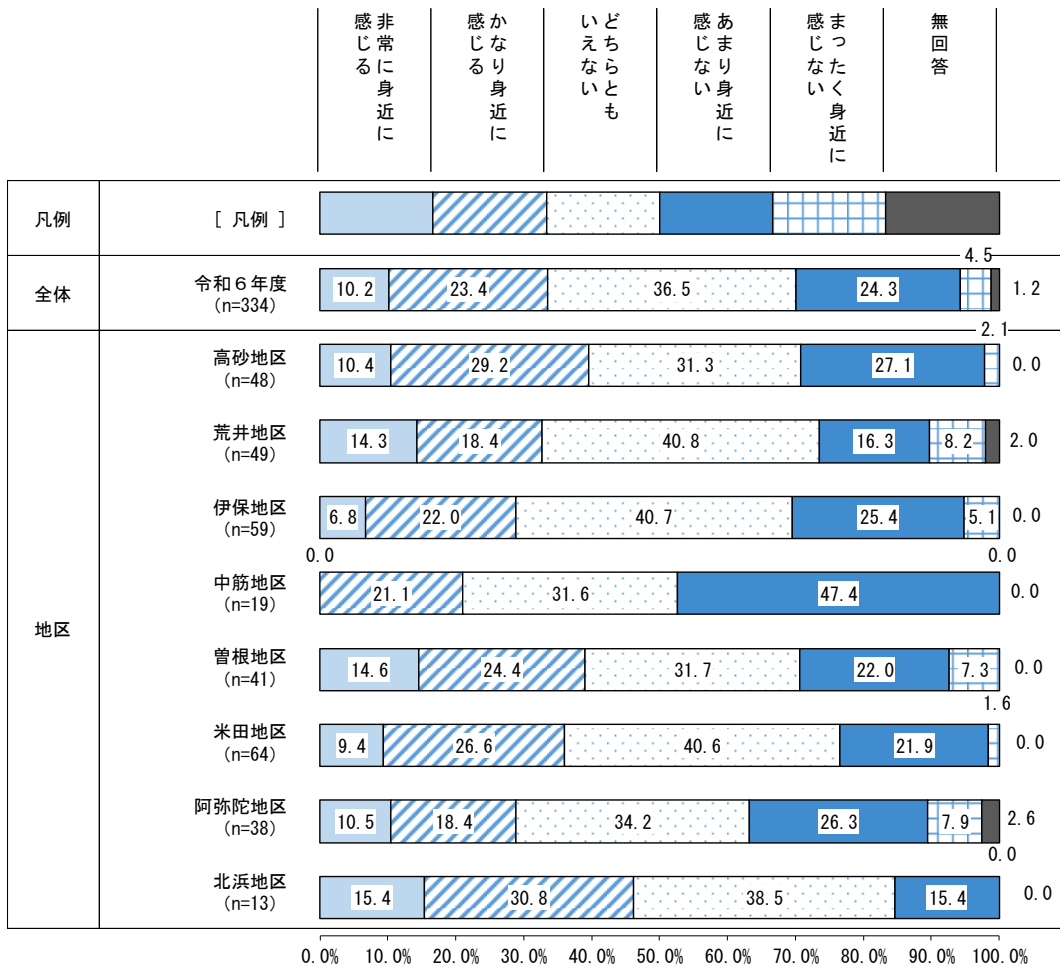


※令和2年度調査…「非常に身近に感じる」7.2%、「かなり身近に感じる」25.6%
 兵庫県調査…「ひじょうに身近に感じる」10.4%、「かなり身近に感じる」31.0%
 (いずれも選択肢に「わからない」があるため比較対象としていません。)

【地区】

○ 「非常に身近に感じる」は荒井地区が14.3%、曾根地区が14.6%、北浜地区が15.4%と他の地区に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】



Q2-2 次の①～④について、あなたはどのように思われますか。①～④のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

① 今の日本は、人権が尊重されている社会である

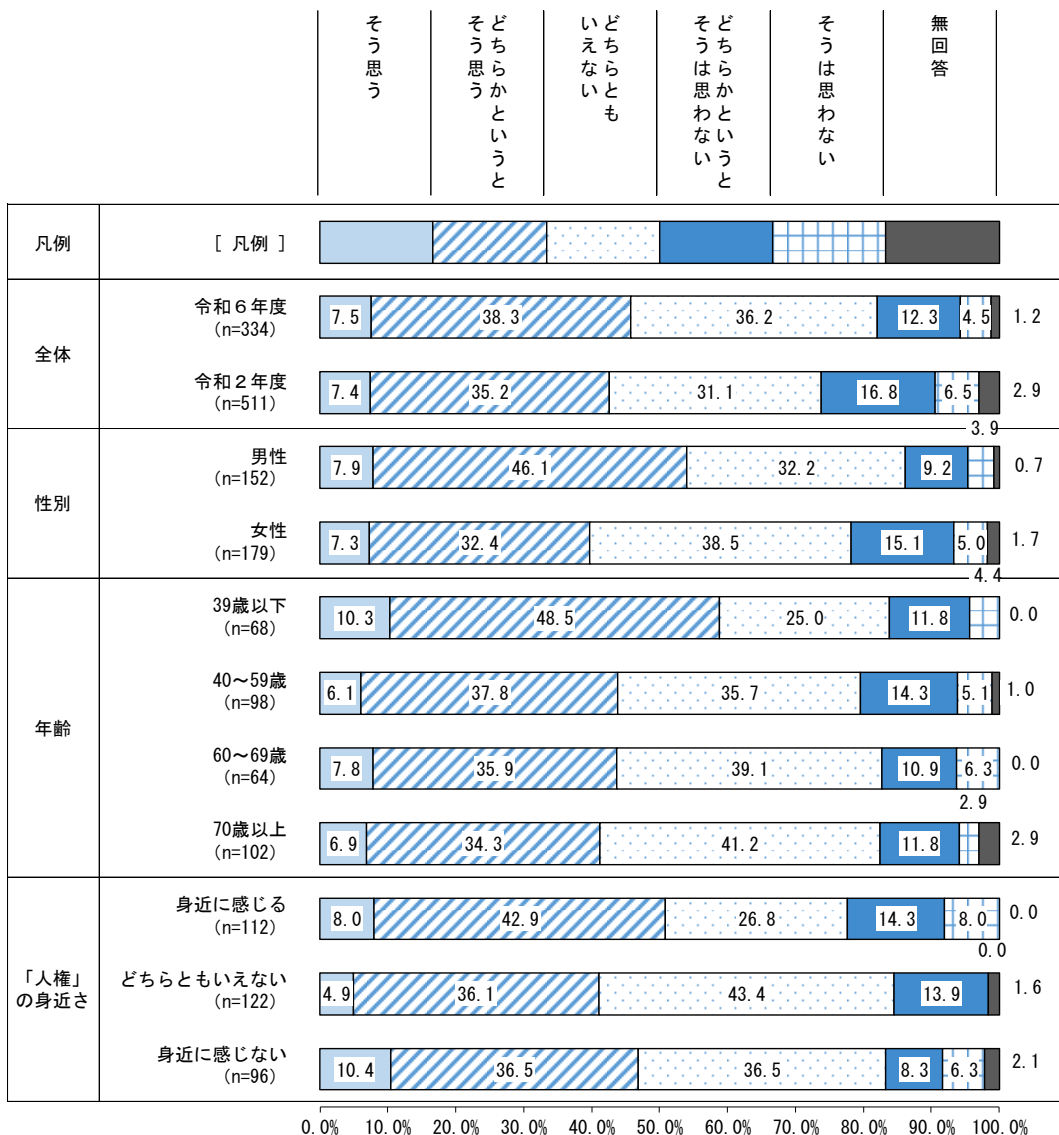
【全体】
 ○ 今の日本は、人権が尊重されている社会であるかについて、「どちらかというと思う」が38.3%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が36.2%、「どちらかというと思うは思わない」が12.3%となっています。「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた“そう思う”は45.8%となっています。
 ○ 令和2年度調査と比べると、「どちらかというと思うは思わない」「そうは思わない」を合わせた“そう思わない”が6.5ポイント少なく、「どちらともいえない」が5.1ポイント多くなっています。

【性別】
 ○ 男性では、“そう思う”は54.0%と、女性の39.7%に比べて多くなっています。

【年齢】
 ○ 39歳以下では、“そう思う”は58.8%と他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】
 ○ 身近に感じる人では、“そう思う”は50.9%である一方、“そう思わない”が22.3%と他の区分に比べて多くなっています。

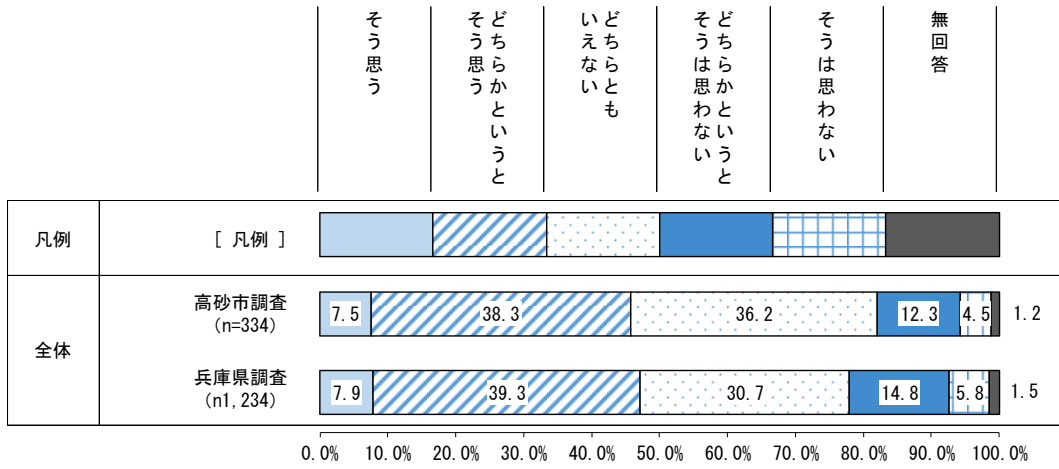
【今の日本は、人権が尊重されている社会である】



【全体】

○ 兵庫県調査と比べると、“そう思う”はほとんど差がなく、「どちらともいえない」が5.5ポイント多くなっています。

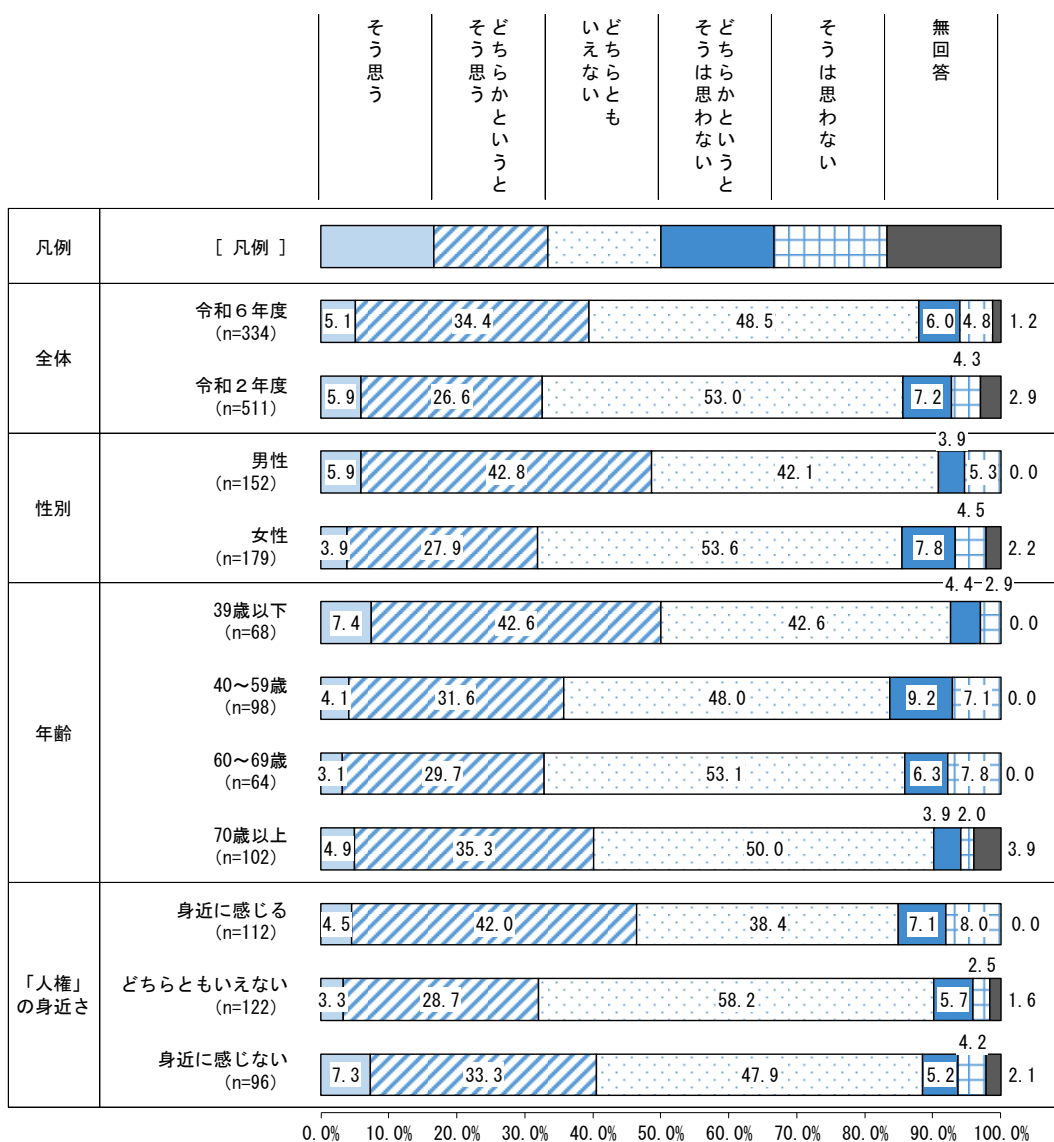
【今の日本は、人権が尊重されている社会である】



② 今の高砂市は、人権が尊重されている市である

<p>【全体】</p> <p>○ 今の高砂市は、人権が尊重されている市であると思うかについて、「どちらともいえない」が48.5%で最も多く、次いで「どちらかというと思う」が34.4%、「どちらかというとは思わない」が6.0%となっています。「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた“そう思う”は39.5%となっています。</p> <p>○ 令和2年度調査と比べると、“そう思う”が7.0ポイント多くなっています。</p> <p>【性別】</p> <p>○ 男性では、“そう思う”は48.7%と、女性の31.8%に比べて多くなっています。</p> <p>【年齢】</p> <p>○ 39歳以下では、“そう思う”は50.0%と、他の年齢層に比べて多くなっています。</p> <p>○ 40～59歳、60～69歳では、「どちらかというとは思わない」「そうは思わない」を合わせた“そう思わない”が1割以上と、他の年齢層に比べて多くなっています。</p> <p>【「人権」の身近さ】</p> <p>○ 身近に感じる人では、“そう思う”は46.5%である一方、“そう思わない”が15.1%と他の区分に比べて多くなっています。</p>

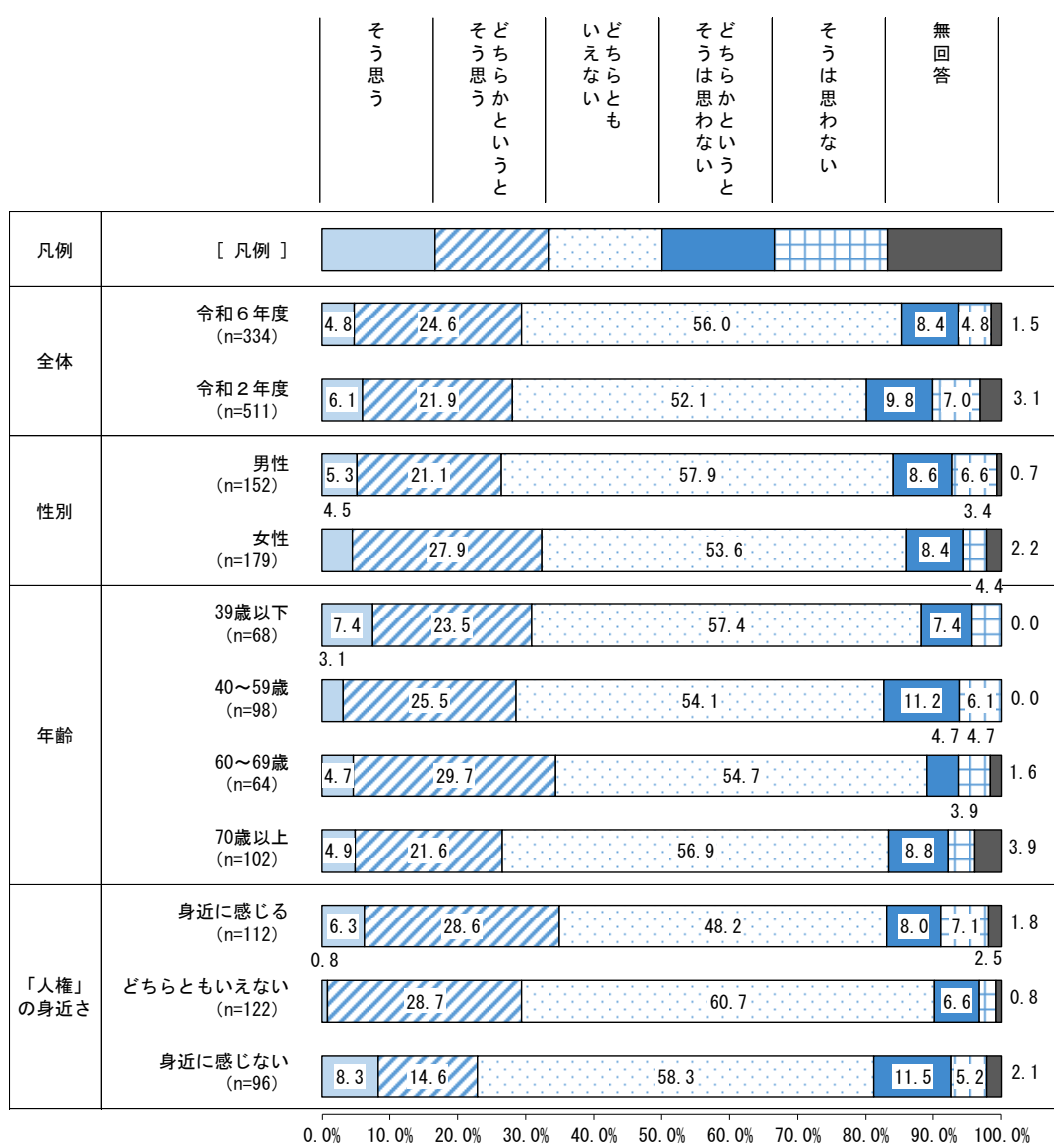
【今の高砂市は、人権が尊重されている市である】



③ 市民一人ひとりの人権意識は5年前に比べて高くなっている

- 【全体】**
- 市民一人ひとりの人権意識は5年前に比べて高くなっていると思うかについて、「どちらともいえない」が56.0%で最も多く、次いで「どちらかというと思う」が24.6%、「どちらかというとは思わない」が8.4%となっています。「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた“そう思う”は29.4%となっています。
 - 令和2年度調査と比べると、大きな差はありません。
- 【性別】**
- 女性では、“そう思う”が32.4%と、男性の26.4%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
- 60～69歳では、“そう思う”は34.4%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 【「人権」の身近さ】**
- 身近に感じる人では、“そう思う”が34.9%と他の区分に比べて多くなっています。また、「人権」を身近に感じるほど“そう思う”が多くなる傾向が見られます。

【市民一人ひとりの人権意識は5年前に比べて高くなっている】

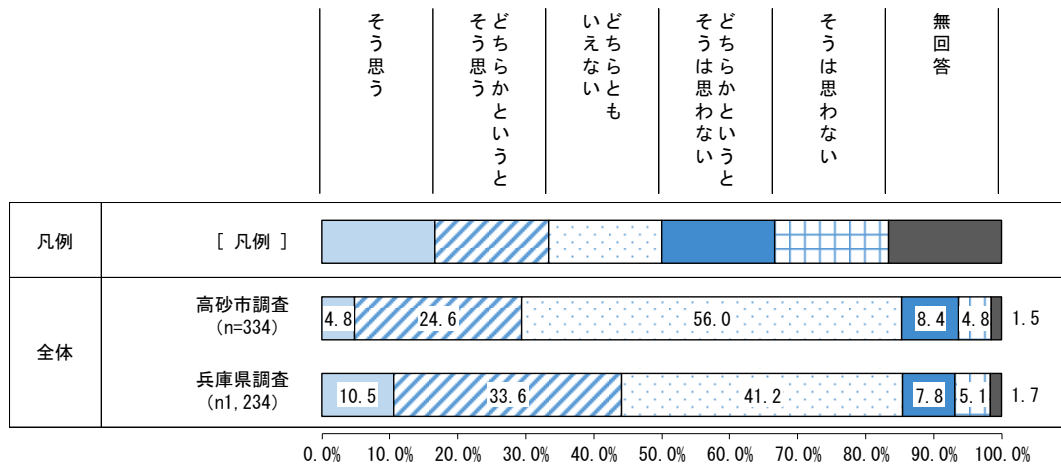


※令和2年度調査…「市民一人ひとりの人権意識は“5～6年前”に比べて高くなっている」

【全体】

○ 兵庫県調査と比べると、“そう思う”は14.7ポイント少なく、「どちらともいえない」が14.8ポイント多くなっています。

【市民一人ひとりの人権意識は5年前に比べて高くなっている】



※兵庫県調査…「県民一人ひとりの人権意識は“5～6年前”に比べて高くなっている」

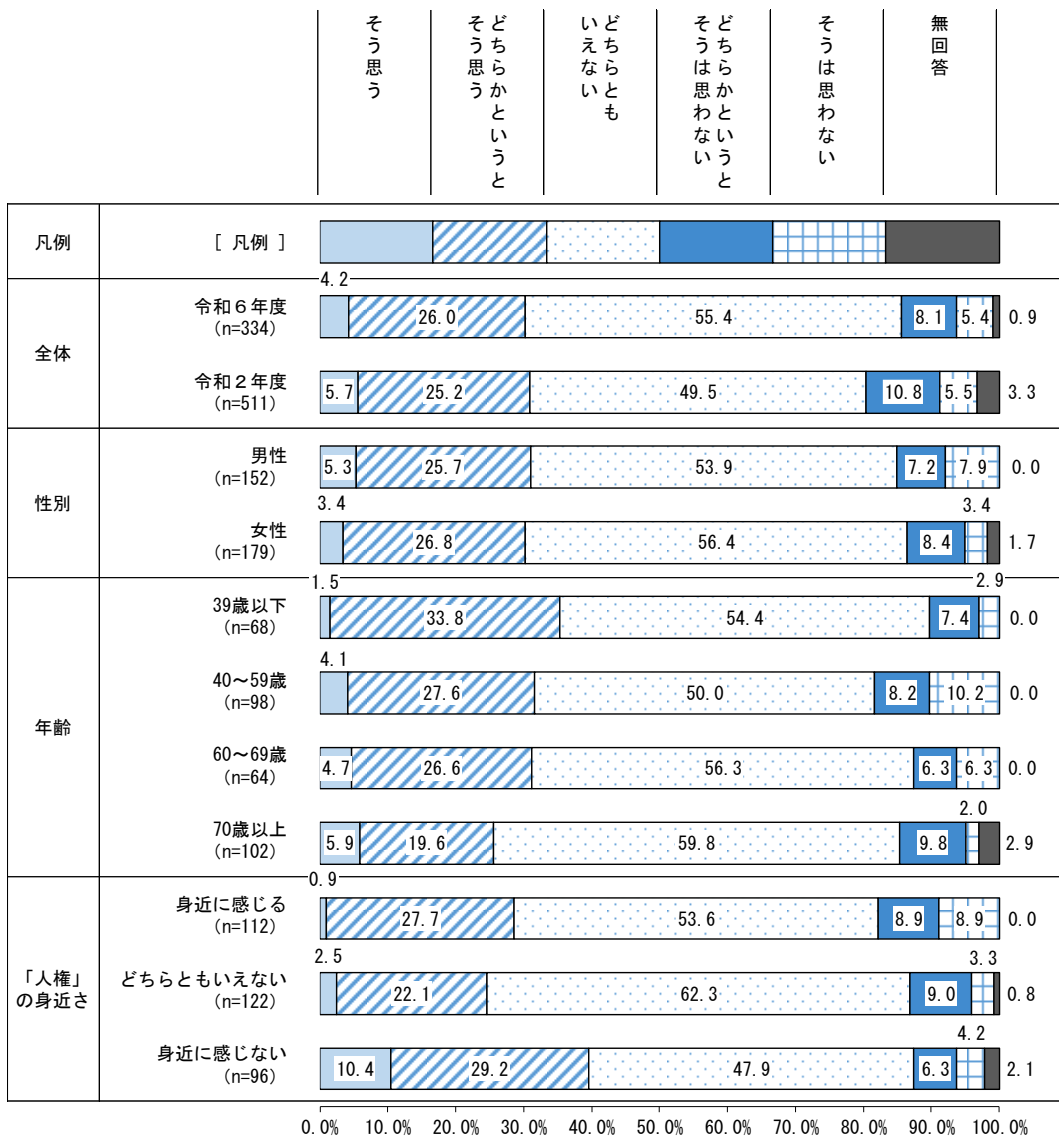
④ 5年前に比べ人権が侵害されることは減っている

【全体】
 ○ 5年前に比べ人権が侵害されることは減っていると思うかについて、「どちらともいえない」が55.4%で最も多く、次いで「どちらかというと思う」が26.0%、「どちらかというとは思わない」が8.1%となっています。「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた“そう思う”は30.2%となっています。
 ○ 令和2年度調査と比べると、「どちらともいえない」が5.9ポイント多くなっています。

【年齢】
 ○ 39歳以下では、“そう思う”は35.3%と他の年齢層に比べて多くなっています。また、年齢が上がるにつれて“そう思う”が少なくなる傾向がみられます。

【「人権」の身近さ】
 ○ 身近に感じない人では、“そう思う”が39.6%と他の区分に比べて多くなっています。

【5年前に比べ人権が侵害されることは減っている】

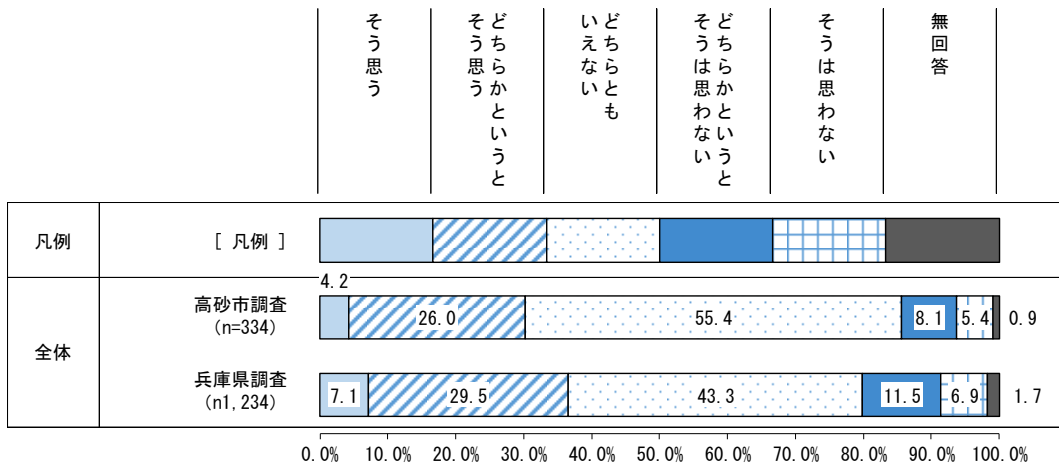


※令和2年度調査…「市民一人ひとりの人権意識は“5～6年前”に比べて高くなっている」

【全体】

○ 兵庫県調査と比べると、“そう思う”は6.4ポイント少なく、「どちらともいえない」が12.1ポイント多くなっています。

【5年前に比べ人権が侵害されることは減っている】



※兵庫県調査…「県民一人ひとりの人権意識は“5～6年前”に比べて高くなっている」

Q2-3 人権や差別をめぐるいろいろな考え方について、あなたの考えに最も近いのはどれですか。①～⑧のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

① 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない

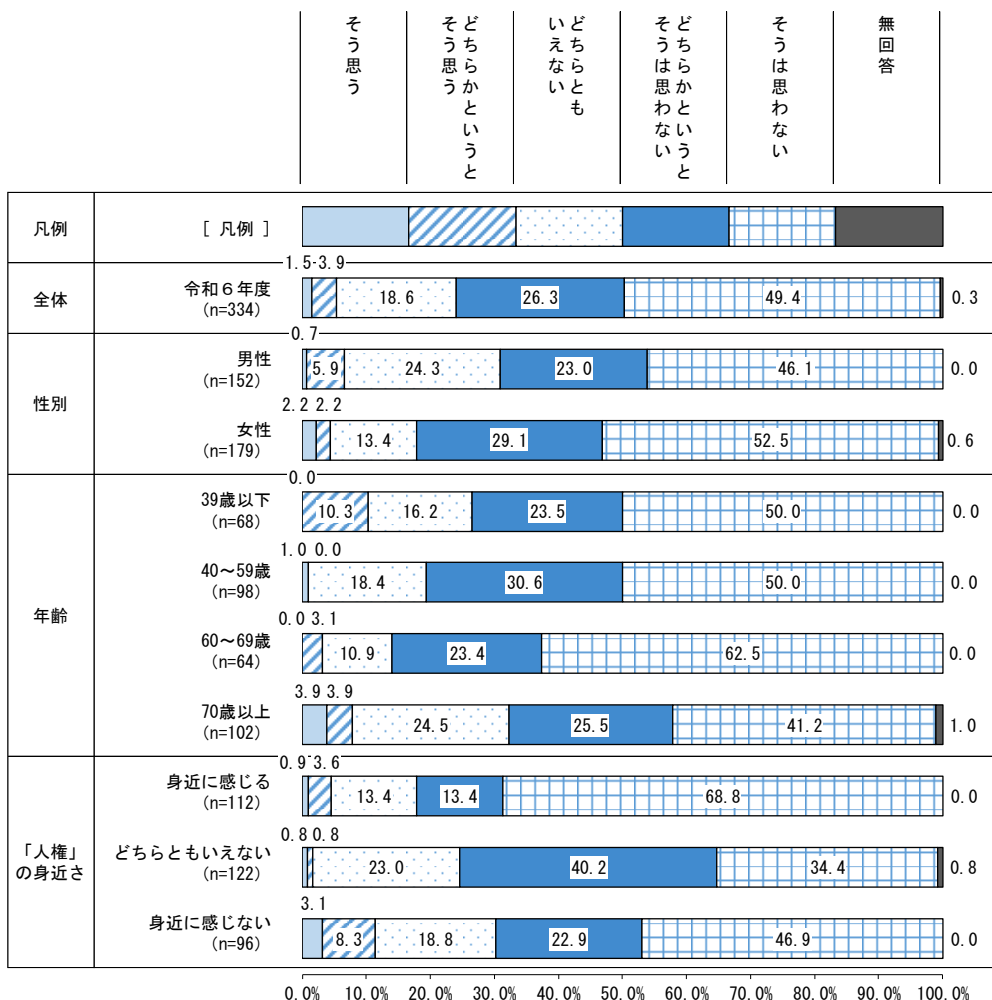
【全体】
 ○ 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がないと思うかについて、「そうは思わない」が49.4%で最も多く、次いで「どちらかというそうは思わない」が26.3%、「どちらともいえない」が18.6%となっています。「そう思う」「どちらかというそう思う」を合わせた“そう思う”は5.4%となっています。

【性別】
 ○ 女性では、「そうは思わない」が52.5%、「どちらかというそうは思わない」が29.1%といずれも男性に比べて多くなっています。一方、男性では、「どちらともいえない」が24.3%と女性に比べて多くなっています。

【年齢】
 ○ 60～69歳では、「そうは思わない」が62.5%と他の年齢層に比べて多くなっています。一方、70歳以上では、「そうは思わない」が41.2%と他の年齢層に比べて少なくなっています。
 ○ 39歳以下では「どちらかというそう思う」が10.3%と他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】
 ○ 身近に感じる人では、「そうは思わない」が68.8%と他の区分に比べて多くなっています。また、「人権」を身近に感じるほど「どちらかというそうは思わない」「そうは思わない」を合わせた“そう思わない”が多くなる傾向が見られます。

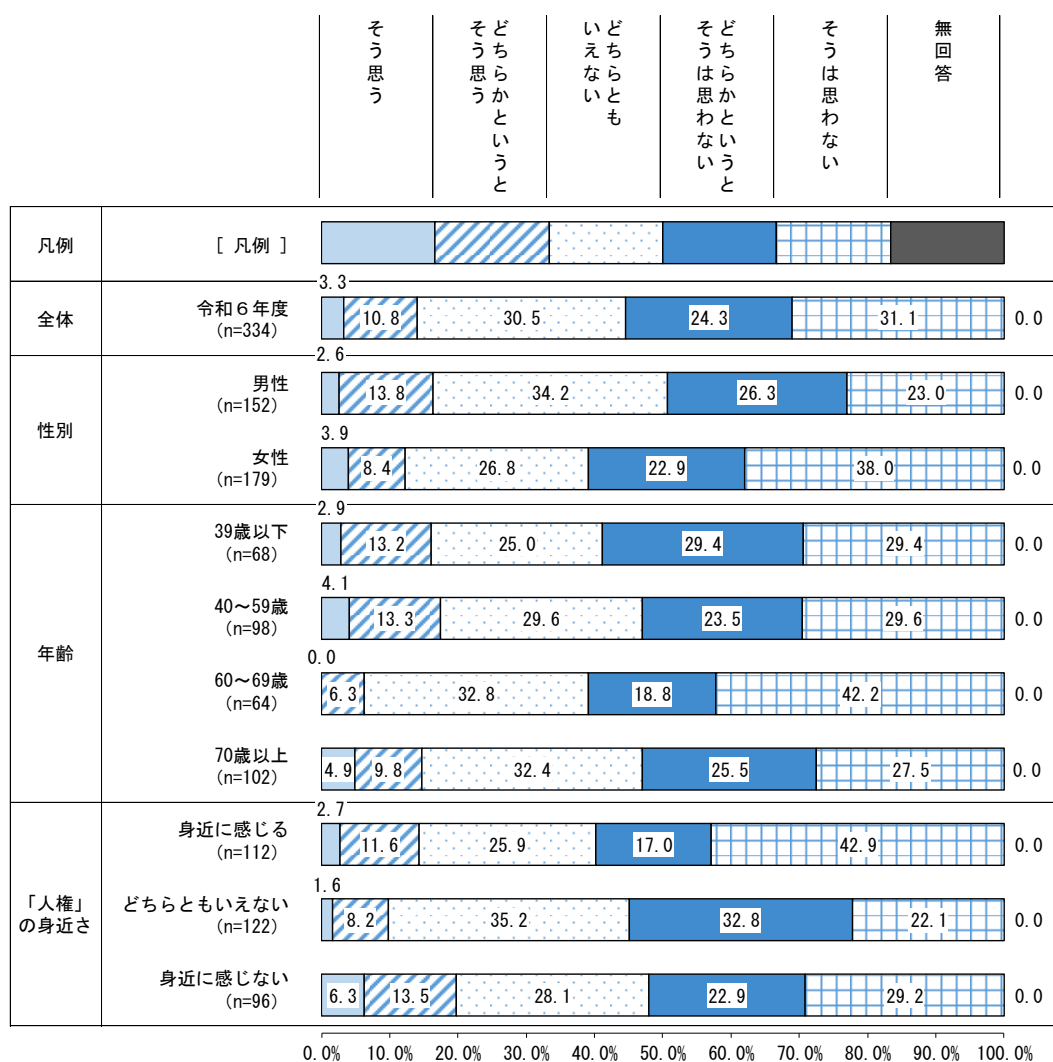
【人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない】



② 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い

- 【全体】**
 ○ 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多いと思うかについて、「そうは思わない」が31.1%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が30.5%、「どちらかというそうは思わない」が24.3%となっています。「そう思う」「どちらかというそう思う」を合わせた“そう思う”は14.1%となっています。
- 【性別】**
 ○ 男性では、「どちらかというそう思う」が13.8%、「どちらともいえない」が34.2%と女性に比べて多く、一方、女性では、「そうは思わない」が38.0%と男性に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
 ○ 60～69歳では、「そうは思わない」が42.2%と他の年齢層に比べて多く、“そう思う”は6.3%と他の年齢層が1割以上であるのに比べて少なくなっています。
- 【「人権」の身近さ】**
 ○ 身近に感じる人では、「そうは思わない」が42.9%と他の区分に比べて多くなっています。また、「人権」を身近に感じるほど「どちらかというそうは思わない」「そうは思わない」を合わせた“そう思わない”が多くなる傾向が見られます。
 ○ 身近に感じない人では、“そう思う”が19.8%と他の区分に比べて多くなっています。

【差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い】



③ 競争社会だから能力による格差が生じるのは仕方がない

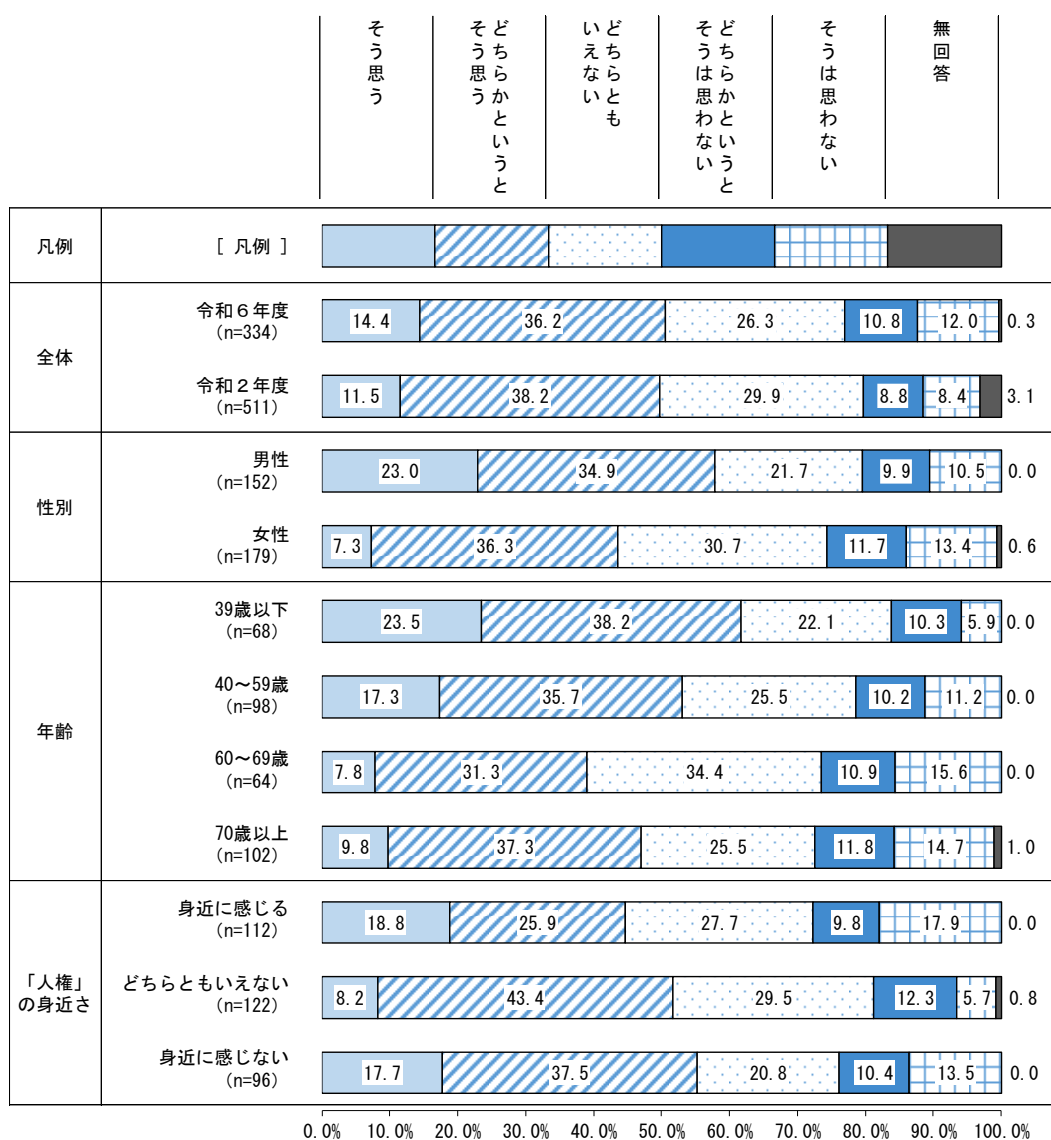
【全体】
 ○ 競争社会だから能力による格差が生じるのは仕方がないと思うかについて、「どちらか」というと「そう思う」が36.2%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が26.3%、「そう思う」が14.4%となっています。「そう思う」「どちらか」というと「そう思う」を合わせた“そう思う”は50.6%となっています。

【性別】
 ○ 男性では、「そう思う」が23.0%と、女性の7.3%に比べて多くなっています。

【年齢】
 ○ 39歳以下では、「そう思う」が23.5%と他の年齢層に比べて多くなっています。
 ○ 年齢が上がるにつれて「どちらか」というと「そうは思わない」「そうは思わない」を合わせた“そう思わない”が多くなる傾向が見られます。

【「人権」の身近さ】
 ○ どちらともいえない人では、他の区分に比べて「そう思う」「そうは思わない」が少なく、「どちらか」というと「そう思う」「どちらともいえない」が多くなっています。

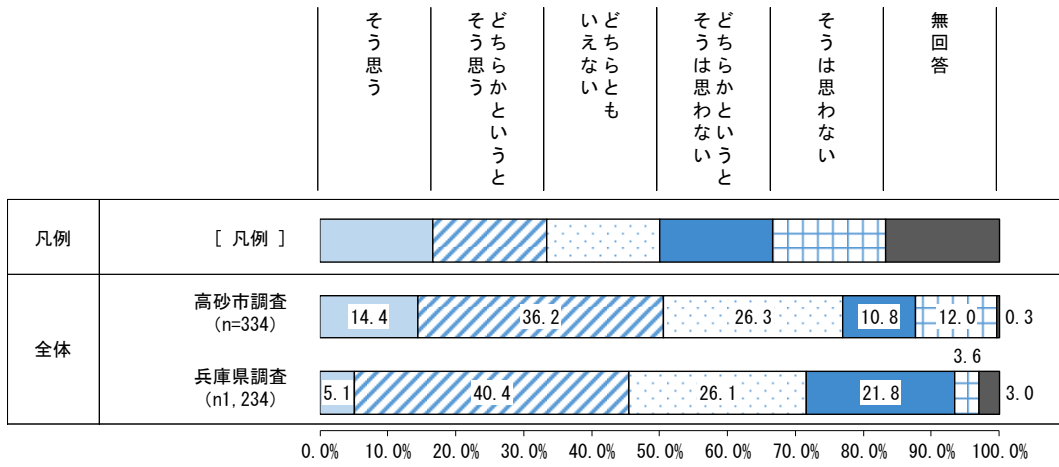
【競争社会だから能力による格差が生じるのは仕方がない】



【全体】

○ 兵庫県調査と比べると、「そう思う」が9.3ポイント多く、「そう思う」が5.1ポイント多くなっています。

【競争社会だから能力による格差が生じるのは仕方がない】

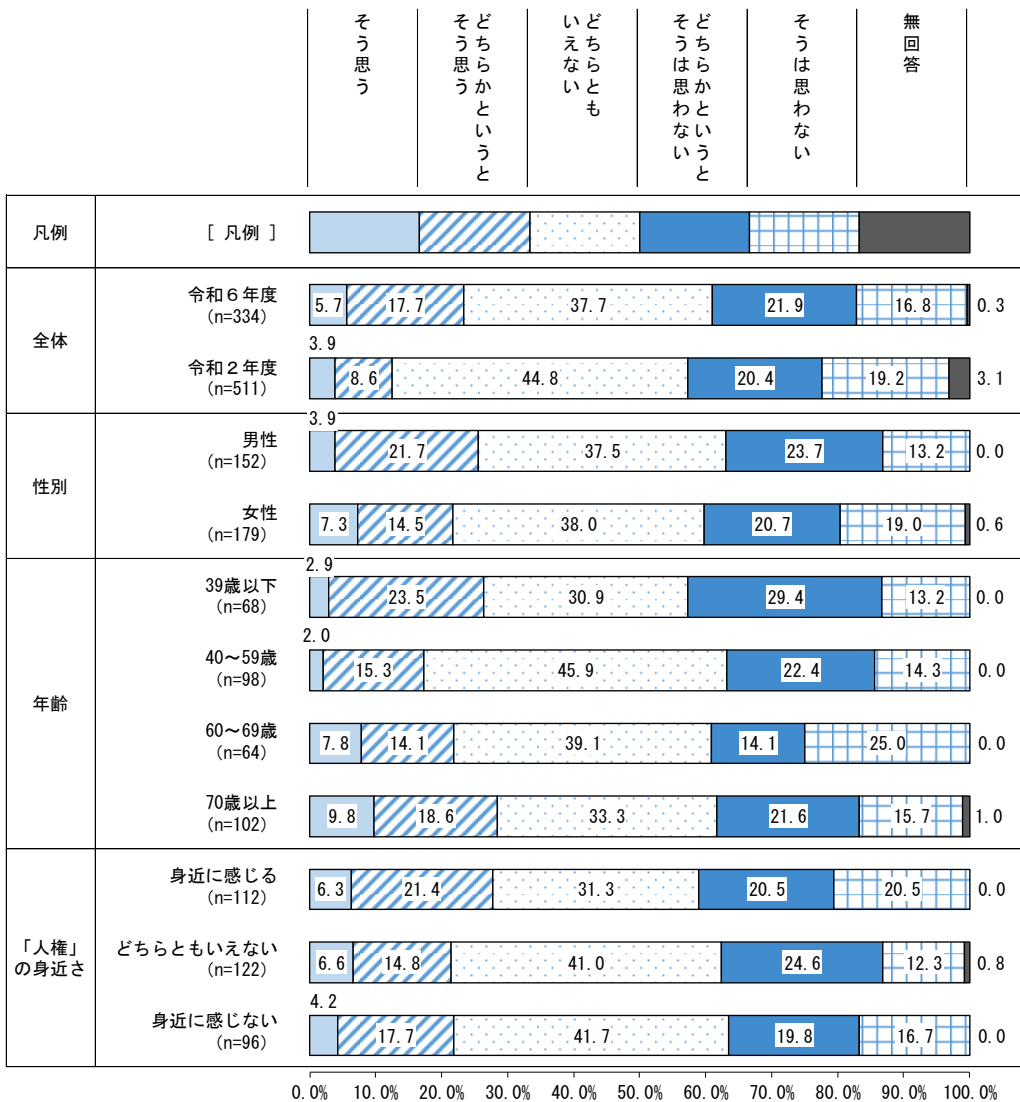


※兵庫県調査…「強くそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そうは思わない」「全く思わない」

④ 個人の権利より、地域みんなの利益を優先することが大切だ

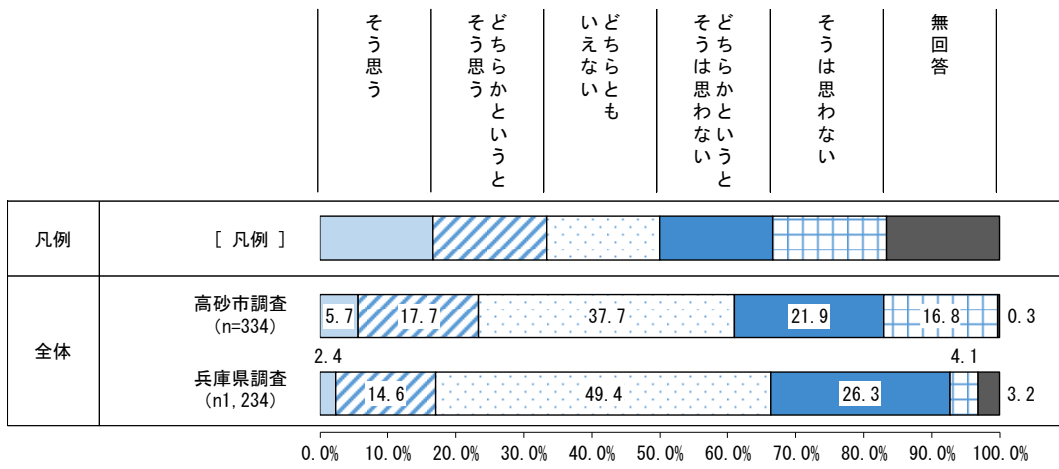
- 【全体】**
- 個人の権利より、地域みんなの利益を優先することが大切だと思うかについて、「どちらともいえない」が37.7%で最も多く、次いで「どちらかというとは思わない」が21.9%、「どちらかというと思う」が17.7%となっています。「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた“そう思う”は23.4%となっています。
 - 令和2年度調査と比べると、“そう思う”は10.9ポイント多くなっています。
- 【性別】**
- 男性では、「どちらかというと思う」が21.7%と、女性の14.5%に比べて多くなっています。一方、女性では、「そうは思わない」が19.0%と、男性の13.2%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下では、“そう思う”は26.4%と70歳以上に次いで多くなっていますが、一方、「どちらかというとは思わない」が29.4%と多く、「そうは思わない」を合わせた“そう思わない”が42.6%と他の年齢層に比べて多くなっています。
 - 60～69歳、70歳以上では、「そう思う」が39歳以下、40～59歳に比べて多くなっています。一方、60～69歳では、「そうは思わない」が25.0%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 【「人権」の身近さ】**
- 身近に感じる人では、“そう思う” “そう思わない” とともに他の区分に比べて多くなっています。

【個人の権利より、地域みんなの利益を優先することが大切だ】



【全体】
 ○ 兵庫県調査と比べると、“そう思う”が6.4ポイント多くなっています。

【個人の権利より、地域みんなの利益を優先することが大切だ】



※兵庫県調査…「強くそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そうは思わない」「全く思わない」

⑤ どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ

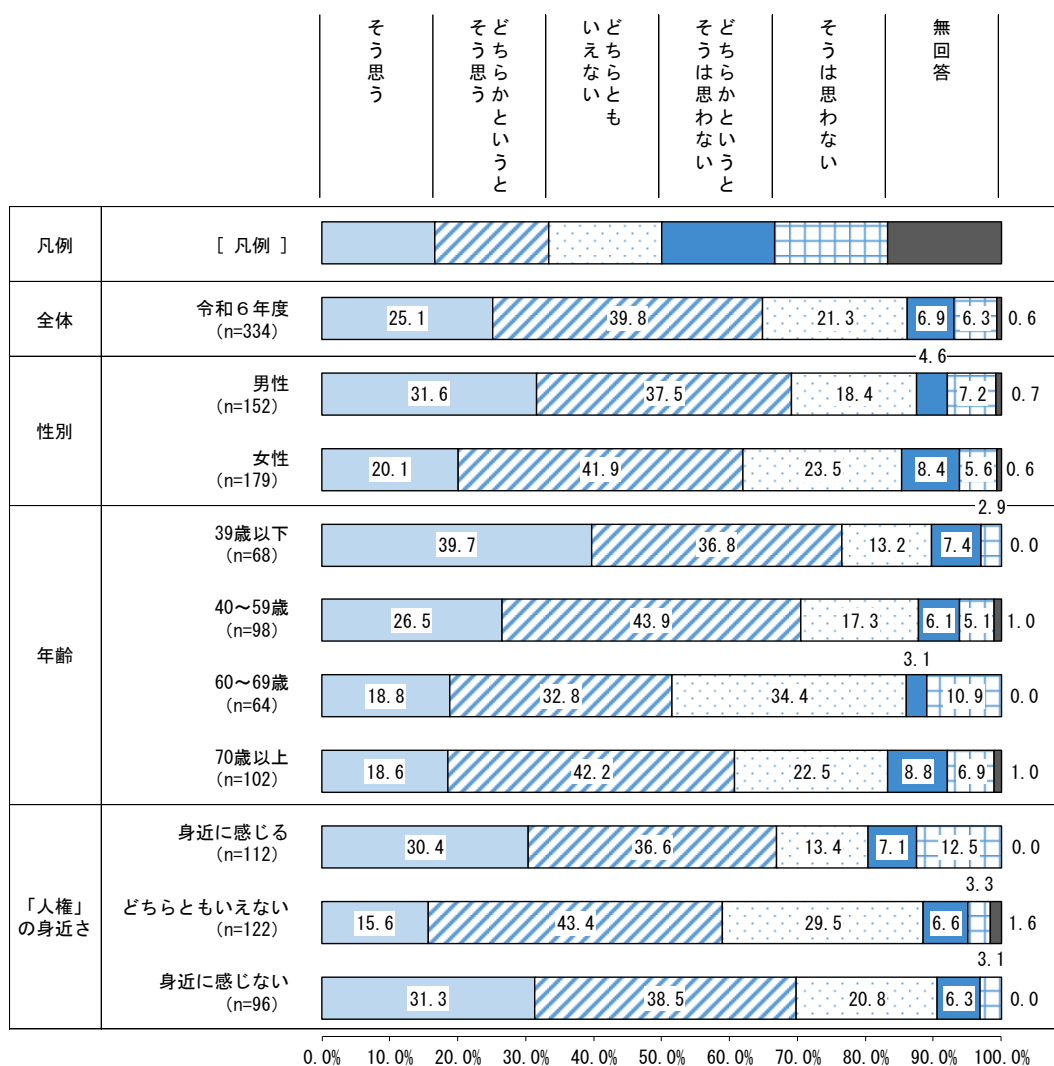
【全体】
 ○ どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だと思うかについて、「どちらかというと思う」が39.8%で最も多く、次いで「そう思う」が25.1%、「どちらともいえない」が21.3%となっています。「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた“そう思う”は64.9%となっています。

【性別】
 ○ 男性では、「そう思う」が31.6%と、女性の20.1%に比べて多くなっています。

【年齢】
 ○ 39歳以下では、「そう思う」が39.7%と、他の年齢層に比べて多くなっています。
 ○ 年齢が上がるにつれて「そう思う」が少なくなる傾向が見られます。
 ○ 39歳以下、40～59歳では、“そう思う”は7割以上ですが、60～69歳では51.6%、70歳以上では60.8%となっています。

【「人権」の身近さ】
 ○ 身近に感じる人では、「どちらかというとは思わない」「そうは思わない」を合わせた“そう思わない”が19.6%と他の区分に比べて多くなっています。

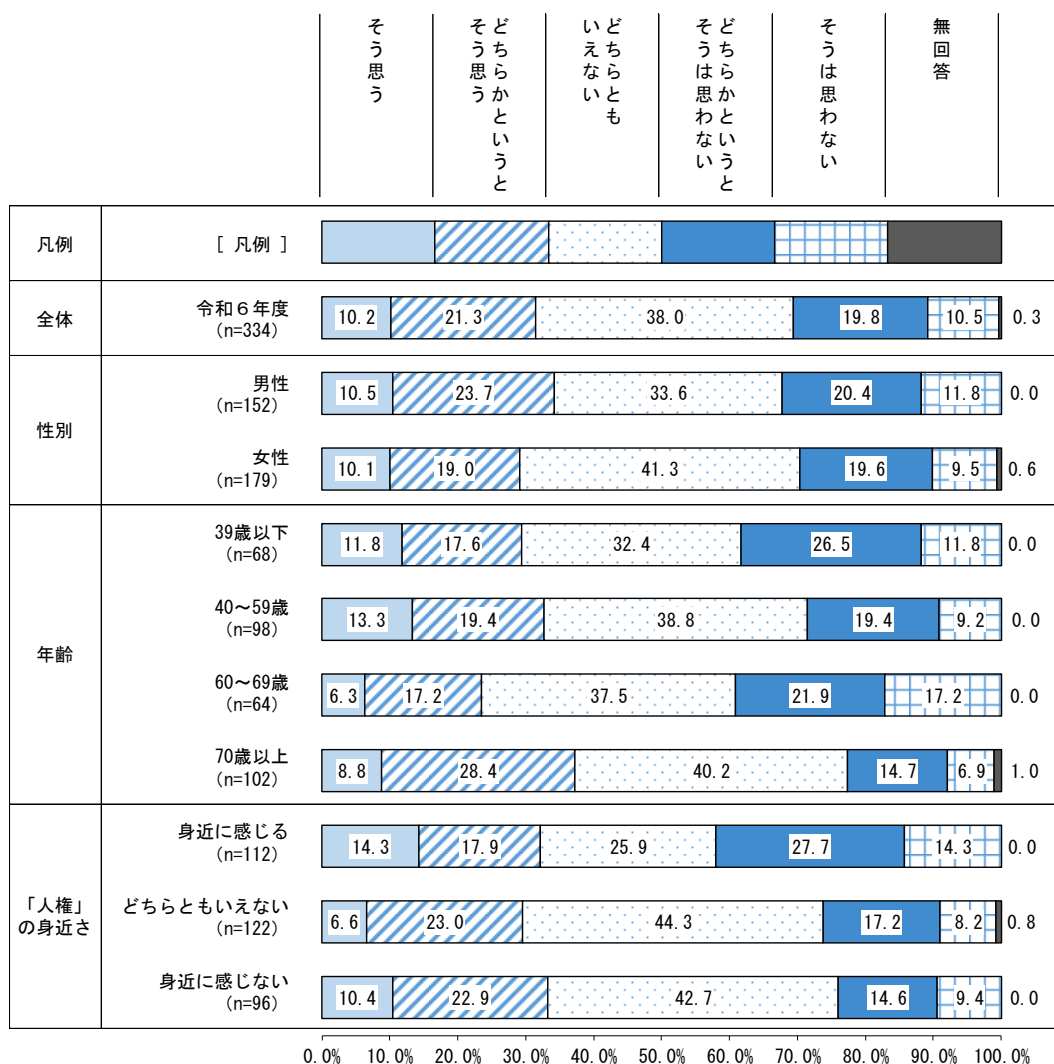
【どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ】



⑥ 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる

【全体】
○ 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなると思うかについて、「どちらともいえない」が38.0%で最も多く、次いで「どちらかというと思う」が21.3%、「どちらかというと思うは思わない」が19.8%となっています。「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた“そう思う”は31.5%となっています。
【性別】
○ 「そう思う」は男性と女性で差は見られませんが、男性では女性に比べて「どちらかというと思う」、女性では男性に比べて「どちらともいえない」が多くなっています。
【年齢】
○ 39歳以下、60～69歳では、「どちらかというと思うは思わない」「そうは思わない」を合わせた“そう思わない”が多く、40～59歳では、“そう思う”と“そう思わない”が同程度、70歳以上では、“そう思う”が多くなっています。
○ 60～69歳では、「そうは思わない」が17.2%と他の年齢層に比べて多くなっています。
○ 70歳以上では、“そう思う”が37.2%と他の年齢層に比べて多くなっています。
【「人権」の身近さ】
○ 身近に感じる人では、“そう思わない”が42.0%と他の区分に比べて多くなっています。

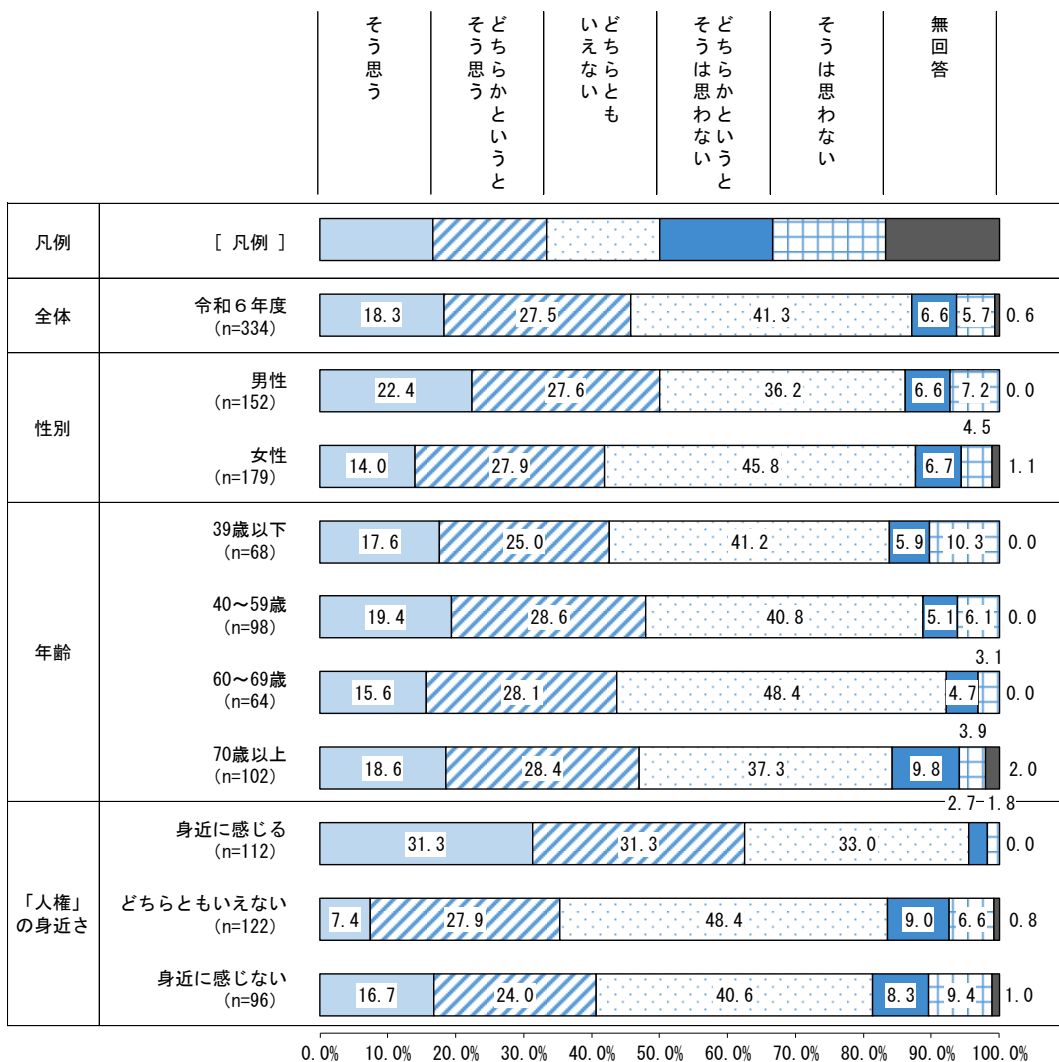
【差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる】



⑦ 差別は法律で禁止する必要がある

<p>【全体】</p> <p>○ 差別は法律で禁止する必要があると思うかについて、「どちらともいえない」が41.3%で最も多く、次いで「どちらかというと思う」が27.5%、「そう思う」が18.3%となっています。「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた“そう思う”は45.8%となっています。</p> <p>【性別】</p> <p>○ 男性では、「そう思う」が22.4%と、女性の14.0%に比べて多くなっています。</p> <p>○ 女性では、男性に比べて「どちらともいえない」が多くなっています。</p> <p>【「人権」の身近さ】</p> <p>○ 身近に感じる人では、「そう思う」が31.3%と、他の区分に比べて多く、“そう思う”は62.6%となっています。</p>

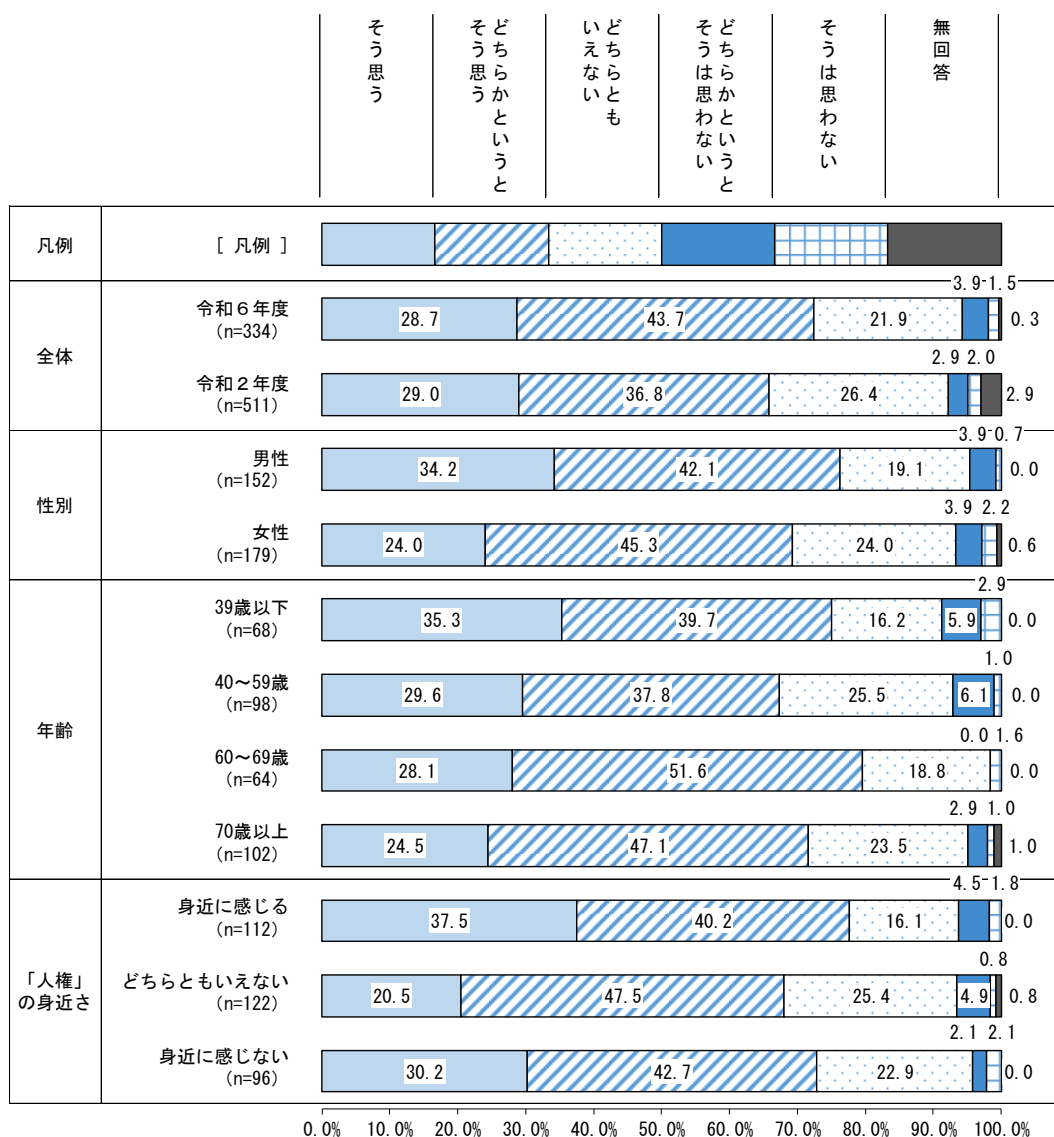
【差別は法律で禁止する必要がある】



⑧ 自分の権利ばかり主張して、他人の権利を尊重しない人が増えている

- 【全体】**
- 自分の権利ばかり主張して、他人の権利を尊重しない人が増えていると思うかについて、「どちらかというと思う」が43.7%で最も多く、次いで「そう思う」が28.7%、「どちらともいえない」が21.9%となっています。「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた“そう思う”は72.4%となっています。
 - 令和2年度調査と比べると、「どちらかというと思う」が6.9ポイント多くなっており、“そう思う”が6.6ポイント多くなっています。
- 【性別】**
- 男性では、「そう思う」が34.2%と、女性の24.0%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
- 39歳以下では、「そう思う」が35.3%と他の年齢層に比べて多くなっています。また、年齢層が下がるにつれて「そう思う」が多くなる傾向が見られます。
 - 60～69歳では、“そう思う”が79.7%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 【「人権」の身近さ】**
- 身近に感じる人では、「そう思う」が37.5%と他の区分に比べて多くなっています。

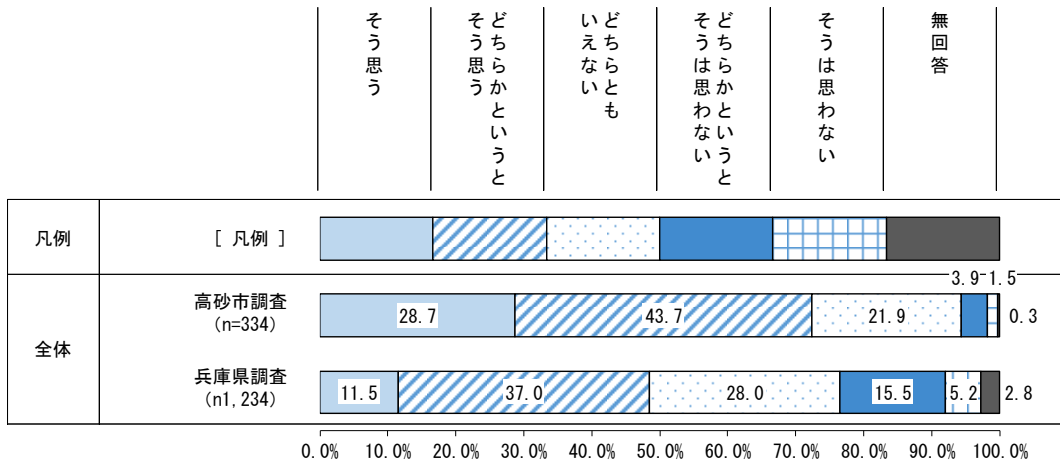
【自分の権利ばかり主張して、他人の権利を尊重しない人が増えている】



【全体】

○ 兵庫県調査と比べると、「そう思う」が17.2ポイント多く、「そう思う」が23.9ポイント多くなっています。

【自分の権利ばかり主張して、他人の権利を尊重しない人が増えている】

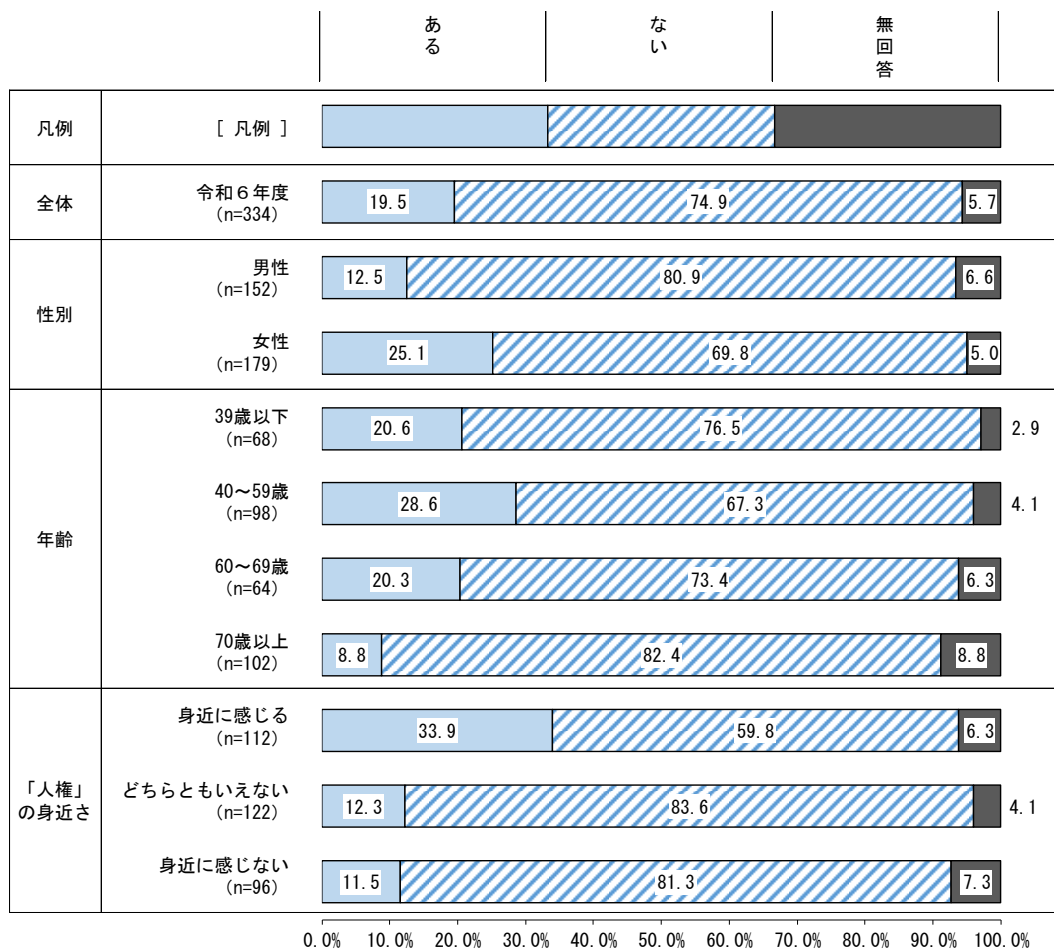


※兵庫県調査…「強くそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そうは思わない」「全く思わない」

Q2-4 あなたは、過去5年間で自己的人権が侵害されたと感じたことがありますか。(○は1つ)

- 【全体】**
 ○ 人権侵害の経験について、「ある」が19.5%、「ない」が74.9%となっています。
- 【性別】**
 ○ 女性では、「ある」が25.1%と、男性の12.5%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
 ○ 39歳以下、40～59歳、60～69歳では、「ある」が2割以上となっています。一方、70歳以上では、8.8%と他の年齢層に比べて少なくなっています。
- 【「人権」の身近さ】**
 ○ 身近に感じる人では、「ある」が33.9%と他の区分に比べて多くなっています。

【人権侵害の経験】



※令和2年度調査…「ある」11.0%

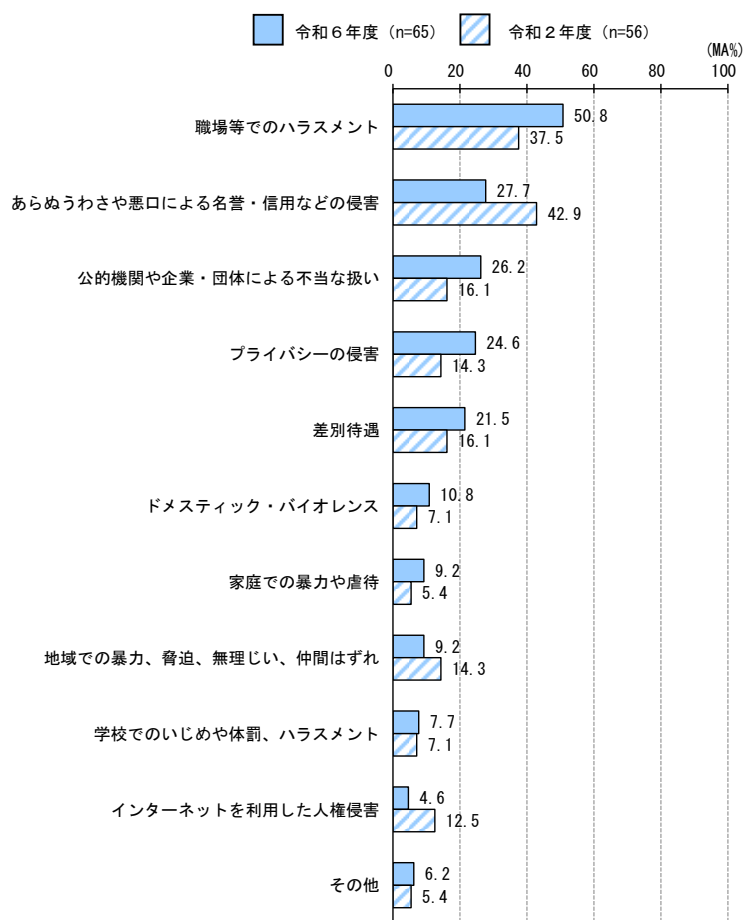
(選択肢に「わからない」があるため比較対象としていません。)

Q2-4-1 [2-4で「ある」と答えた方のみ] それは、どのような人権侵害でしたか。(〇は
いくつでも)

【全体】

- 経験した人権侵害の内容について、「職場等でのハラスメント」が50.8%で最も多く、次いで「あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害」が27.7%、「公的機関や企業・団体による不当な扱い」が26.2%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「職場等でのハラスメント」「公的機関や企業・団体による不当な扱い」「プライバシーの侵害」「差別待遇」が多くなっています。一方、「あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害」「地域での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ」「インターネットを利用した人権侵害」が少なくなっています。

【経験した人権侵害の内容(MA)】



※「職場等でのハラスメント」…令和2年度調査では、「パワー・ハラスメント（職場でのいやがらせやいじめ）」

※「学校でのいじめや体罰、ハラスメント」…令和2年度調査では「学校でのいじめや体罰」

【性別】

○ 男性では、「あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害」が47.4%、女性では、「職場等でのハラスメント」が53.3%で最も多くなっています。

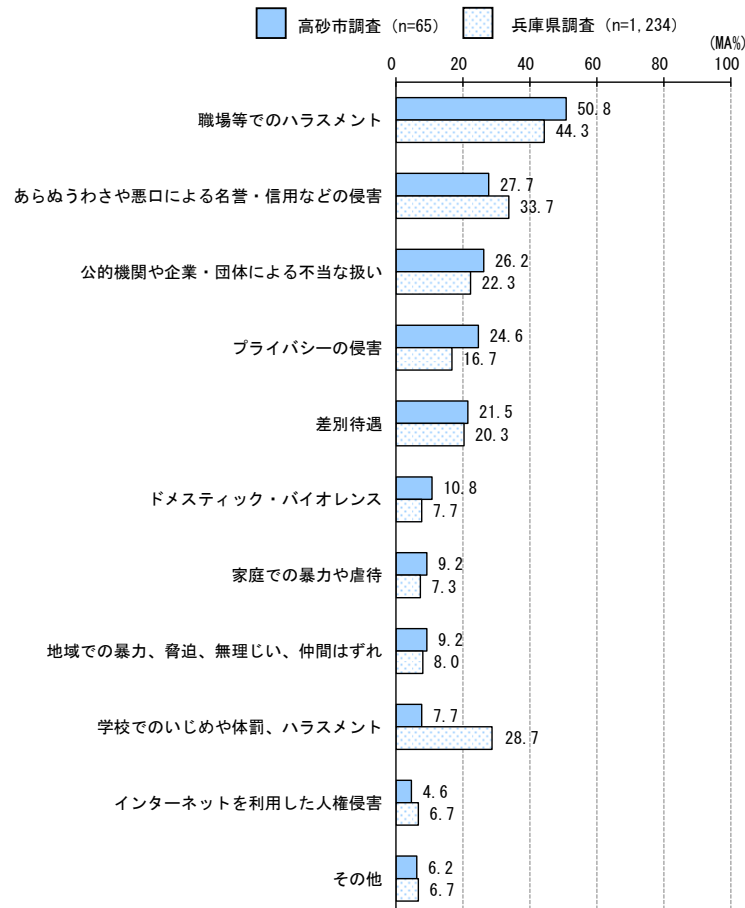
単位：%

	母数 (n)	経験した人権侵害の内容(MA)										
		あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害	公的機関や企業・団体による不当な扱い	地域での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ	職場等でのハラスメント	学校でのいじめや体罰、ハラスメント	家庭での暴力や虐待	ドメスティック・バイオレンス	差別待遇	プライバシーの侵害	インターネットを利用した人権侵害	その他
全体	65	27.7	26.2	9.2	50.8	7.7	9.2	10.8	21.5	24.6	4.6	6.2
性別	男性	19	47.4	36.8	5.3	42.1	15.8	5.3	15.8	31.6	5.3	-
	女性	45	20.0	22.2	11.1	53.3	4.4	11.1	13.3	22.2	4.4	8.9
年齢	39歳以下	14	50.0	21.4	7.1	71.4	14.3	14.3	21.4	21.4	7.1	7.1
	40～59歳	28	17.9	21.4	7.1	60.7	3.6	10.7	21.4	25.0	-	10.7
	60～69歳	13	15.4	38.5	7.7	38.5	7.7	7.7	23.1	15.4	-	-
	70歳以上	9	44.4	33.3	22.2	-	11.1	-	11.1	22.2	44.4	22.2
「人権」の身近さ	身近に感じる	38	34.2	28.9	13.2	44.7	7.9	13.2	13.2	34.2	26.3	7.9
	どちらともいえない	15	13.3	26.7	6.7	60.0	6.7	6.7	6.7	20.0	-	6.7
	身近に感じない	11	27.3	18.2	-	54.5	9.1	-	9.1	27.3	-	9.1

【全体】

○ 兵庫県調査と比べると、「職場等でのハラスメント」「プライバシーの侵害」が多くなっています。一方、「あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害」「学校でのいじめや体罰、ハラスメント」が少なくなっています。

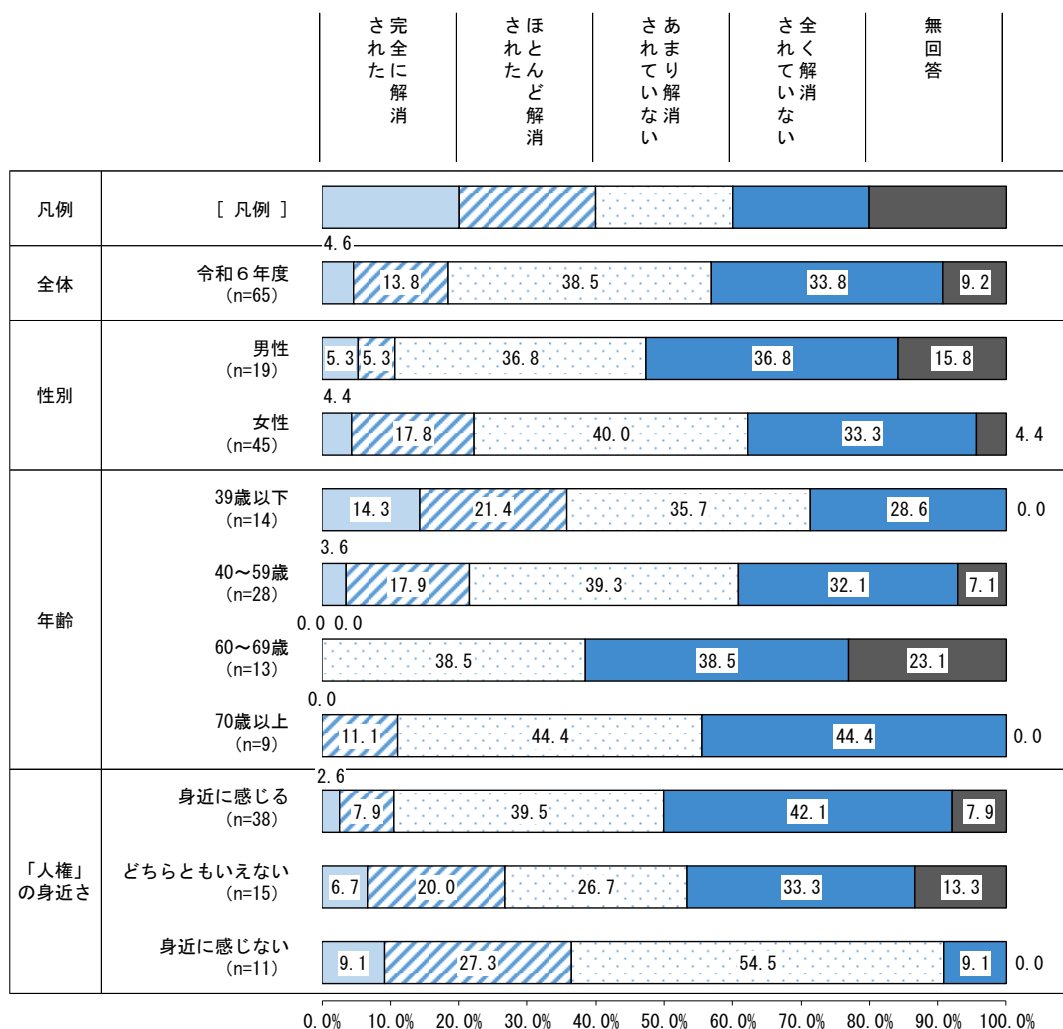
【経験した人権侵害の内容(MA)】



Q2-4-2 [2-4で「ある」と答えた方のみ] 人権侵害はその後、解消されましたか。(〇は1つ)

- 【全体】**
 ○ 経験した人権侵害の解消状況について、「あまり解消されていない」が38.5%で最も多く、次いで「全く解消されていない」が33.8%、「ほとんど解消された」が13.8%となっています。
- 【性別】**
 ○ 「あまり解消されていない」「全く解消されていない」は男性と女性で差は見られませんが、男性では無回答が多く、「完全に解消された」「ほとんど解消された」がそれぞれ5.3%と少なくなっています。
- 【「人権」の身近さ】**
 ○ 身近に感じる人では、「全く解消されていない」が42.1%で最も多く、次いで「あまり解消されていない」が39.5%となっています。「完全に解消された」は2.6%となっています。

【経験した人権侵害の解消状況】



【経験した人権侵害の内容】

- あまり解消されていない、全く解消されていない人を見ると、特に「職場等でのハラスメント」「差別待遇」「プライバシーの侵害」が多くなっています。

単位：%

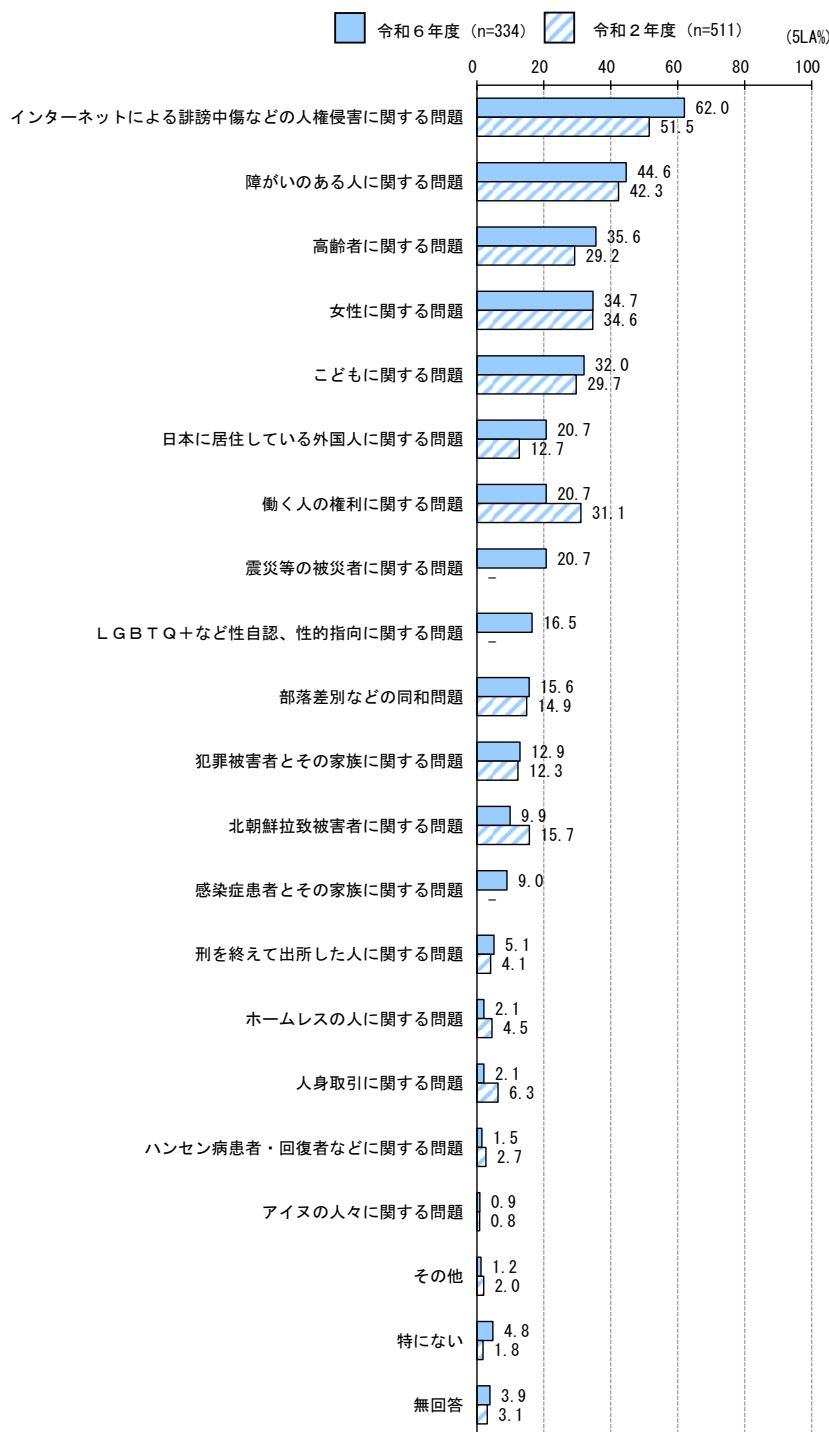
	母数 (n)	経験した人権侵害の内容(MA)										
		あらゆる名誉・信用などの侵害	公的機関や企業・団体による不当な扱い	地域での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ	職場等でのハラスメント	学校でのいじめや体罰、ハラスメント	家庭での暴力や虐待	ドメスティック・バイオレンス	差別待遇	プライバシーの侵害	インターネットを利用した人権侵害	その他
全体	65	27.7	26.2	9.2	50.8	7.7	9.2	10.8	21.5	24.6	4.6	6.2
経験した人権侵害の解消状況	完全に解消された	3	66.7	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3
	ほとんど解消された	9	33.3	22.2	11.1	55.6	-	-	-	11.1	-	11.1
	あまり解消されていない	25	32.0	36.0	12.0	44.0	20.0	12.0	20.0	40.0	8.0	4.0
全く解消されていない	22	22.7	22.7	9.1	59.1	-	9.1	13.6	36.4	18.2	4.5	4.5

Q2-5 日本の社会には、人権にかかわるいろいろな問題がありますが、あなたが特に関心をお持ちのものをあげてください。(〇は5つまで)

【全体】

- 関心のある人権問題について、「インターネットによる誹謗中傷などの人権侵害に関する問題」が62.0%で最も多く、次いで「障がいのある人に関する問題」が44.6%、「高齢者に関する問題」が35.6%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「インターネットによる誹謗中傷などの人権侵害に関する問題」「高齢者に関する問題」「日本に居住している外国人に関する問題」が多く、「働く人の権利に関する問題」「北朝鮮拉致被害者に関する問題」が少なくなっています。

【関心のある人権問題(5LA)】



※今回調査で選択肢を整理したため、令和2年度調査と同一の選択肢のみ比較対象としています。

【性別】

- 男女ともに「インターネットによる誹謗中傷などの人権侵害に関する問題」が最も多くなっています。
- 男性では、次いで「障がいのある人に関する問題」が53.3%、女性では、「女性に関する問題」が43.0%で多くなっています。

【年齢】

- いずれの年齢層でも「インターネットによる誹謗中傷などの人権侵害に関する問題」が最も多くなっています。
- 39歳以下、40～59歳では、次いで「女性に関する問題」「障がいのある人に関する問題」が多くなっています。
- 60～69歳、70歳以上では、次いで「障がいのある人に関する問題」「高齢者に関する問題」が多くなっています。
- 「LGBTQ+など性自認、性的指向に関する問題」は、39歳以下では35.3%、40～59歳では21.4%となっている一方、60～69歳、70歳以上では1割未満となっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じる人では、「インターネットによる誹謗中傷などの人権侵害に関する問題」に次いで「障がいのある人に関する問題」が60.7%と他の区分に比べて多くなっています。

単位：%

	母数 (n)	関心のある人権問題(5LA)											
		女性に関する問題	こどもに関する問題	高齢者に関する問題	障がいのある人に関する問題	部落差別などの同和問題	外国人に居住している問題	感染症患者とその家族に関する問題	復讐者などに病害者・回復者に関する問題	犯罪被害者とその家族に関する問題	自認、性的指向に関する問題	LGBTQ+に関する問題	インターネットによる誹謗中傷などの問題
全体	334	34.7	32.0	35.6	44.6	15.6	20.7	9.0	1.5	12.9	16.5	62.0	
性別	男性	152	25.7	27.0	39.5	53.3	19.1	27.6	7.9	2.6	11.2	17.1	59.2
	女性	179	43.0	36.9	33.0	36.9	12.8	14.5	8.9	0.6	14.0	16.2	64.8
年齢	39歳以下	68	48.5	44.1	20.6	47.1	7.4	27.9	4.4	2.9	14.7	35.3	67.6
	40～59歳	98	40.8	29.6	27.6	43.9	17.3	20.4	12.2	-	17.3	21.4	62.2
	60～69歳	64	35.9	32.8	45.3	54.7	17.2	14.1	10.9	3.1	3.1	6.3	64.1
	70歳以上	102	19.6	26.5	48.0	37.3	18.6	19.6	6.9	1.0	12.7	5.9	57.8
「人権」の身近さ	身近に感じる	112	45.5	33.9	34.8	60.7	17.9	23.2	7.1	1.8	11.6	20.5	63.4
	どちらともいえない	122	36.1	36.9	41.0	32.8	15.6	14.8	9.8	1.6	12.3	14.8	64.8
	身近に感じない	96	21.9	25.0	31.3	40.6	13.5	24.0	9.4	1.0	13.5	14.6	58.3

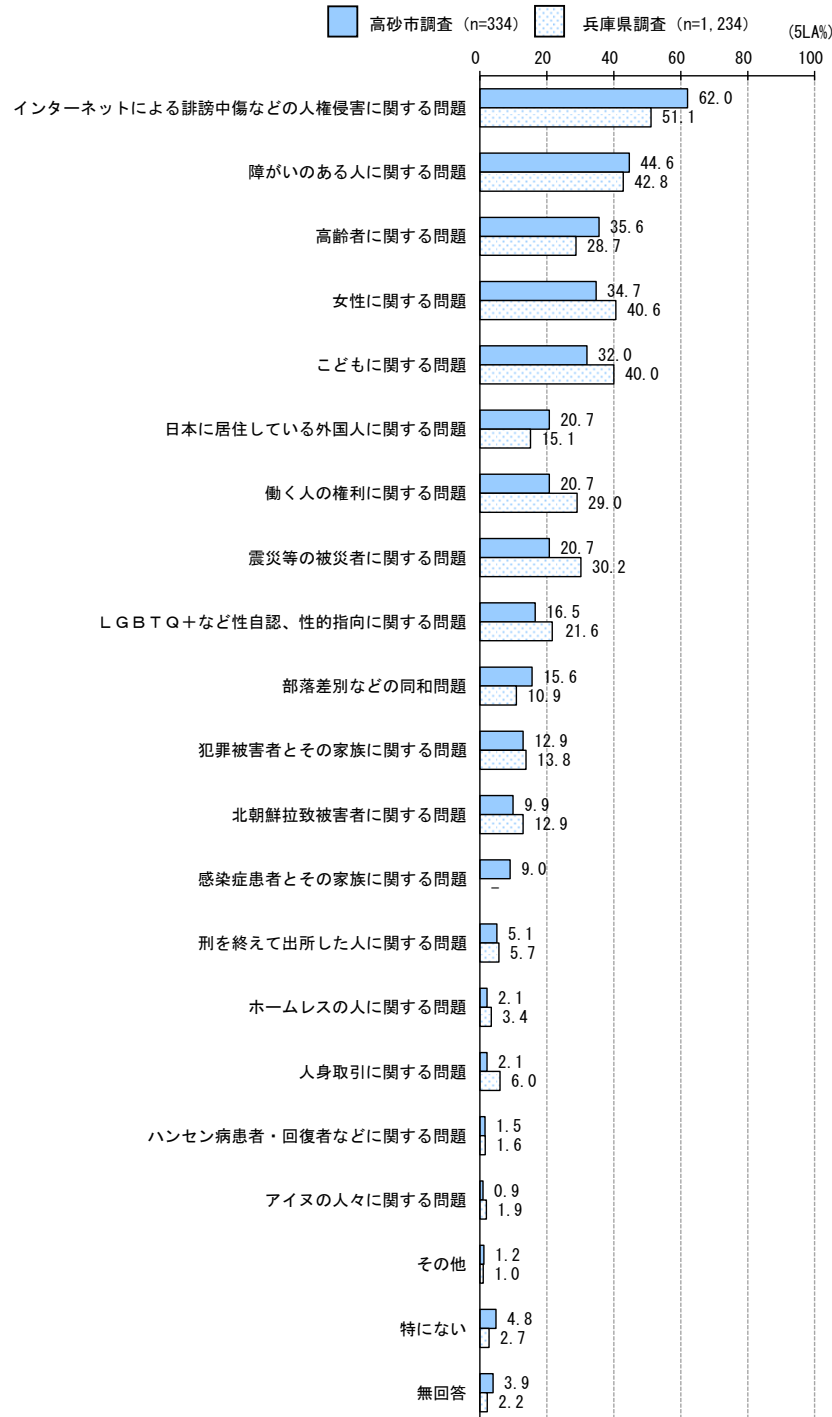
単位：%

	母数 (n)	関心のある人権問題(5LA)										
		ホームレスの人に関する問題	北朝鮮拉致被害者に関する問題	刑を終えて出所した人に関する問題	アイヌの人々に関する問題	人身取引に関する問題	働く人の権利に関する問題	震災等の被災者に関する問題	その他	特になし	無回答	
全体	334	2.1	9.9	5.1	0.9	2.1	20.7	20.7	1.2	4.8	3.9	
性別	男性	152	3.9	5.3	5.9	1.3	2.0	26.3	25.0	0.7	5.3	0.7
	女性	179	0.6	14.0	3.9	0.6	2.2	15.6	16.8	1.7	4.5	6.1
年齢	39歳以下	68	2.9	2.9	8.8	-	1.5	32.4	16.2	-	4.4	-
	40～59歳	98	2.0	2.0	3.1	1.0	2.0	22.4	17.3	2.0	3.1	7.1
	60～69歳	64	1.6	17.2	4.7	3.1	1.6	17.2	21.9	3.1	1.6	4.7
	70歳以上	102	2.0	17.6	3.9	-	2.9	13.7	26.5	-	8.8	2.0
「人権」の身近さ	身近に感じる	112	3.6	6.3	6.3	-	1.8	24.1	18.8	2.7	1.8	4.5
	どちらともいえない	122	2.5	13.1	3.3	2.5	1.6	15.6	21.3	-	3.3	5.7
	身近に感じない	96	-	9.4	5.2	-	1.0	22.9	21.9	-	10.4	-

【全体】

- 兵庫県調査と比べると、「インターネットによる誹謗中傷などの人権侵害に関する問題」「高齢者に関する問題」「日本に居住している外国人に関する問題」が多くなっています。一方、「女性に関する問題」「子どもに関する問題」「働く人の人権に関する問題」「震災等の被災者に関する問題」「LGBTQ+など性自認、性的指向に関する問題」が少なくなっています。

【関心のある人権問題(5LA)】



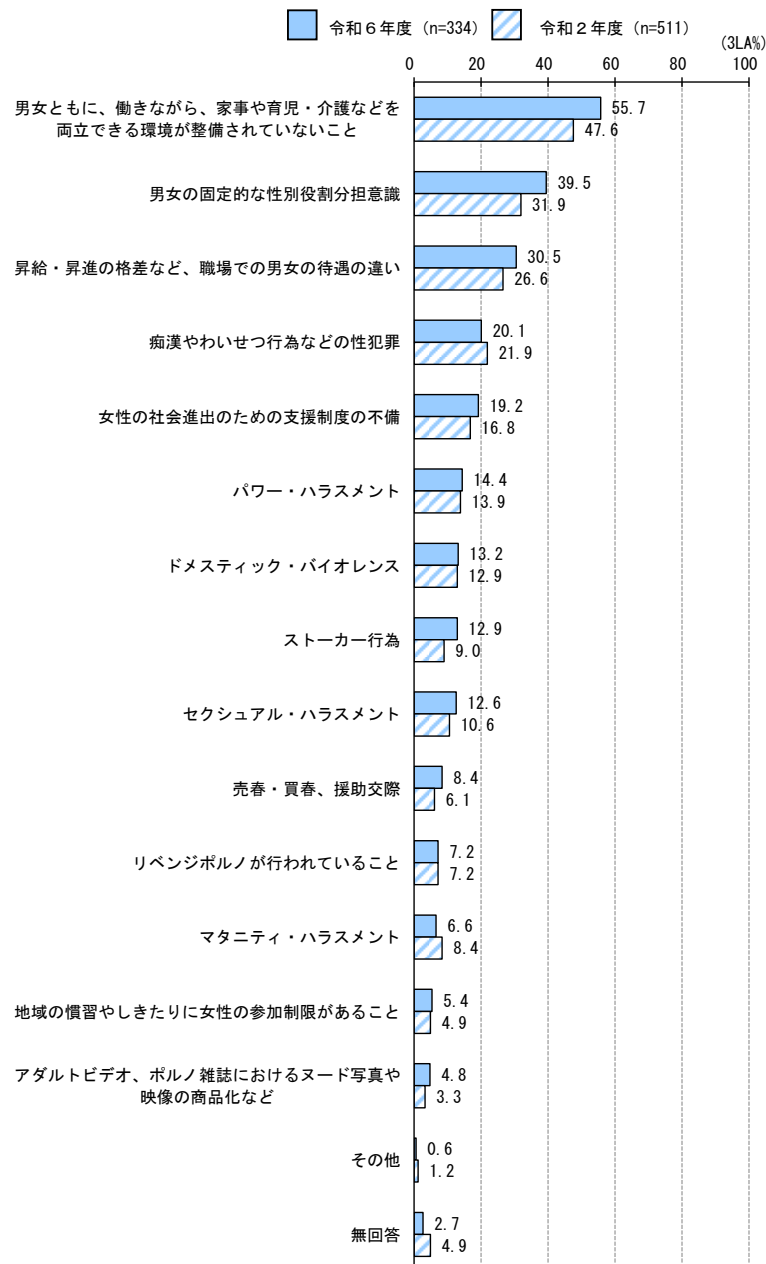
(3) 各分野の人権問題について

Q3-1 女性に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 女性に関する人権問題について、「男女ともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」が55.7%で最も多く、次いで「男女の固定的な性別役割分担意識」が39.5%、「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」が30.5%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「男女ともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」「男女の固定的な性別役割分担意識」が多くなっています。一方、大幅に少なくなっている項目は見られません。

【女性に関する人権問題(3LA)】



【性別】

- 男女ともに、「男女ともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」が最も多くなっています。
- 男性では、次いで「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」が35.5%と女性に比べて多く、一方、女性では、次いで「男女の固定的な性別役割分担意識」が43.6%と男性に比べて多くなっています。

【年齢】

- 39歳以下、40～59歳、60～69歳では、「男女の固定的な性別役割分担意識」が約4割となっています。一方、70歳以上では、「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」が37.3%、「女性の社会進出のための支援制度の不備」が24.5%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 「セクシュアル・ハラスメント」は、年齢が下がるにつれて多くなる傾向が見られ、39歳以下では23.5%となっています。

【「人権」の身近さ】

- 「人権」を身近に感じるほど「ドメスティック・バイオレンス」が多くなる傾向が見られます。

単位：％

		母数 (n)	女性に関する人権問題(3LA)							
			男女の 固定的な 性別役割 分担意識	職場での 昇給・昇進 の男女の 待遇の違 い	女性の社 会進出の ための支 援制度の 不備	働きなが ら、家事 や育児・ 介護が できない 環境が整 っていない こと	男女とも に、働か ないこと を両立す る環境が 整わない こと	地域での 参加や制 限がある こと	レムステ ィック・ バイオ	セクシ ュアル・ ハラスメ ン
全体		334	39.5	30.5	19.2	55.7	5.4	13.2	12.6	6.6
性別	男性	152	34.9	35.5	21.7	53.3	5.9	10.5	17.1	5.3
	女性	179	43.6	26.8	17.3	58.1	5.0	15.1	8.4	7.8
年齢	39歳以下	68	44.1	23.5	17.6	57.4	4.4	13.2	23.5	8.8
	40～59歳	98	39.8	32.7	17.3	57.1	6.1	15.3	15.3	7.1
	60～69歳	64	43.8	25.0	15.6	53.1	3.1	14.1	9.4	3.1
	70歳以上	102	34.3	37.3	24.5	55.9	6.9	9.8	3.9	6.9
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	36.6	33.9	17.9	57.1	7.1	17.9	14.3	8.0
	どちらともいえない	122	40.2	28.7	21.3	54.9	4.1	13.9	9.8	6.6
	身近に感じない	96	42.7	30.2	17.7	56.3	5.2	6.3	13.5	5.2

単位：％

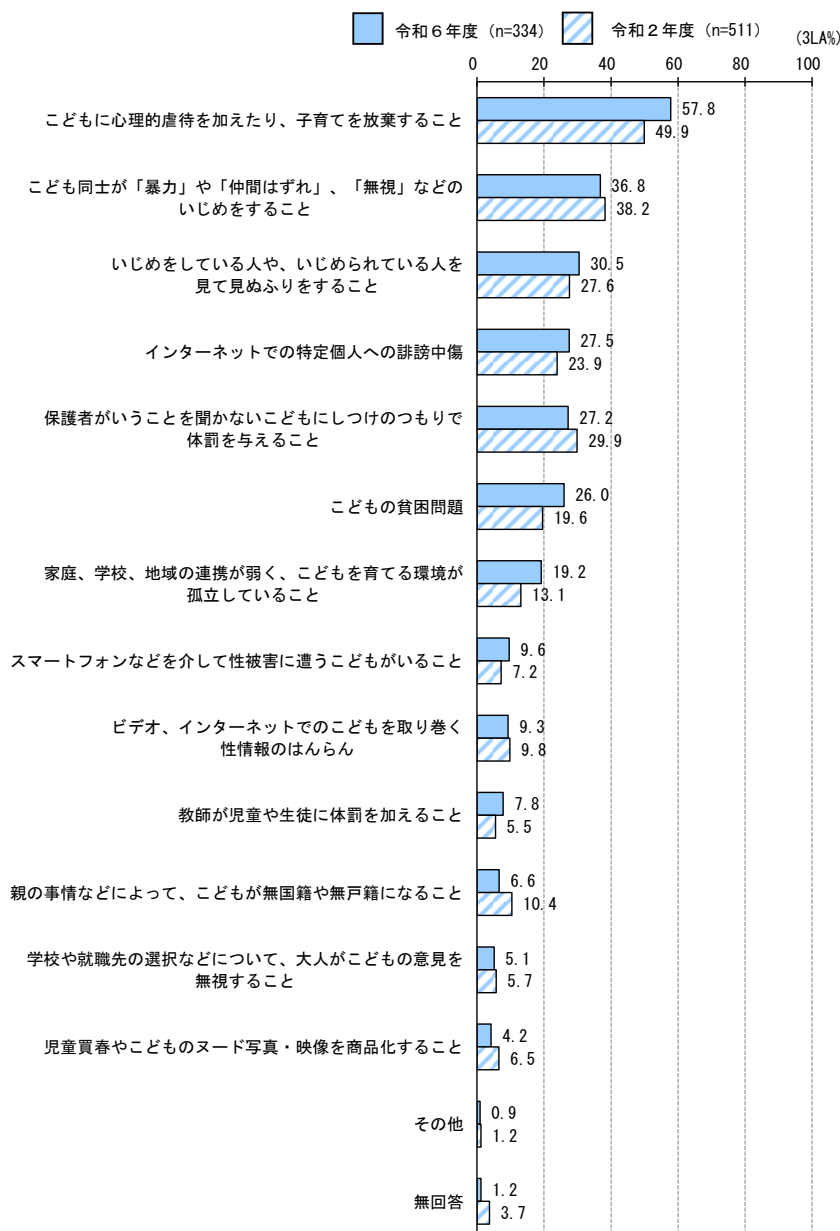
		母数 (n)	女性に関する人権問題(3LA)							
			パワ ー・ハ ラスメン ト	スト ーカ ー行 為	売 春・ 買 春、 援 助交 際	や雑 誌・ 映像 にお ける 商品 化な ど	アド ル トビ デオ 、ポ ル ノ	てリ ベン ジ ボ ル ノ が 行 わ れ	痴 漢 やわ いせ つ 行 為 な ど	そ の 他
全体		334	14.4	12.9	8.4	4.8	7.2	20.1	0.6	2.7
性別	男性	152	11.2	14.5	10.5	2.6	4.6	18.4	0.7	3.3
	女性	179	16.8	11.2	6.7	6.7	8.4	21.2	0.6	2.2
年齢	39歳以下	68	8.8	14.7	10.3	2.9	2.9	27.9	1.5	-
	40～59歳	98	18.4	13.3	8.2	6.1	10.2	16.3	-	1.0
	60～69歳	64	18.8	14.1	12.5	7.8	7.8	25.0	-	3.1
	70歳以上	102	10.8	10.8	4.9	2.9	4.9	14.7	1.0	5.9
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	15.2	14.3	10.7	5.4	7.1	16.1	1.8	1.8
	どちらともいえない	122	13.1	13.9	6.6	4.9	5.7	23.8	-	2.5
	身近に感じない	96	14.6	10.4	8.3	4.2	6.3	18.8	-	4.2

Q3-2 こどもに関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

【全体】

- こどもに関する人権問題について、「こどもに心理的虐待を加えたり、子育てを放棄すること」が57.8%で最も多く、次いで「こども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをすること」が36.8%、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること」が30.5%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「こどもに心理的虐待を加えたり、子育てを放棄すること」「こどもの貧困問題」「家庭、学校、地域の連携が弱く、こどもを育てる環境が孤立していること」が多くなっています。一方、大幅に少なくなっている項目は見られません。

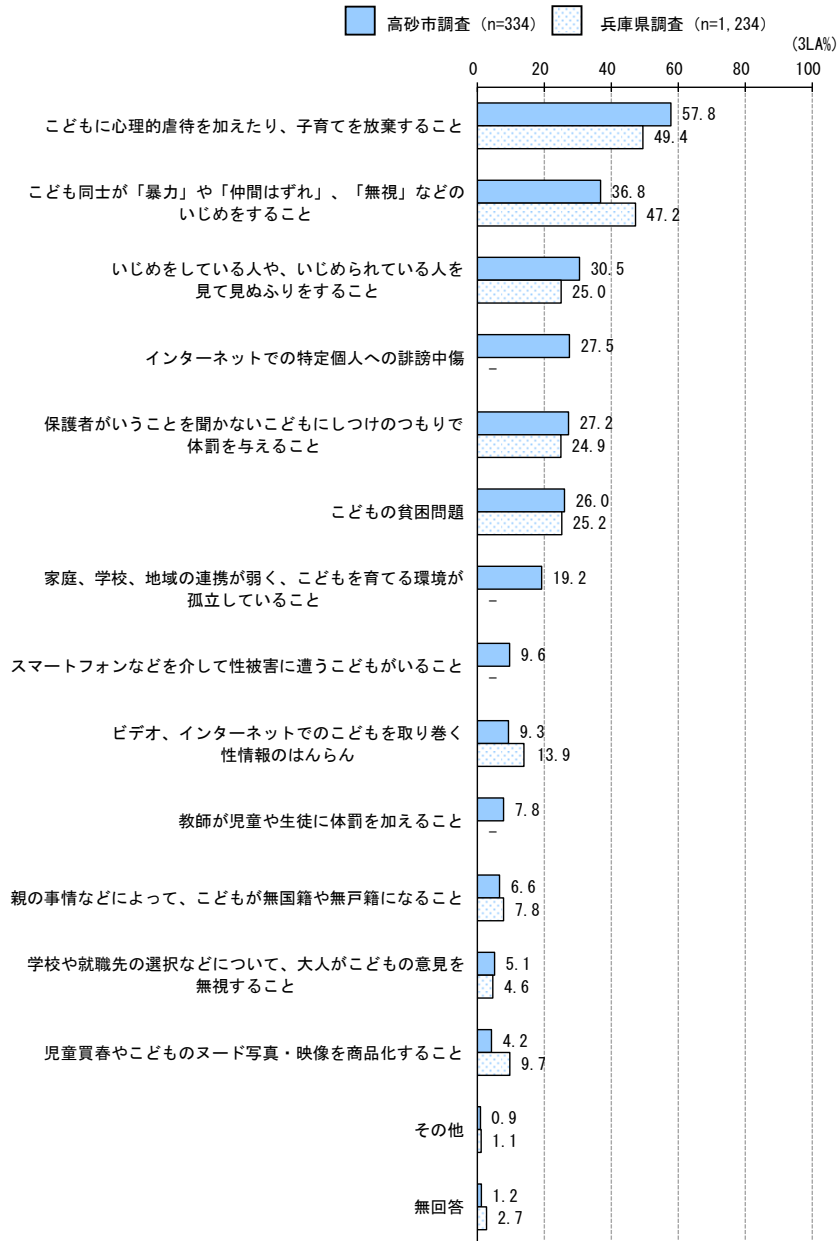
【こどもに関する人権問題(3LA)】



【全体】

- 兵庫県調査と比べると、「子どもに心理的虐待を加えたり、子育てを放棄すること」「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」が多くなっています。一方、「子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをすること」が少なくなっています。

【子どもに関する人権問題(3LA)】

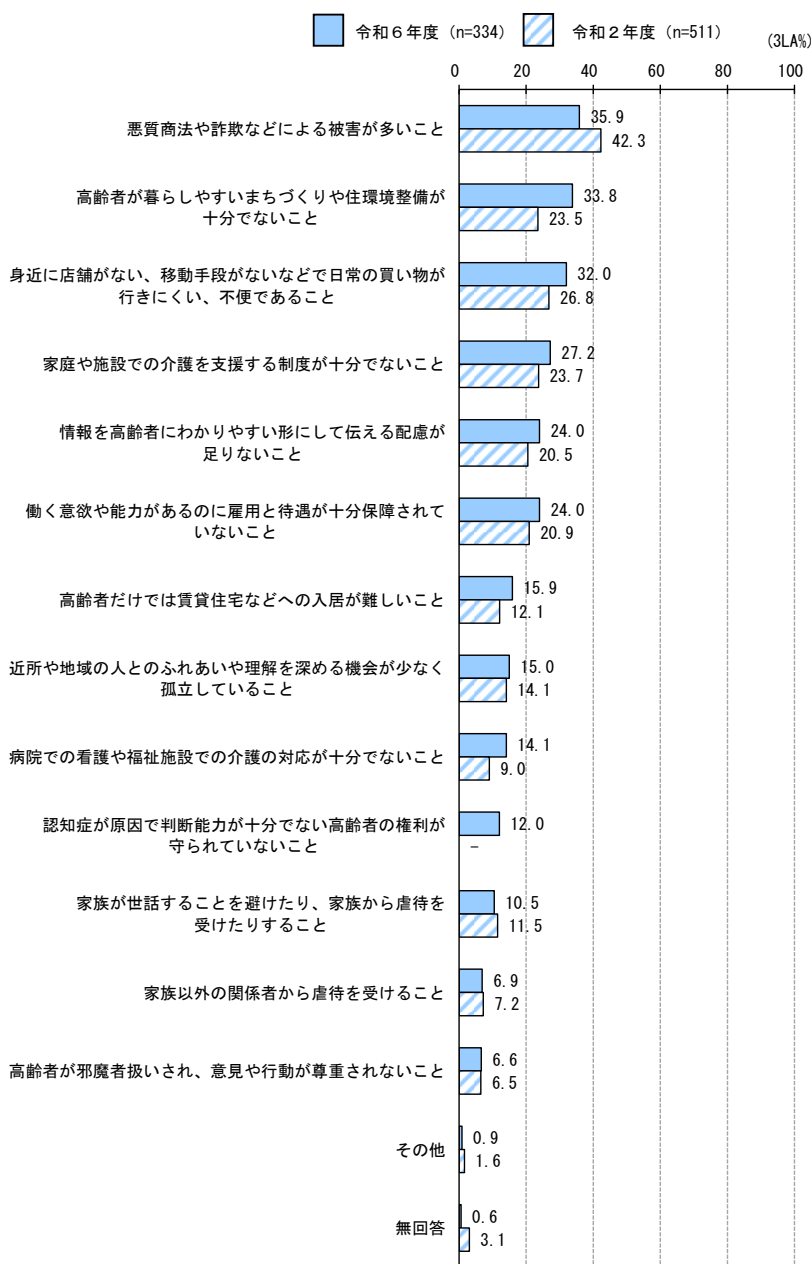


Q3-3 高齢者に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 高齢者に関する人権問題について、「悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと」が35.9%で最も多く、次いで「高齢者が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」が33.8%、「身近に店舗がない、移動手段がないなどで日常の買い物が行きにくい、不便であること」が32.0%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「高齢者が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」「身近に店舗がない、移動手段がないなどで日常の買い物が行きにくい、不便であること」「病院での看護や福祉施設での介護の対応が十分でないこと」が多くなっています。一方、「悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと」が少なくなっています。

【高齢者に関する人権問題(3LA)】



※「認知症が原因で判断能力が十分でない高齢者の権利が守られていないこと」は今回調査より追加。

【性別】

- 男性では、「悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと」が41.4%、女性では、「身近に店舗がない、移動手段がないなどで日常の買い物が行きにくい、不便であること」が40.2%で最も多くなっています。
- 男性では、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと」が女性に比べて多く、女性では、「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」が男性に比べて多くなっています。

【年齢】

- 60～69歳では、「高齢者が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」が48.4%で最も多く、他の年齢層に比べても多くなっています。
- 70歳以上では、「悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと」が42.2%で最も多く、次いで「高齢者が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」が36.3%、「身近に店舗がない、移動手段がないなどで日常の買い物が行きにくい、不便であること」が31.4%となっています。
- 40～59歳、60～69歳では、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」が3割以上と他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じる人では、「高齢者が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」が39.3%で最も多く、他の区分に比べても多くなっています。次いで「身近に店舗がない、移動手段がないなどで日常の買い物が行きにくい、不便であること」が32.1%、「悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと」が30.4%となっています。

単位：%

		母数 (n)	高齢者に関する人権問題(3LA)							
			十分でなく なりや暮ら し環境や 整備が	高齢者 の暮らし やすいこ と	働く意 欲や能 力があ る	高齢者 のだけ に居る のが難 しい住 宅	悪質商 法や詐 欺など による	病院の 介護と 対応が 十分で	高齢者 の見や 行動が 重い	近所や 地域の 人との 関係が よくあ る
全体		334	33.8	24.0	15.9	35.9	14.1	6.6	15.0	27.2
性別	男性	152	36.8	27.6	14.5	41.4	16.4	7.2	17.8	28.3
	女性	179	31.8	20.7	16.8	31.3	12.3	6.1	12.8	26.8
年齢	39歳以下	68	23.5	30.9	14.7	36.8	16.2	13.2	19.1	20.6
	40～59歳	98	29.6	28.6	15.3	33.7	15.3	4.1	10.2	33.7
	60～69歳	64	48.4	21.9	17.2	28.1	14.1	4.7	9.4	35.9
	70歳以上	102	36.3	16.7	16.7	42.2	11.8	5.9	20.6	20.6
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	39.3	28.6	17.0	30.4	18.8	5.4	19.6	26.8
	どちらとも いえない	122	34.4	19.7	15.6	35.2	14.8	8.2	10.7	27.9
	身近に感 じない	96	28.1	25.0	15.6	42.7	8.3	6.3	15.6	28.1

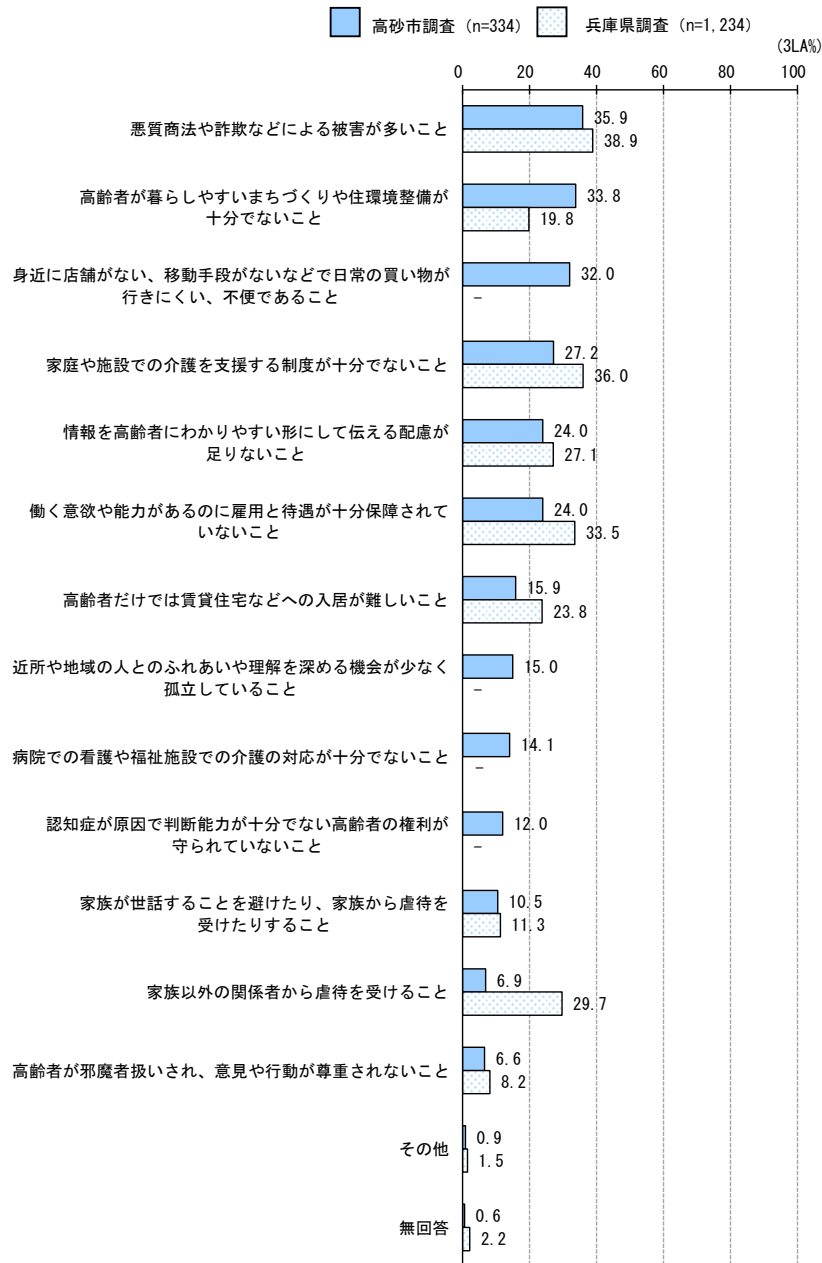
単位：%

		母数 (n)	高齢者に関する人権問題(3LA)						
			十分な 情報を 高齢者 に伝え るか配 慮や	身近に 行か ない	利が認 知され ない	受け家 族がた り、世 話する ことと 虐待を 避	待を族 受以 ける こと と	そ 他	無 回 答
全体		334	24.0	32.0	12.0	10.5	6.9	0.9	0.6
性別	男性	152	18.4	21.1	13.8	11.2	4.6	-	1.3
	女性	179	28.5	40.2	10.6	9.5	8.4	1.7	-
年齢	39歳以下	68	13.2	29.4	13.2	11.8	11.8	1.5	1.5
	40～59歳	98	21.4	33.7	18.4	11.2	10.2	-	1.0
	60～69歳	64	31.3	31.3	12.5	7.8	1.6	1.6	-
	70歳以上	102	28.4	31.4	4.9	9.8	2.9	1.0	-
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	19.6	32.1	15.2	11.6	8.9	-	-
	どちらとも いえない	122	24.6	28.7	12.3	9.8	5.7	1.6	-
	身近に感 じない	96	28.1	33.3	8.3	9.4	5.2	1.0	2.1

【全体】

- 兵庫県調査と比べると、「高齢者が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」が多くなっています。一方、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと」「高齢者だけでは賃貸住宅などへの入居が難しいこと」「家族以外の関係者から虐待を受けること」が少なくなっています。

【高齢者に関する人権問題 (3LA)】



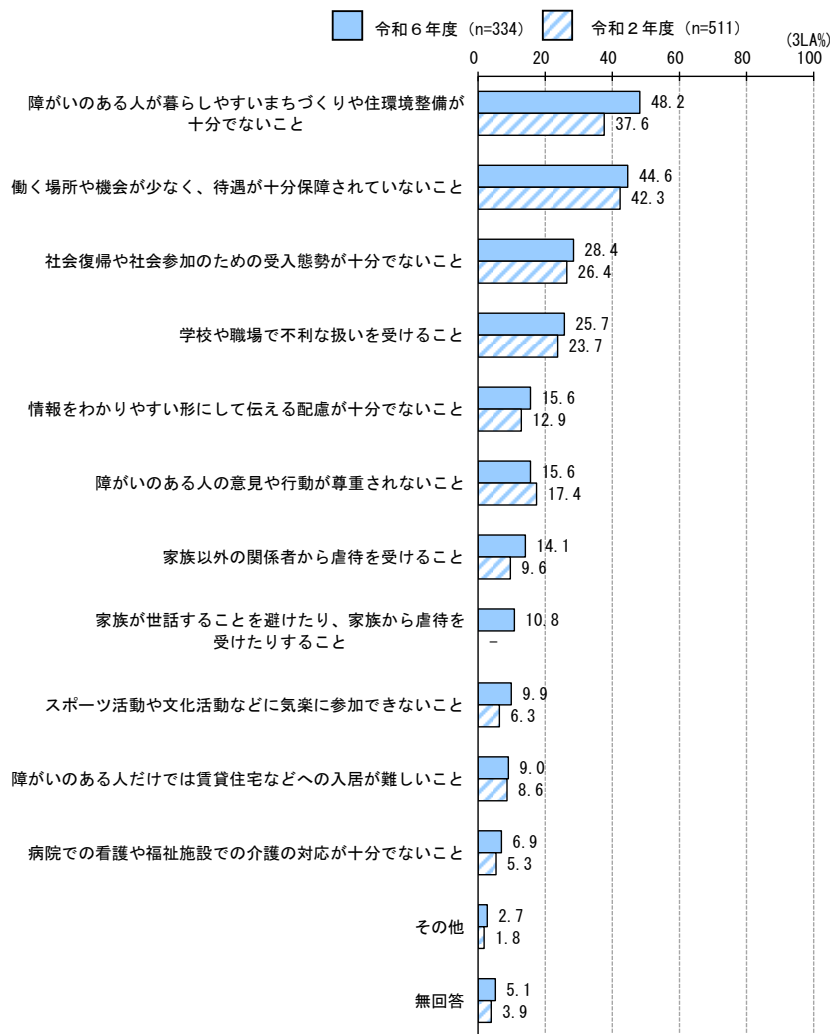
※ 「家族以外の関係者から虐待を受けること」…兵庫県調査では、「病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」

Q3-4 障がいのある人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 障がいのある人に関する人権問題について、「障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」が48.2%で最も多く、次いで「働く場所や機会が少なく、待遇が十分保障されていないこと」が44.6%、「社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと」が28.4%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」が多くなっています。一方、大幅に少なくなっている項目は見られません。

【障がいのある人に関する人権問題(3LA)】



※「家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりすること」は今回調査より追加。

【性別】

- 男性では、「学校や職場で不利な扱いを受けること」が女性に比べて多く、女性では「家族以外の関係者から虐待を受けること」が男性に比べて多くなっています。

【年齢】

- 「障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」は、特に60～69歳、70歳以上で5割以上と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 39歳以下、40～59歳では、「学校や職場で不利な扱いを受けること」「障がいのある人の意見や行動が尊重されないこと」「家族が世話を避けたら、家族から虐待を受けたりすること」「家族以外の関係者から虐待を受けること」が他の年齢層に比べて多くなっています。
- 60～69歳では、「社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと」が他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じる人では、「障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」が52.7%で最も多く、他の区分に比べても多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	障がいのある人に関する人権問題(3LA)						
			境や障 整すが 備いい がまの 十分で なく人 が暮ら しと環 境	てく働 いなく 待場所 がある こと 十分 でなく 人 が暮ら しと環 境	を学 受校 けや 職 場 で 不 利 な 扱 い	難賃障 し賃が い住い こ宅の となあ どる へ人 のだけ 居では が	なで病 いの院 こ介で と護の 対護や が福 入社 分施 設	いなど こと に 気ツ 楽活 動や 参加 文化 活 動	いめ社 この会 と受復 入帰 態や 勢が 参加 十分 加 でな た
全体		334	48.2	44.6	25.7	9.0	6.9	9.9	28.4
性別	男性	152	51.3	44.7	30.9	11.2	7.2	10.5	30.3
	女性	179	45.8	44.7	21.8	7.3	6.7	9.5	27.4
年齢	39歳以下	68	41.2	47.1	39.7	8.8	4.4	8.8	25.0
	40～59歳	98	45.9	45.9	28.6	8.2	6.1	9.2	25.5
	60～69歳	64	53.1	46.9	20.3	6.3	6.3	12.5	39.1
	70歳以上	102	52.9	41.2	17.6	11.8	9.8	9.8	27.5
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	52.7	44.6	27.7	9.8	8.9	8.9	27.7
	どちらともいえない	122	45.1	45.9	24.6	10.7	4.9	8.2	31.1
	身近に感じない	96	47.9	43.8	26.0	6.3	7.3	13.5	27.1

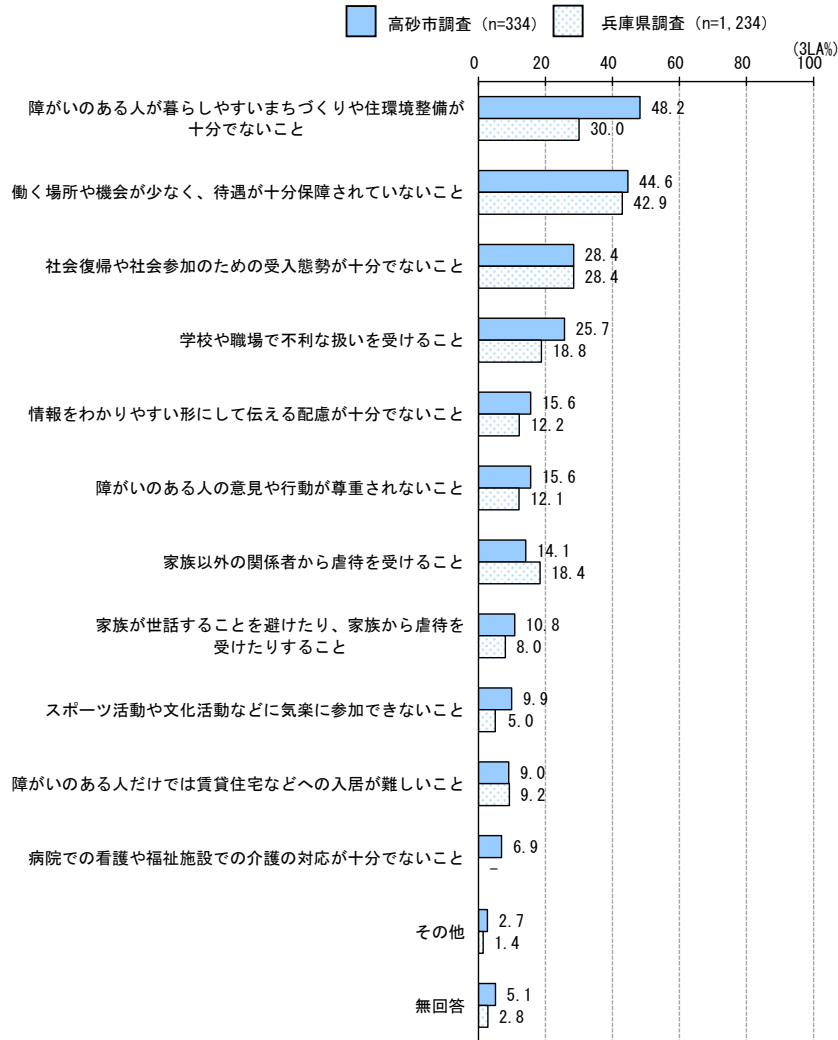
単位：%

		母数 (n)	障がいのある人に関する人権問題(3LA)					無 回 答
			なし情 いて報 こ伝を とえわ るか 配り 慮やす がす 十 分形 でに	行障 動が い 尊の 重あ さる れ人 の 意 見 とや	受け家 族た り 世 話 す る こ ら と 虐 待 を 避	待家 族 を 受 以 外 の 関 係 者 か ら 虐	そ の 他	
全体		334	15.6	15.6	10.8	14.1	2.7	5.1
性別	男性	152	13.2	15.8	11.8	9.9	2.0	5.3
	女性	179	17.3	15.1	10.1	17.3	3.4	5.0
年齢	39歳以下	68	13.2	20.6	14.7	19.1	4.4	2.9
	40～59歳	98	18.4	20.4	13.3	18.4	-	3.1
	60～69歳	64	17.2	12.5	9.4	10.9	4.7	3.1
	70歳以上	102	13.7	8.8	6.9	7.8	2.9	9.8
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	16.1	21.4	11.6	17.9	2.7	1.8
	どちらともいえない	122	18.9	15.6	12.3	13.9	1.6	5.7
	身近に感じない	96	11.5	8.3	8.3	9.4	4.2	8.3

【全体】

- 兵庫県調査と比べると、「障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」「学校や職場で不利な扱いを受けること」が多くなっています。一方、大幅に少ない項目は見られません。

【障がいのある人に関する人権問題(3LA)】

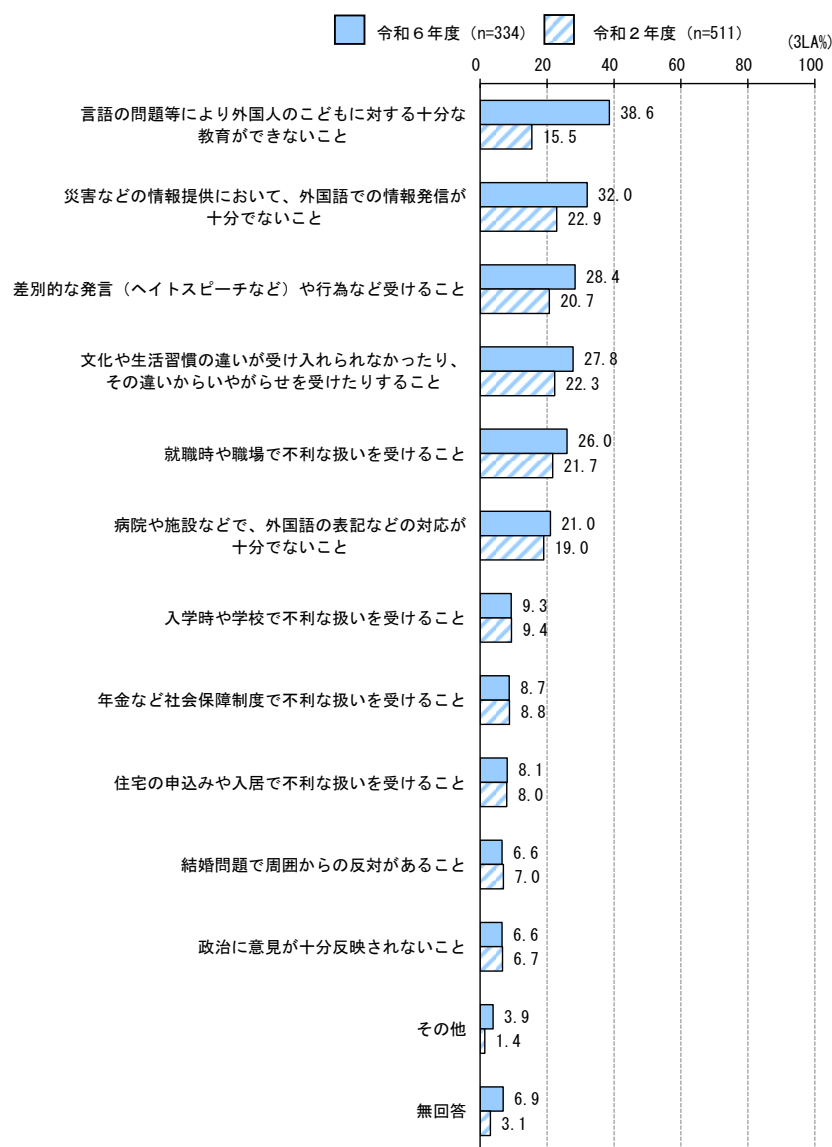


Q3-5 日本に居住している外国人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 外国人に関する人権問題について、「言語の問題等により外国人のこどもに対する十分な教育ができないこと」が38.6%で最も多く、次いで「災害などの情報提供において、外国語での情報発信が十分でないこと」が32.0%、「差別的な発言（ヘイトスピーチなど）や行為など受けること」が28.4%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「言語の問題等により外国人のこどもに対する十分な教育ができないこと」「災害などの情報提供において、外国語での情報発信が十分でないこと」「差別的な発言（ヘイトスピーチなど）や行為など受けること」「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けたりすること」が多くなっています。一方、大幅に少なくなっている項目は見られません。

【外国人に関する人権問題 (3LA)】



【性別】

- 男性では、「言語の問題等により外国人の子どもに対する十分な教育ができないこと」が42.8%で最も多く、女性に比べても多くなっています。
- 女性では、「災害などの情報提供において、外国語での情報発信が十分でないこと」が36.3%で最も多く、男性に比べても多くなっています。

【年齢】

- 「言語の問題等により外国人の子どもに対する十分な教育ができないこと」は、特に60～69歳で他の年齢層に比べて多くなっています。また、「差別的な発言（ヘイトスピーチなど）や行為など受けること」は、特に39歳以下、40～45歳で他の年齢層に比べて多くなっています。
- 60～69歳、70歳以上では、「病院や施設などで、外国語の表記などの対応が十分でないこと」が他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じる人では、「差別的な発言（ヘイトスピーチなど）や行為など受けること」が40.2%と、他の区分に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	外国人に関する人権問題(3LA)						
			い入 学 時 や 学 校 で 不 利 な 扱 い を 受 け る こ と	い就 職 時 や 職 場 で 不 利 な 扱 い を 受 け る こ と	な人 言 語 の こ ど も に 対 す る 十 分 な 教 育 が で き な い こ と	利住 宅 の 申 込 み を 受 け る こ と	不年 金 な ど 社 会 保 障 制 度 で 不 利 な 扱 い を 受 け る こ と	対結 婚 問 題 で 周 圍 か ら の 反 対 が あ る こ と	受差 別 的 な 発 言 （ ヘ イ ト ス ピ ー チ な ど） や 行 為 な ど を 受 け る こ と
全体		334	9.3	26.0	38.6	8.1	8.7	6.6	28.4
性別	男性	152	8.6	27.0	42.8	10.5	7.9	7.2	31.6
	女性	179	10.1	25.7	35.2	6.1	8.9	5.6	26.3
年齢	39歳以下	68	16.2	35.3	35.3	5.9	4.4	7.4	41.2
	40～59歳	98	9.2	27.6	37.8	10.2	7.1	9.2	31.6
	60～69歳	64	12.5	23.4	46.9	4.7	7.8	4.7	25.0
	70歳以上	102	2.9	20.6	37.3	9.8	13.7	4.9	19.6
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	10.7	28.6	42.0	10.7	8.0	5.4	40.2
	どちらともいえない	122	9.8	24.6	37.7	7.4	9.0	6.6	27.0
	身近に感じない	96	7.3	25.0	37.5	5.2	9.4	8.3	17.7

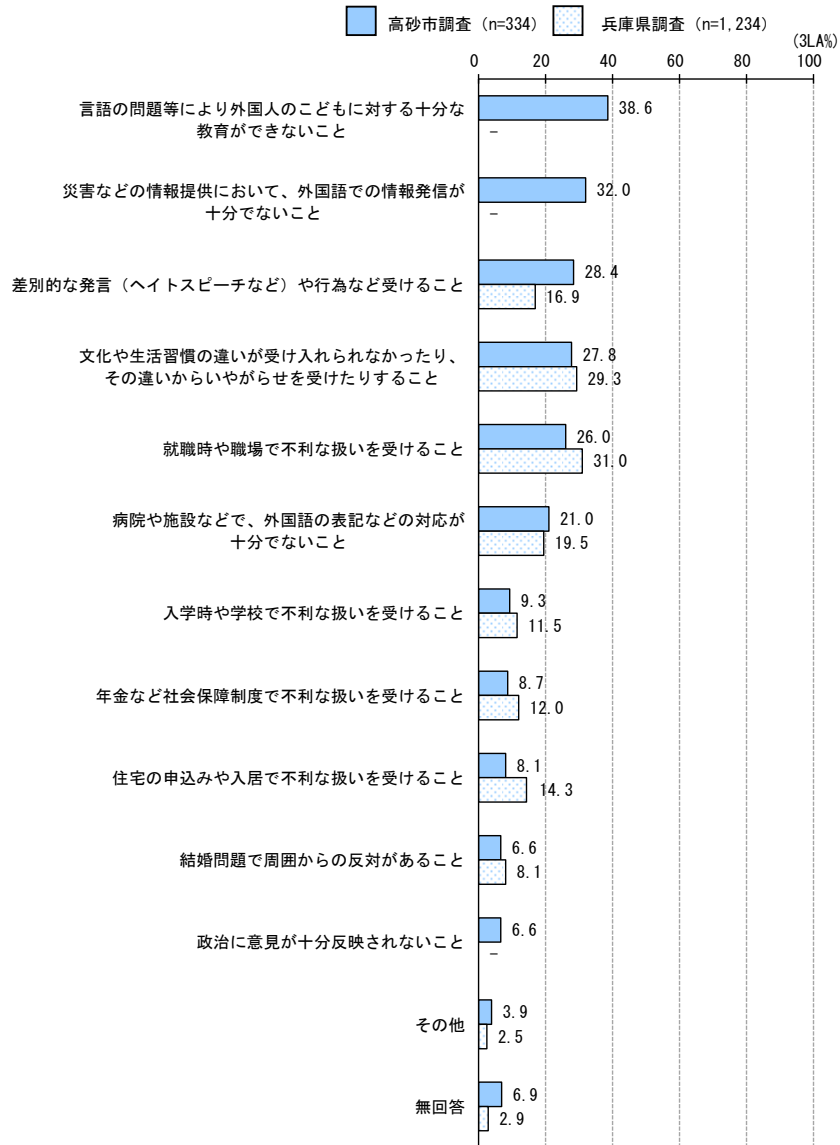
単位：%

		母数 (n)	外国人に関する人権問題(3LA)						
			らり 文 化 や 生 活 習 慣 の 違 い が 受 け ら れ て い る こ と	分語 病 院 や 施 設 な ど で 、 外 国 人 に 対 し て の 対 応 が 十 分 な こ と	信 が 十 分 な 情 報 を 提 供 し て お く こ と	災 害 な ど の 情 報 が 十 分 に 反 映 さ れ て い る こ と	そ の 他	無 回 答	
全体		334	27.8	21.0	32.0	6.6	3.9	6.9	
性別	男性	152	28.9	20.4	27.6	7.2	3.3	4.6	
	女性	179	27.4	21.8	36.3	6.1	4.5	7.8	
年齢	39歳以下	68	39.7	13.2	30.9	5.9	5.9	1.5	
	40～59歳	98	29.6	19.4	29.6	6.1	1.0	5.1	
	60～69歳	64	31.3	26.6	32.8	4.7	3.1	4.7	
	70歳以上	102	16.7	24.5	35.3	8.8	5.9	11.8	
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	33.9	14.3	31.3	10.7	2.7	1.8	
	どちらともいえない	122	32.0	23.8	31.1	5.7	1.6	6.6	
	身近に感じない	96	16.7	25.0	34.4	3.1	8.3	11.5	

【全体】

- 兵庫県調査と比べると、「差別的な発言（ヘイトスピーチなど）や行為など受けること」が多くなっています。一方、「住宅の申込みや入居で不利な扱いを受けること」が少なくなっています。

【外国人に関する人権問題(3LA)】

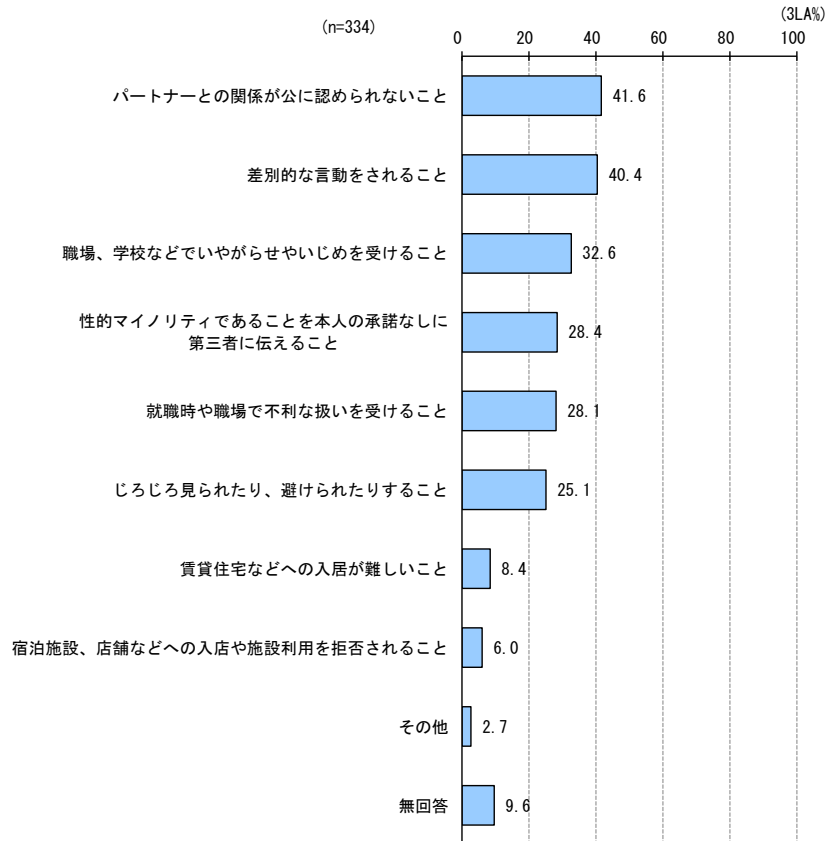


Q3-6 LGBTQ+など性自認、性的指向に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 性自認、性的指向に関する人権問題について、「パートナーとの関係が公に認められないこと」が41.6%で最も多く、次いで「差別的な言動をされること」が40.4%、「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」が32.6%となっています。

【性自認、性的指向に関する人権問題(3LA)】



【性別】

- 男性では、「差別的な言動をされること」が46.7%で最も多く、女性に比べても多くなっています。
- 女性では、「パートナーとの関係が公に認められないこと」が44.7%で最も多く、次いで「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」が35.2%と、いずれも男性に比べても多くなっています。

【年齢】

- 「パートナーとの関係が公に認められないこと」「差別的な言動をされること」は、特に39歳以下で他の年齢層に比べて多くなっています。また、39歳以下では、「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」も他の年齢層に比べて多くなっています。
- 「性的マイノリティであることを本人の承諾なしに第三者に伝えること」は、年齢層が下がるにつれて多くなる傾向が見られます。
- 70歳以上では、「パートナーとの関係が公に認められないこと」が19.6%と他の年齢層に比べて少なくなっています。一方、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が32.4%と他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じる人では、「パートナーとの関係が公に認められないこと」「差別的な言動をされること」が他の年齢層に比べて多くなっています。

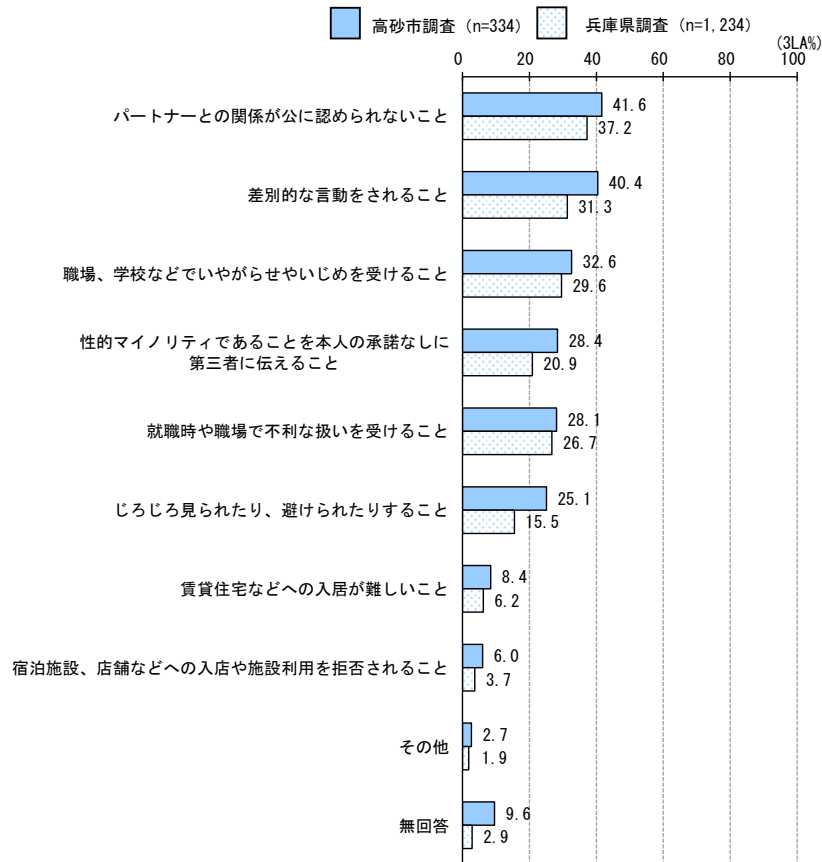
単位：%

		母数 (n)	性自認、性的指向に関する人権問題 (3LA)										
			とら せや いじ めな どを 受け るこ と	職 場、 学 校な どで い やが らせ を受 ける こ と	就 職時 や職 場 で不 利な 扱 いを受 ける こ と	パ ート ナー との 関係 が公 に認 めら れな いこ と	と差 別的 な言 動を され るこ と	難 賃 しい 住宅 など への 入居 が	入 宿 泊施 設、 店 舗な どへ の	け ら ら れ た り 見 ら れ た り す る こ と	第 三 者 に 伝 え る こ と	性 的 マ イ ノ リ テ ィ で あ る こ と	そ の 他
全体		334	32.6	28.1	41.6	40.4	8.4	6.0	25.1	28.4	2.7	9.6	
性別	男性	152	30.3	25.7	38.2	46.7	7.2	5.9	24.3	30.9	3.9	9.9	
	女性	179	35.2	30.7	44.7	34.6	9.5	6.1	25.1	26.3	1.7	9.5	
年齢	39歳以下	68	42.6	20.6	64.7	48.5	7.4	7.4	26.5	39.7	1.5	2.9	
	40～59歳	98	34.7	33.7	49.0	41.8	5.1	5.1	18.4	32.7	1.0	8.2	
	60～69歳	64	31.3	35.9	42.2	39.1	9.4	9.4	20.3	23.4	3.1	9.4	
	70歳以上	102	25.5	23.5	19.6	34.3	11.8	3.9	32.4	19.6	4.9	15.7	
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	36.6	33.0	53.6	48.2	12.5	4.5	19.6	33.0	0.9	4.5	
	どちらともいえない	122	31.1	32.8	36.9	40.2	5.7	7.4	28.7	25.4	-	10.7	
	身近に感じない	96	30.2	17.7	35.4	32.3	7.3	6.3	26.0	27.1	8.3	13.5	

【全体】

- 兵庫県調査と比べると、「差別的な言動をされること」「性的マイノリティであることを本人の承諾なしに第三者に伝えること」「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が多くなっています。一方、大幅に少ない項目は見られません。

【性自認、性的指向に関する人権問題(3LA)】

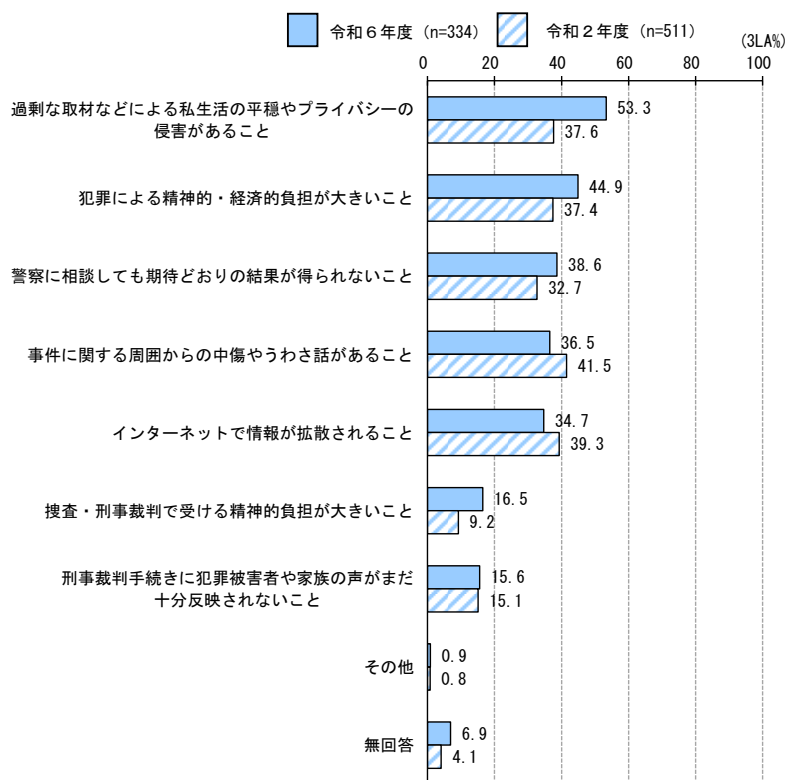


Q3-7 犯罪被害者やその家族の人権侵害について、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 犯罪被害者やその家族に関する人権問題について、「過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること」が53.3%で最も多く、次いで「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」が44.9%、「警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと」が38.6%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること」「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」「警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと」「捜査・刑事裁判で受ける精神的負担が大きいこと」が多くなっています。一方、「事件に関する周囲からの中傷やうわさ話があること」が少なくなっています。

【犯罪被害者やその家族に関する人権問題(3LA)】



【性別】

- 「過剰な取材などによる私生活の平穩やプライバシーの侵害があること」は、特に女性で男性に比べて多くなっています。
- 男性では、「警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと」が女性に比べて多くなっています。
- 女性では、「捜査・刑事裁判で受ける精神的負担が大きいこと」「インターネットで情報が拡散されること」が男性に比べて多くなっています。

【年齢】

- 「過剰な取材などによる私生活の平穩やプライバシーの侵害があること」は、年齢層が下がるにつれて多くなる傾向が見られます。また、「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」は、特に39歳以下で他の年齢層に比べて多くなっています。
- 60～69歳では、「事件に関する周囲からの中傷やうわさ話があること」が他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じるでは、「過剰な取材などによる私生活の平穩やプライバシーの侵害があること」「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」が他の区分に比べて多くなっています。

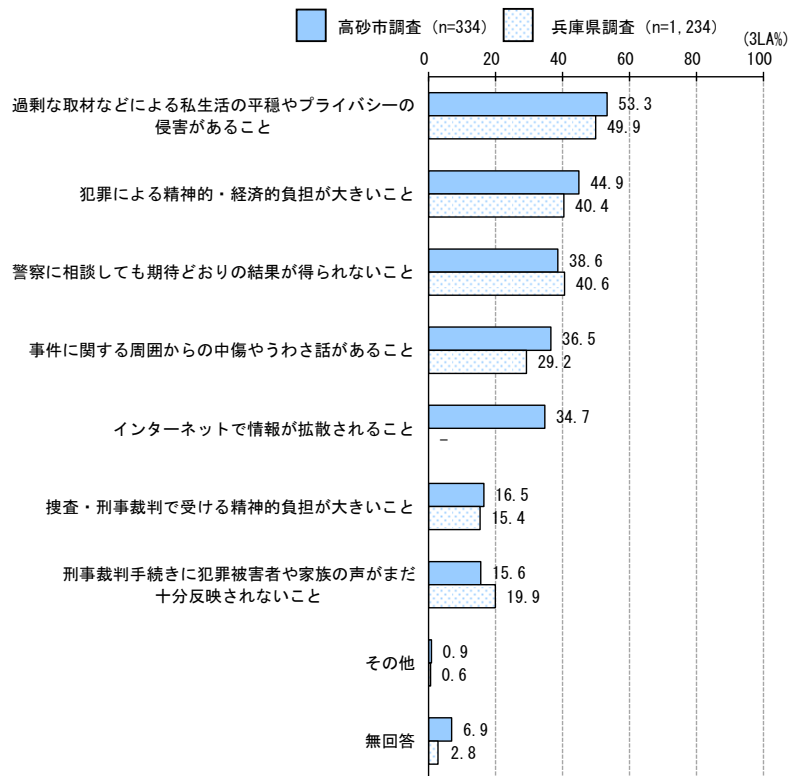
単位：%

		母数 (n)	犯罪被害者やその家族に関する人権問題(3LA)								
			的犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと	こお警との警察に相談して得られない期待など	シ生過剰のな侵害がやあぶらること	と中事傷やにう関わさる話が周が困あからこの	精捜精神的・刑事負担が大きいこと	分害刑事反映され家族の手続きがまだ十被	拡散されること	インターネットで情報が	その他
全体		334	44.9	38.6	53.3	36.5	16.5	15.6	34.7	0.9	6.9
性別	男性	152	46.1	44.7	50.0	37.5	12.5	16.4	30.3	0.7	6.6
	女性	179	44.7	33.5	55.9	35.8	20.1	15.1	38.0	1.1	7.3
年齢	39歳以下	68	54.4	45.6	60.3	36.8	14.7	13.2	38.2	-	2.9
	40～59歳	98	43.9	46.9	57.1	33.7	21.4	13.3	35.7	-	4.1
	60～69歳	64	42.2	40.6	54.7	45.3	14.1	18.8	37.5	-	7.8
	70歳以上	102	42.2	25.5	44.1	34.3	14.7	17.6	28.4	2.9	11.8
「人権」の身近さ	身近に感じる	112	51.8	41.1	58.0	33.0	20.5	20.5	32.1	0.9	2.7
	どちらともいえない	122	47.5	33.6	51.6	37.7	15.6	14.8	34.4	0.8	9.0
	身近に感じない	96	34.4	42.7	49.0	39.6	13.5	11.5	37.5	1.0	9.4

【全体】

○ 兵庫県調査と比べると、「事件に関する周囲からの中傷やうわさ話があること」が多くなっています。一方、大幅に少ない項目は見られません。

【犯罪被害者やその家族に関する人権問題(3LA)】



Q3-8 あなたは、部落差別（同和問題）を知っていますか。（○は1つ）

【全体】

- 部落差別（同和問題）の認知状況について、「どのような問題か知っている」が52.1%で最も多く、次いで「言葉を聞いたことはある」が28.7%、「知らない」が4.8%となっています。

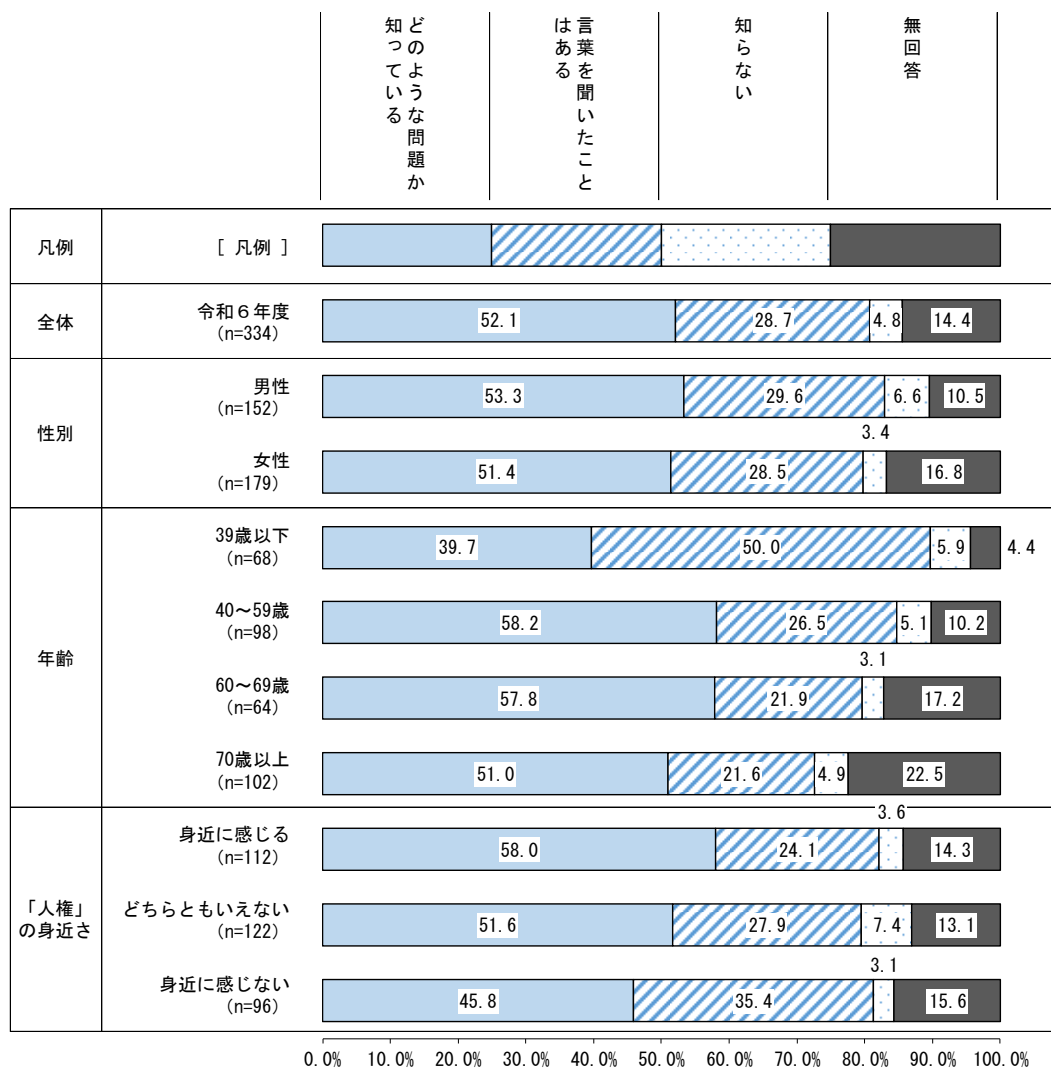
【年齢】

- 40～59歳、60～69歳、70歳以上では、「どのような問題か知っている」が最も多くなっている一方、39歳以下では、「言葉を聞いたことはある」が50.0%で最も多く、次いで「どのような問題か知っている」が39.7%となっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じるほど、「どのような問題か知っている」が多くなる傾向が見られます。

【部落差別（同和問題）の認知状況】

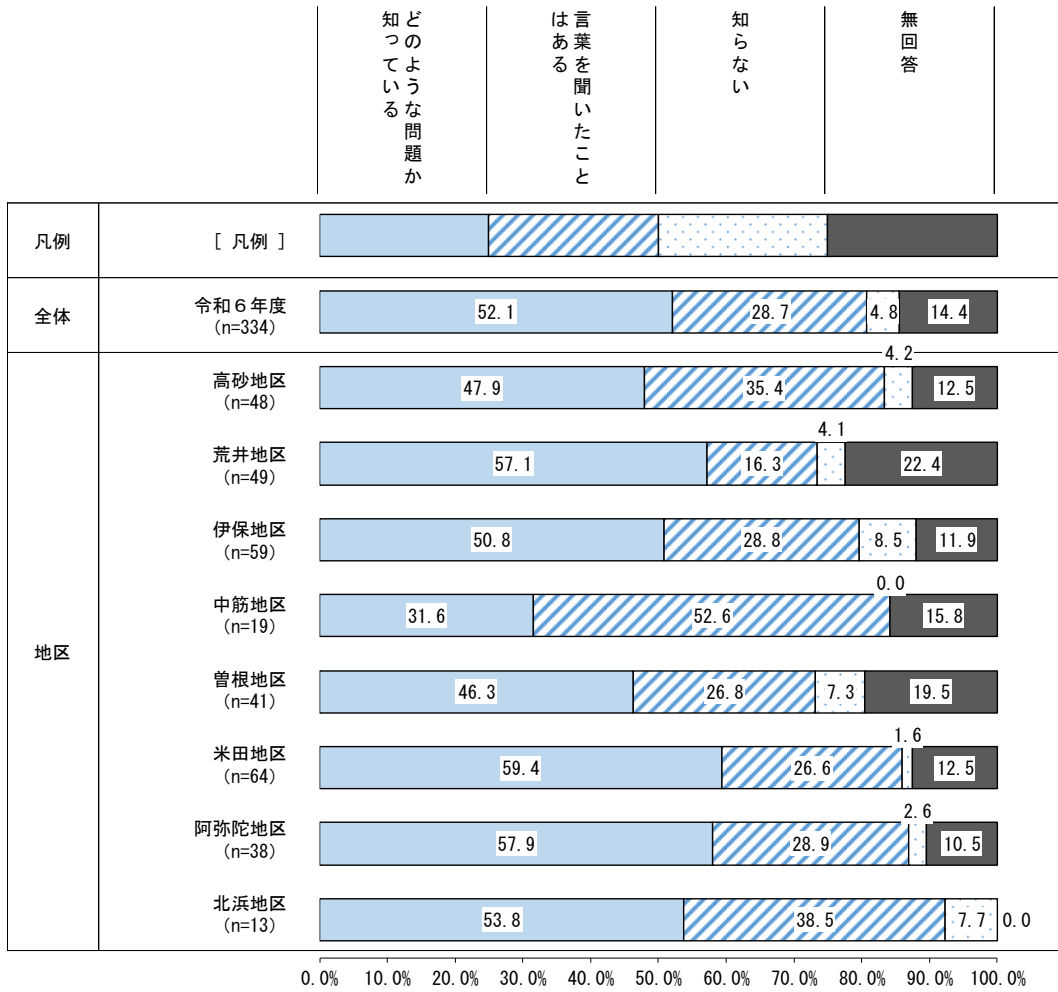


※令和2年度調査…「同和問題を知らない」4.9%

(設問形式が異なるため比較対象としていません。)

【地区】

○ 中筋地区では、「どのような問題か知っている」が31.6%と他の地域に比べて少なくなっています。

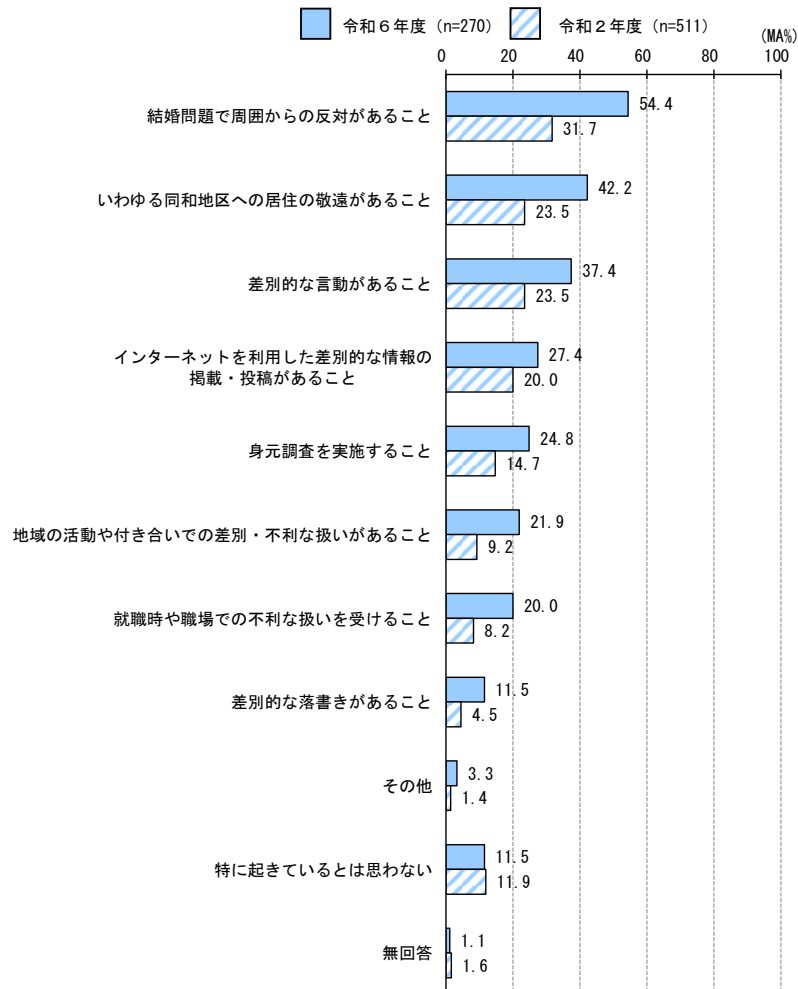


Q3-8-1 [3-8で「どのような問題か知っている」「言葉を聞いたことはある」と答えた方のみ] 部落差別（同和問題）に関して、あなたは、今、どのような人権問題が起きていると思われますか。（〇はいくつでも）

【全体】

- 部落差別（同和問題）に関する人権問題について、「結婚問題で周囲からの反対があること」が54.4%で最も多く、次いで「いわゆる同和地区への居住の敬遠があること」が42.2%、「差別的な言動があること」が37.4%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「その他」「特に起きているとは思わない」を除くすべての項目で多くなっています。

【部落差別（同和問題）に関する人権問題(MA)】



※令和2年度調査では全員が回答の対象であり、選択肢に「同和問題を知らない」「わからない」あり。

【性別】

- 男女ともに「結婚問題で周囲からの反対があること」が最も多く、男性では、次いで「差別的な言動があること」が43.7%と女性に比べても多くなっています。女性では、次いで「いわゆる同和地区への居住の敬遠があること」が44.1%となっています。

【年齢】

- 40～59歳、60～69歳70歳以上では、「結婚問題で周囲からの反対があること」が約6割で最も多く、次いで「いわゆる同和地区への居住の敬遠があること」が約4～5割となっている一方、39歳以下では、「差別的な言動があること」が49.2%で最も多く、次いで「いわゆる同和地区への居住の敬遠があること」が31.1%となっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じる人では、「差別的な言動があること」が52.2%と他の区分に比べて多くなっています。

【地区】

- 荒井地区では、「いわゆる同和地区への居住の敬遠があること」が63.9%で最も多く、他の地区に比べても多くなっています。

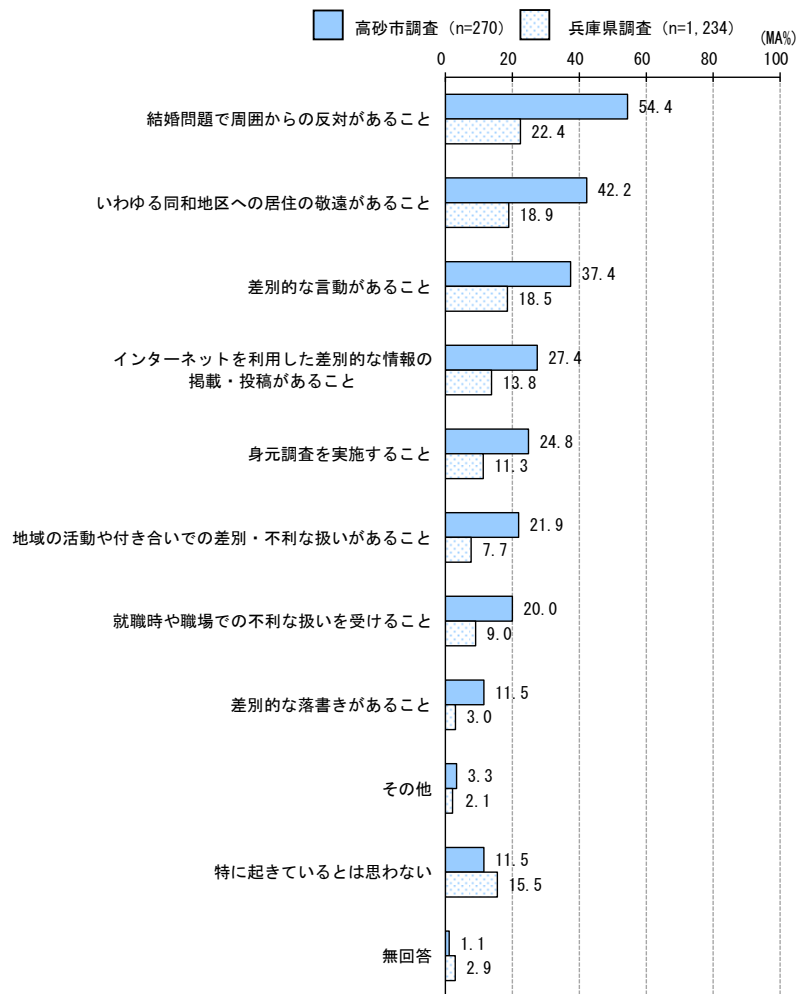
単位：%

		母数 (n)	部落差別（同和問題）に関する人権問題(MA)										
			差別的な言動があること	と差別的な落書きがあること	投稿差別的な情報掲載・インターネットの掲載	就職時や職場での不利な扱いを受けること	結婚問題で周囲からの反対があること	身元調査を実施すること	地域の活動や付き合いがいで	住い敬遠があること	その他	なに起きているとは思わ	無回答
全体		270	37.4	11.5	27.4	20.0	54.4	24.8	21.9	42.2	3.3	11.5	1.1
性別	男性	126	43.7	14.3	26.2	19.0	53.2	21.4	23.8	40.5	1.6	15.1	-
	女性	143	32.2	9.1	28.7	21.0	55.9	28.0	20.3	44.1	4.9	7.7	2.1
年齢	39歳以下	61	49.2	16.4	37.7	21.3	42.6	23.0	34.4	31.1	-	11.5	-
	40～59歳	83	41.0	9.6	25.3	19.3	57.8	22.9	27.7	44.6	3.6	13.3	1.2
	60～69歳	51	29.4	9.8	31.4	23.5	60.8	27.5	19.6	49.0	5.9	7.8	-
	70歳以上	74	29.7	10.8	18.9	17.6	56.8	27.0	6.8	44.6	4.1	10.8	2.7
「人権」の身近さ	身近に感じる	92	52.2	19.6	35.9	29.3	59.8	26.1	28.3	45.7	-	5.4	1.1
	どちらともいえない	97	32.0	8.2	25.8	18.6	53.6	25.8	18.6	40.2	4.1	15.5	1.0
	身近に感じない	78	28.2	6.4	20.5	11.5	51.3	23.1	19.2	41.0	5.1	12.8	1.3
地区	高砂地区	40	47.5	12.5	32.5	27.5	52.5	17.5	22.5	35.0	2.5	7.5	-
	荒井地区	36	47.2	13.9	33.3	22.2	55.6	38.9	22.2	63.9	-	5.6	-
	伊保地区	47	29.8	12.8	23.4	17.0	55.3	31.9	27.7	53.2	4.3	14.9	2.1
	中筋地区	16	37.5	25.0	18.8	-	62.5	31.3	6.3	56.3	-	6.3	6.3
	曾根地区	30	33.3	10.0	16.7	23.3	53.3	20.0	23.3	40.0	3.3	6.7	-
	米田地区	55	40.0	7.3	32.7	27.3	60.0	18.2	27.3	34.5	3.6	10.9	1.8
	阿弥陀地区	33	24.2	9.1	27.3	15.2	42.4	18.2	15.2	27.3	6.1	24.2	-
	北浜地区	12	41.7	8.3	25.0	-	58.3	33.3	8.3	25.0	8.3	8.3	-

【全体】

○ 兵庫県調査と比べると、「その他」「特に起きているとは思わない」を除くすべての項目で多くなっています。

【部落差別（同和問題）に関する人権問題(MA)】



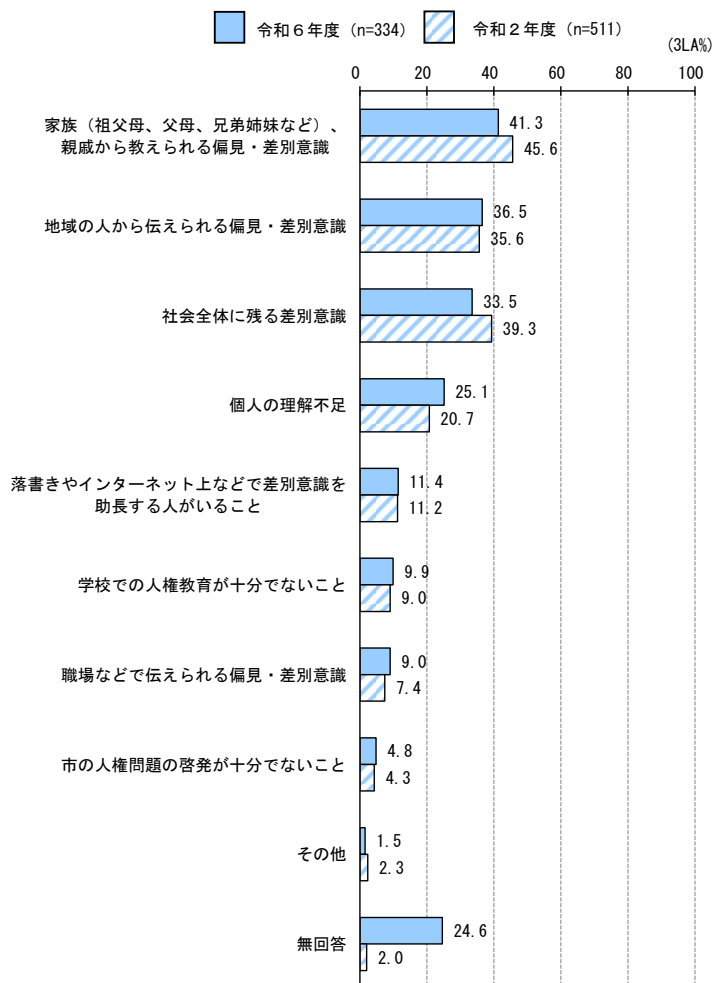
※兵庫県調査では全員が回答の対象であり、選択肢に「部落差別（同和問題）を知らない」「わからない」あり。

Q3-9 部落差別（同和問題）は、日本社会の歴史的過程で形作られた身分差別により、一部の人々が、長い間、経済的、社会的、文化的に低い状態に置かれることを強いられてきた日本固有の人権問題です。今もなお、部落差別（同和問題）が続いている原因や背景として、あなたのお考えに近いものはどれですか。（○は3つまで）

【全体】

- 部落差別（同和問題）の原因や背景について、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から教えられる偏見・差別意識」が41.3%で最も多く、次いで「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」が36.5%、「社会全体に残る差別意識」が33.5%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「社会全体に残る差別意識」が少なくなっています。

【部落差別（同和問題）の原因や背景(3LA)】



【性別】

- 男性では、「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」が44.1%で最も多く、女性に比べても多くなっています。
- 女性では、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から教えられる偏見・差別意識」が42.5%で最も多く、次いで「社会全体に残る差別意識」が31.3%となっています。

【年齢】

- 39歳以下、40～59歳では、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から教えられる偏見・差別意識」が最も多くなっている一方、60～69歳、70歳以上では、「社会全体に残る差別意識」が最も多くなっています。
- 「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から教えられる偏見・差別意識」「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」は、特に39歳以下で他の年齢層に比べて多くなっています。

【地区】

- 中筋地区では、「社会全体に残る差別意識」が68.4%と他の地区に比べて多くなっています。

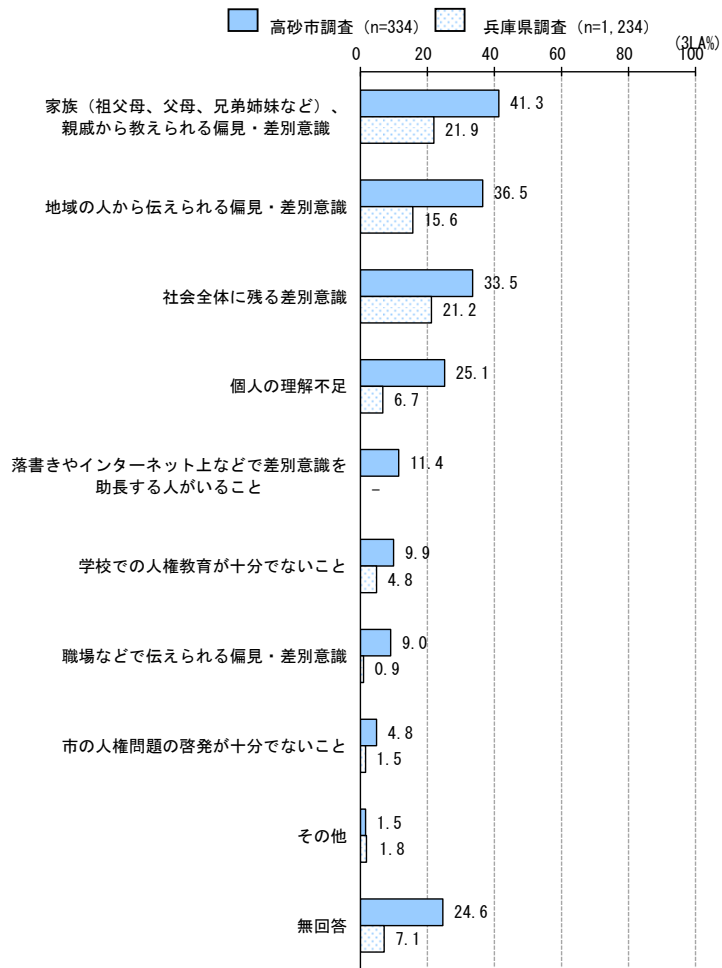
単位：%

		母数 (n)	部落差別（同和問題）の原因や背景(3LA)										
			識教 え姉 られ る偏 見・ 親戚 から 意	家 族 （祖 父母 、兄 弟姉 妹な ど） の偏 見・ 親戚 から 意	偏 見 ・ 差 別 意 識	地 域 の 人 か ら 伝 え ら れ る	見 職 場 な ど で 伝 え ら れ る 偏 見	社 会 全 体 に 残 る 差 別 意 識	個 人 の 理 解 不 足	で学 校で の 人 権 教 育 が 十 分	分市 で ない こと の 啓 発 が 十	す上 落 書 き や イン ター ネッ ト を 助 長	そ の 他
全体		334	41.3	36.5	9.0	33.5	25.1	9.9	4.8	11.4	1.5	24.6	
性別	男性	152	40.1	44.1	13.8	36.2	22.4	10.5	6.6	11.8	2.0	19.7	
	女性	179	42.5	30.7	5.0	31.3	27.4	8.9	3.4	11.2	1.1	28.5	
年齢	39歳以下	68	58.8	45.6	11.8	33.8	30.9	13.2	7.4	20.6	-	7.4	
	40～59歳	98	41.8	34.7	10.2	25.5	30.6	6.1	2.0	10.2	1.0	29.6	
	60～69歳	64	39.1	34.4	10.9	45.3	21.9	15.6	4.7	9.4	1.6	28.1	
	70歳以上	102	30.4	34.3	4.9	34.3	18.6	7.8	5.9	7.8	2.9	28.4	
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	43.8	42.0	16.1	34.8	29.5	11.6	7.1	13.4	-	22.3	
	どちらともいえない	122	39.3	34.4	5.7	32.0	24.6	8.2	4.9	13.1	2.5	23.8	
	身近に感じない	96	40.6	34.4	5.2	35.4	21.9	10.4	2.1	7.3	2.1	27.1	
地区	高砂地区	48	54.2	47.9	10.4	33.3	20.8	10.4	6.3	10.4	-	18.8	
	荒井地区	49	36.7	32.7	8.2	32.7	20.4	12.2	8.2	6.1	4.1	36.7	
	伊保地区	59	35.6	33.9	15.3	32.2	32.2	6.8	1.7	13.6	1.7	23.7	
	中筋地区	19	52.6	52.6	5.3	68.4	26.3	10.5	10.5	15.8	-	5.3	
	曾根地区	41	36.6	29.3	4.9	34.1	22.0	19.5	4.9	9.8	-	26.8	
	米田地区	64	31.3	32.8	6.3	28.1	26.6	9.4	3.1	10.9	1.6	28.1	
	阿弥陀地区	38	55.3	39.5	5.3	28.9	26.3	2.6	5.3	15.8	2.6	21.1	
	北浜地区	13	38.5	30.8	15.4	38.5	30.8	7.7	-	15.4	-	15.4	

【全体】

○ 兵庫県調査と比べると、「その他」を除くすべての項目で多くなっています。

【部落差別（同和問題）の原因や背景(3LA)】

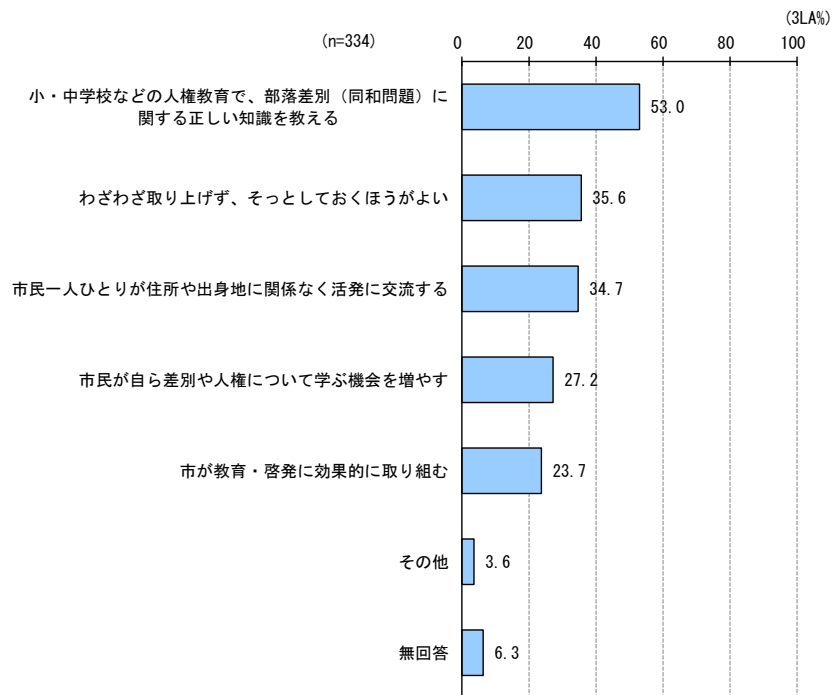


Q3-10 あなたは、部落差別（同和問題）を解決するためには、どのような方向が望ましいと思いますか。（○は3つまで）

【全体】

- 部落差別（同和問題）を解決するための方向性について、「小・中学校などの人権教育で、部落差別（同和問題）に関する正しい知識を教える」が53.0%で最も多く、次いで「わざわざ取り上げず、そっとしておくほうがよい」が35.6%、「市民一人ひとりが住所や出身地に関係なく活発に交流する」が34.7%となっています。

【部落差別（同和問題）を解決するための方向性(3LA)】



【年齢】

- 「小・中学校などの人権教育で、部落差別（同和問題）に関する正しい知識を教える」は、特に39歳以下、60～69歳で他の年齢層に比べて多くなっています。
- 「市民が自ら差別や人権について学ぶ機会を増やす」は、39歳以下、40～59歳、60～69歳では約3割となっている一方、70歳以上では21.6%となっています。

【「人権」の身近さ】

- 「人権」を身近に感じるほど「わざわざ取り上げず、そっとしておくほうがよい」が少なく、その他の項目が多くなる傾向が見られます。

【地区】

- 高砂地区、北浜地区では、「小・中学校などの人権教育で、部落差別（同和問題）に関する正しい知識を教える」が6割以上と他の地区に比べて多くなっています。
- 伊保地区、中筋地区、曾根地区、阿弥陀地区では、「小・中学校などの人権教育で、部落差別（同和問題）に関する正しい知識を教える」に次いで、「わざわざ取り上げず、そっとしておくほうがよい」が多くなっています。

単位：％

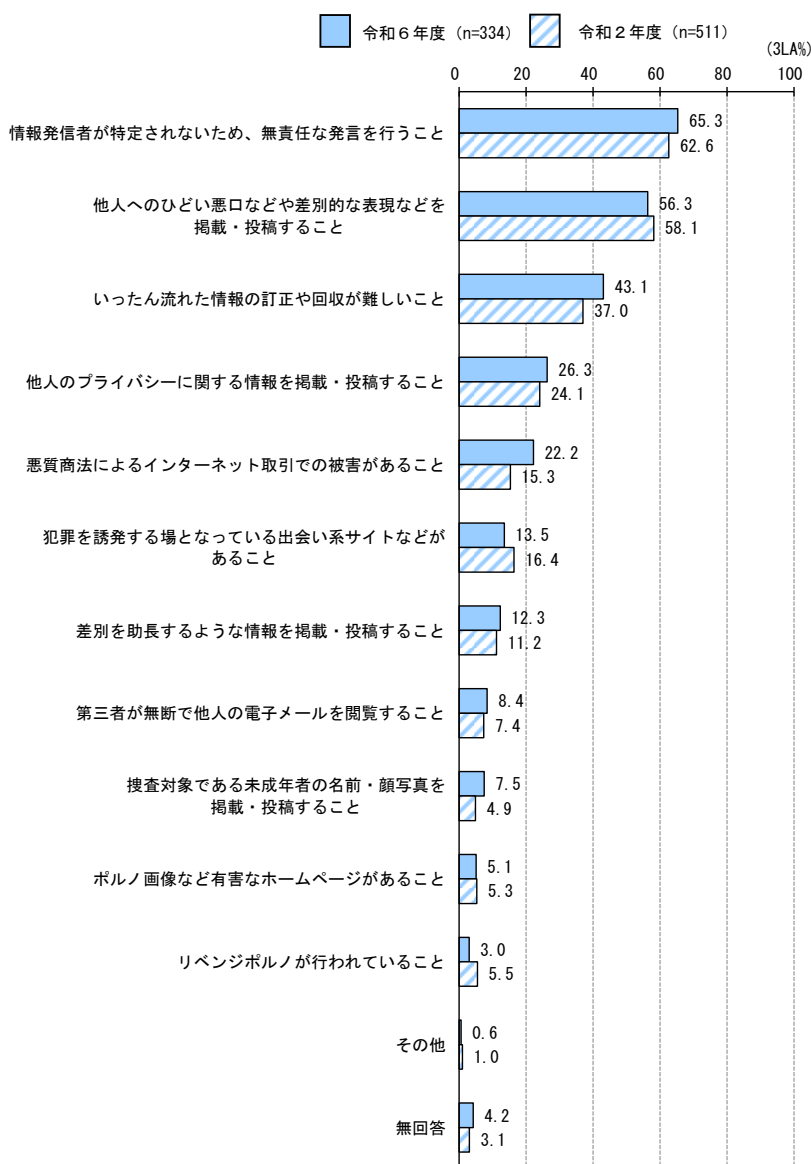
	母数 (n)	部落差別（同和問題）を解決するための方向性(3LA)							
		を題育小 教にで・中 えに関部学 する差校な 正別どの しい同人 知和権 識問教	つ市 民が 自ら 機会 を 増 や す	交市 流身 す地 るに 人 関 係 な く が 活 住 発 所 に や	に市 取 り 教 育 組 む ・ 啓 発 に 効 果 的	いそ わ つ ざ と わ ざ で 取 り 上 げ ず 、 そ っ と し て お く ほ う が よ	そ の 他	無 回 答	
全体	334	53.0	27.2	34.7	23.7	35.6	3.6	6.3	
性別	男性	152	50.0	32.9	33.6	27.0	36.2	3.9	3.3
	女性	179	55.9	22.9	36.3	20.7	34.6	3.4	8.9
年齢	39歳以下	68	57.4	30.9	33.8	23.5	39.7	-	1.5
	40～59歳	98	48.0	29.6	37.8	21.4	38.8	4.1	6.1
	60～69歳	64	62.5	29.7	32.8	29.7	25.0	7.8	7.8
	70歳以上	102	50.0	21.6	34.3	22.5	35.3	2.9	8.8
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	61.6	40.2	37.5	36.6	27.7	4.5	4.5
	どちらともいえない	122	52.5	23.0	34.4	20.5	36.1	1.6	5.7
	身近に感じない	96	44.8	18.8	32.3	13.5	42.7	5.2	9.4
地区	高砂地区	48	64.6	29.2	35.4	25.0	29.2	6.3	2.1
	荒井地区	49	51.0	30.6	42.9	28.6	28.6	2.0	12.2
	伊保地区	59	50.8	27.1	32.2	20.3	39.0	5.1	8.5
	中筋地区	19	47.4	36.8	31.6	15.8	42.1	-	5.3
	曾根地区	41	53.7	31.7	26.8	29.3	36.6	-	2.4
	米田地区	64	50.0	21.9	40.6	26.6	31.3	3.1	9.4
	阿弥陀地区	38	52.6	26.3	28.9	10.5	47.4	7.9	2.6
	北浜地区	13	61.5	15.4	38.5	38.5	30.8	-	-

Q3-11 インターネットによる人権侵害について、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

【全体】

- インターネットに関する人権問題について、「情報発信者が特定されないため、無責任な発言を行うこと」が65.3%で最も多く、次いで「他人へのひどい悪口などや差別的な表現などを掲載・投稿すること」が56.3%、「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」が43.1%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」「悪質商法によるインターネット取引での被害があること」が多くなっています。一方、大幅に少なくなっている項目は見られません。

【インターネットに関する人権問題(3LA)】



【性別】

- 男性では、「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」が47.4%と女性に比べて多くなっています。
- 女性では、「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」が16.2%と男性に比べて多くなっています。

【年齢】

- 「他人へのひどい悪口などや差別的な表現などを掲載・投稿すること」は、特に39歳以下、60～69歳で6割以上と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 39歳以下、40～59歳では、「他人のプライバシーに関する情報を掲載・投稿すること」が他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じる人では、「他人へのひどい悪口などや差別的な表現などを掲載・投稿すること」が61.6%と他の区分に比べて多くなっています。

単位：%

	母数 (n)	インターネットに関する人権問題(3LA)							
		載や他人へのひどい悪口などを掲載すること	行ったこと、無責任な発言をな	情報発信者が特定されな	投稿する・顔写真を掲載・	捜査対象である未成年者	第三者が開断すること	どて犯罪を誘発する場となつ	ホーム画像など有害なこと
全体	334	56.3	65.3	7.5	8.4	13.5	5.1	3.0	
性別	男性	152	59.9	66.4	8.6	5.3	9.9	0.7	2.0
	女性	179	54.2	64.2	6.7	10.6	16.2	8.9	3.4
年齢	39歳以下	68	64.7	64.7	5.9	4.4	4.4	7.4	5.9
	40～59歳	98	55.1	68.4	11.2	9.2	6.1	4.1	
	60～69歳	64	68.8	65.6	6.3	3.1	14.1	4.7	1.6
	70歳以上	102	45.1	62.7	5.9	12.7	23.5	2.9	-
「人権」の身近さ	身近に感じる	112	61.6	63.4	6.3	8.0	13.4	6.3	4.5
	どちらともいえない	122	54.1	63.9	9.0	5.7	12.3	4.1	2.5
	身近に感じない	96	53.1	68.8	7.3	10.4	15.6	5.2	1.0

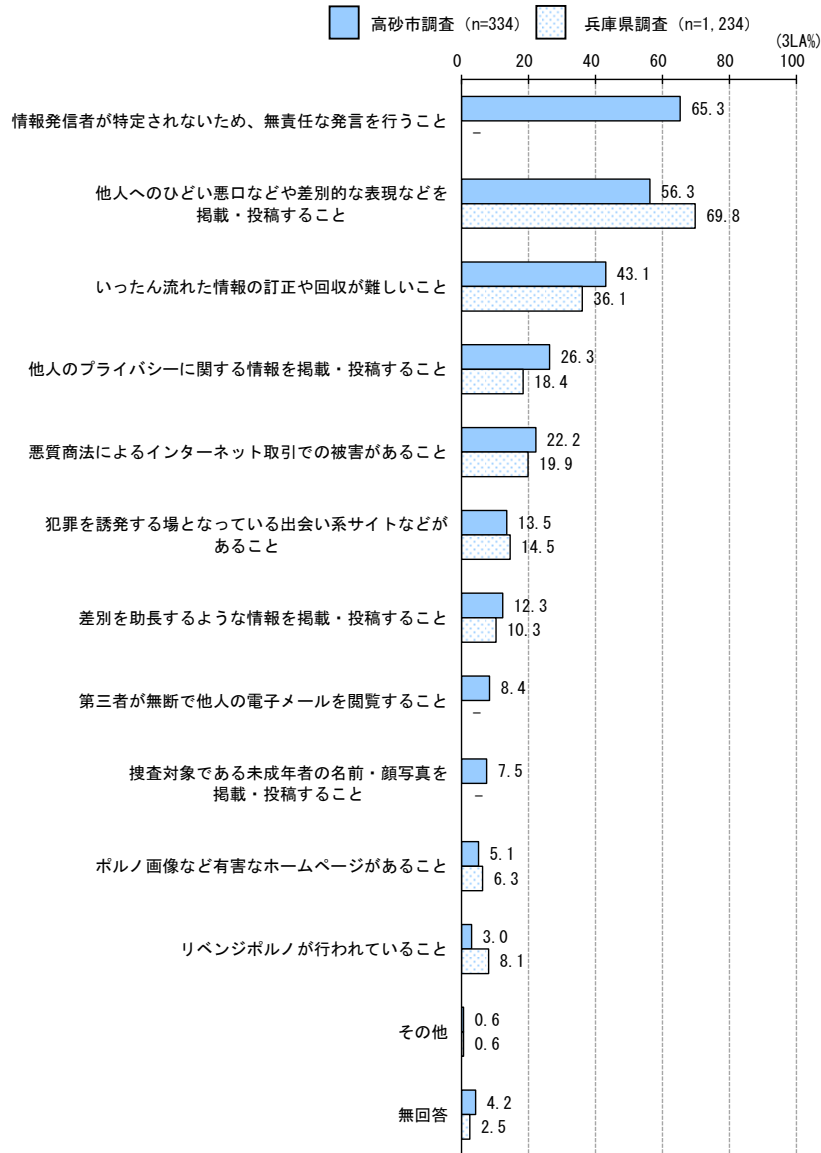
単位：%

	母数 (n)	インターネットに関する人権問題(3LA)						
		るネ悪正 ことツ質 とト商回 取法引 による 被害が ター あ	いやつ 回たん 取ん流 引が難 れし しい 情報 と訂	報差 を別 掲を 載助 ・長 投す るよ うな 情	るす他 ること 人の 情 報 を プ ラ イ バ シ ー 投 稿 に す 関	そ の 他	無 回 答	
全体	334	22.2	43.1	12.3	26.3	0.6	4.2	
性別	男性	152	22.4	47.4	15.1	24.3	0.7	3.3
	女性	179	21.8	39.1	10.1	27.9	0.6	5.0
年齢	39歳以下	68	19.1	51.5	17.6	39.7	-	-
	40～59歳	98	20.4	43.9	10.2	31.6	1.0	2.0
	60～69歳	64	23.4	43.8	10.9	18.8	-	7.8
	70歳以上	102	24.5	36.3	11.8	16.7	1.0	6.9
「人権」の身近さ	身近に感じる	112	18.8	43.8	10.7	27.7	0.9	2.7
	どちらともいえない	122	25.4	42.6	14.8	27.9	-	3.3
	身近に感じない	96	21.9	42.7	11.5	22.9	1.0	7.3

【全体】

- 兵庫県調査と比べると、「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」「他人のプライバシーに関する情報を掲載・投稿すること」が多くなっています。一方、「他人へのひどい悪口などや差別的な表現などを掲載・投稿すること」が少なくなっています。

【インターネットに関する人権問題(3LA)】



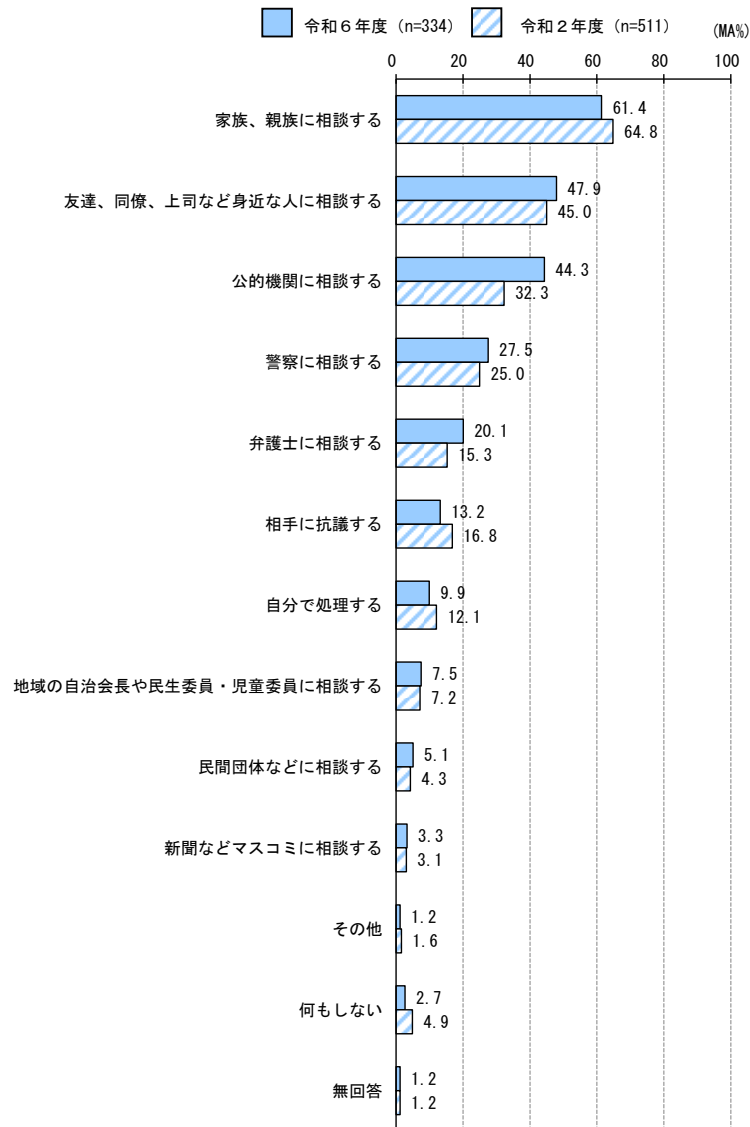
(4) 相談体制について

Q4-1人権侵害を受けたとき、あなたはどのようにしますか。(〇はいくつでも)

【全体】

- 人権侵害を受けたときの対応について、「家族、親族に相談する」が61.4%で最も多く、次いで「友達、同僚、上司など身近な人に相談する」が47.9%、「公的機関に相談する」が44.3%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「公的機関に相談する」が多くなっています。一方、大幅に少なくなっている項目は見られません。

【人権侵害を受けたときの対応(MA)】



【性別】

- 「家族、親族に相談する」は、特に女性で65.9%と男性に比べて多くなっています。
- 男性では、「家族、親族に相談する」に次いで「公的機関に相談する」、女性では、「友達、同僚、上司など身近な人に相談する」が多くなっています。

【年齢】

- 39歳以下、40～59歳、60～69歳では、「家族、親族に相談する」は6割以上で最も多く、次いで「友達、同僚、上司など身近な人に相談する」が約5～6割となっている一方、70歳以上では、「公的機関に相談する」が50.0%で最も多く、次いで「家族、親族に相談する」が49.0%となっています。また、70歳以上では、「地域の自治会長や民生委員・児童委員に相談する」が他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じる人では、「友達、同僚、上司など身近な人に相談する」「弁護士に相談する」「公的機関に相談する」が他の区分に比べて多くなっています。

単位：%

	母数 (n)	人権侵害を受けたときの対応(MA)							
		近 友 達 、 同 僚 、 上 司 な ど 身 近 な 人 に 相 談 す る	家 族 、 親 族 に 相 談 す る	警 察 に 相 談 す る	弁 護 士 に 相 談 す る	公 的 機 関 に 相 談 す る	員 地 域 の 自 治 会 長 や 民 生 委 員 に 相 談 す る	民 間 団 体 な ど に 相 談 す る	
全体	334	47.9	61.4	27.5	20.1	44.3	7.5	5.1	
性別	男性	152	45.4	55.9	28.3	25.0	50.0	8.6	9.9
	女性	179	50.8	65.9	27.4	15.6	39.7	6.7	1.1
年齢	39歳以下	68	60.3	72.1	29.4	20.6	33.8	2.9	4.4
	40～59歳	98	53.1	64.3	29.6	26.5	44.9	3.1	3.1
	60～69歳	64	50.0	64.1	29.7	18.8	46.9	7.8	4.7
	70歳以上	102	34.3	49.0	23.5	14.7	50.0	14.7	7.8
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	59.8	67.0	29.5	27.7	52.7	9.8	7.1
	どちらともいえない	122	42.6	66.4	27.9	15.6	37.7	4.9	3.3
	身近に感じない	96	40.6	46.9	24.0	17.7	43.8	8.3	5.2

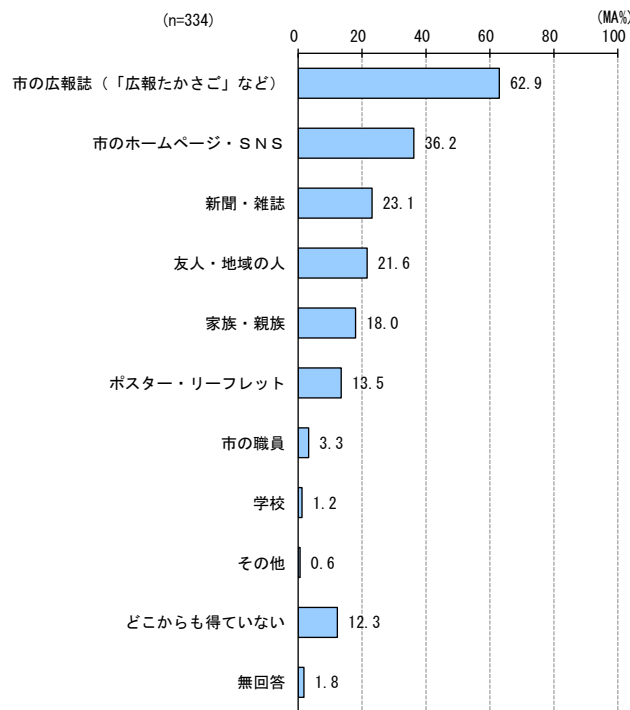
単位：%

	母数 (n)	人権侵害を受けたときの対応(MA)					無 回 答	
		新 聞 な ど マ ス コ ミ に 相 談 す る	相 手 に 抗 議 す る	自 分 で 処 理 す る	そ の 他	何 も し な い		
全体	334	3.3	13.2	9.9	1.2	2.7	1.2	
性別	男性	152	4.6	15.8	11.8	0.7	3.9	0.7
	女性	179	2.2	11.2	8.4	1.7	1.7	1.7
年齢	39歳以下	68	2.9	16.2	16.2	2.9	1.5	-
	40～59歳	98	5.1	13.3	8.2	1.0	3.1	1.0
	60～69歳	64	1.6	9.4	7.8	1.6	1.6	1.6
	70歳以上	102	2.9	13.7	8.8	-	3.9	2.0
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	6.3	17.0	10.7	1.8	0.9	0.9
	どちらともいえない	122	0.8	12.3	9.8	-	2.5	-
	身近に感じない	96	3.1	10.4	9.4	2.1	5.2	3.1

Q4-2 あなたは、相談窓口や市の事業や施策の情報を、主に何（だれ）から得ていますか。（○はいくつでも）

- 【全体】
- 情報の入手先について、「市の広報誌（「広報たかさご」など）」が62.9%で最も多く、次いで「市のホームページ・SNS」が36.2%、「新聞・雑誌」が23.1%となっています。
- 【性別】
- 「市の広報誌（「広報たかさご」など）」は、特に女性で68.2%と男性に比べて多くなっています。一方、「市のホームページ・SNS」は、特に男性で40.8%と女性に比べて多くなっています。
 - 女性では、「友人・地域の人」が男性に比べて多くなっています。
- 【年齢】
- 「市の広報誌（「広報たかさご」など）」は、特に60～69歳、70歳以上で約8割と他の年齢層に比べて多くなっています。一方、「市のホームページ・SNS」は、特に39歳以下、40～59歳で多くなっています。
 - 60～69歳、70歳以上では、「新聞・雑誌」が3割以上と他の年齢層に比べて多くなっています。
 - 39歳以下では、「どこからも得ていない」が25.0%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 【「人権」の身近さ】
- 身近に感じる人では、「市の広報誌（「広報たかさご」など）」「市のホームページ・SNS」が他の区分に比べて多くなっています。

【情報の入手先 (MA)】



	母数 (n)	情報の入手先 (MA)										
		新聞・雑誌	ポスター・リーフレット	S市のホームページ・SNS	市の広報誌（「広報たかさご」など）	市の職員	家族・親族	友人・地域の人	学校	その他	どこからも得ていない	無回答
全体	334	23.1	13.5	36.2	62.9	3.3	18.0	21.6	1.2	0.6	12.3	1.8
性別												
男性	152	23.7	15.8	40.8	56.6	5.9	17.1	18.4	1.3	1.3	14.5	1.3
女性	179	22.3	11.7	32.4	68.2	1.1	19.0	24.0	1.1	-	10.1	2.2
年齢												
39歳以下	68	10.3	17.6	39.7	39.7	2.9	27.9	19.1	2.9	2.9	25.0	2.9
40～59歳	98	12.2	13.3	45.9	55.1	3.1	20.4	15.3	2.0	-	13.3	2.0
60～69歳	64	31.3	15.6	35.9	78.1	4.7	15.6	29.7	-	-	7.8	1.6
70歳以上	102	37.3	9.8	24.5	76.5	2.9	10.8	23.5	-	-	4.9	1.0
「人権」の身近さ												
身近に感じる	112	22.3	17.0	46.4	66.1	5.4	22.3	25.0	1.8	0.9	6.3	2.7
どちらともいえない	122	27.0	16.4	31.1	63.1	3.3	19.7	23.0	0.8	-	14.8	-
身近に感じない	96	18.8	6.3	31.3	59.4	1.0	11.5	15.6	1.0	1.0	14.6	3.1

(5) 人権啓発について

Q5-1 市が次のような取り組みをしていることをご存じですか。①～⑥のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

① 人権週間

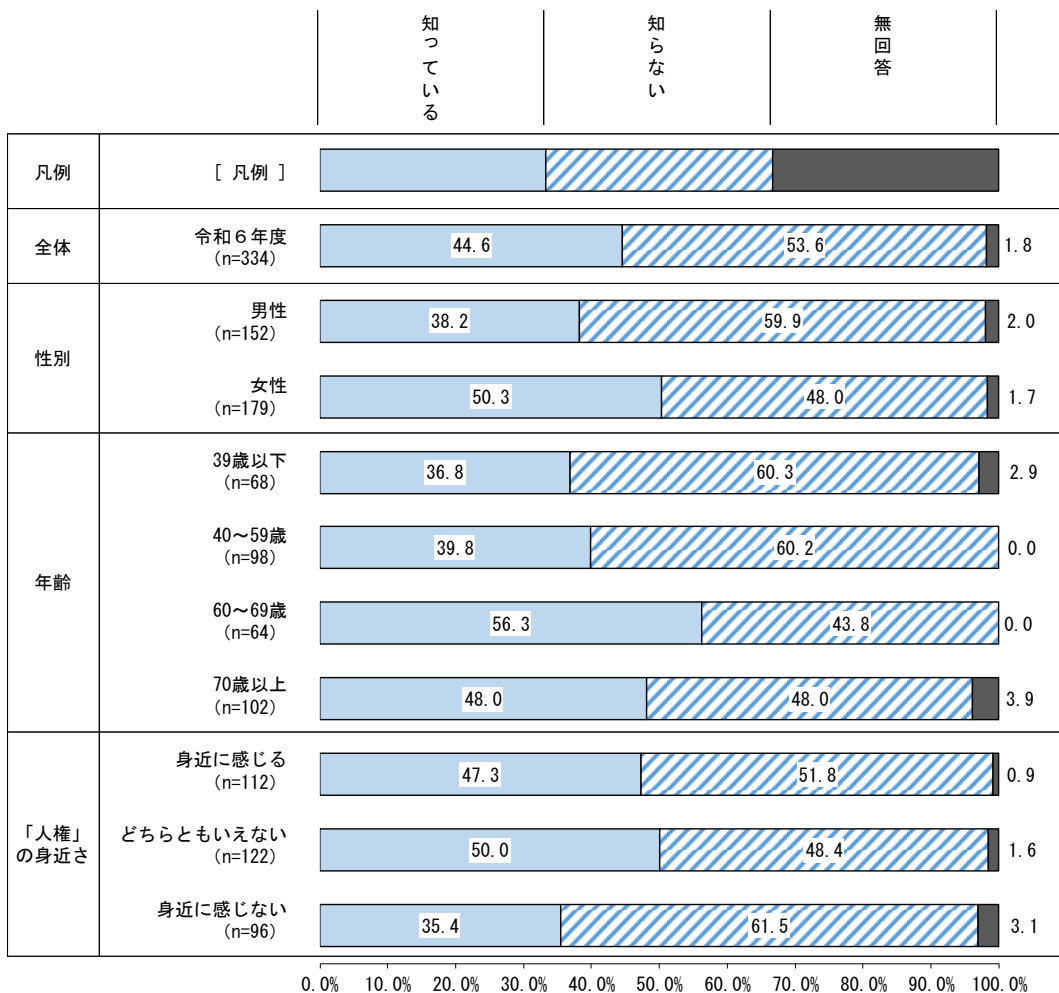
【全体】
○ 人権週間について、「知っている」が44.6%、「知らない」が53.6%となっています。

【性別】
○ 女性では、「知っている」が50.3%と、男性の38.2%に比べて多くなっています。

【年齢】
○ 60～69歳では、「知っている」が56.3%、70歳以上では48.0%と、他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】
○ 「人権」を身近に感じない人では、「知らない」が61.5%と、他の区分に比べて多くなっています。

【人権週間】



② 高砂市パートナーシップ・ファミリーシップ制度

【全体】

- 高砂市パートナーシップ・ファミリーシップ制度について、「知っている」が13.8%、「知らない」が83.8%となっています。

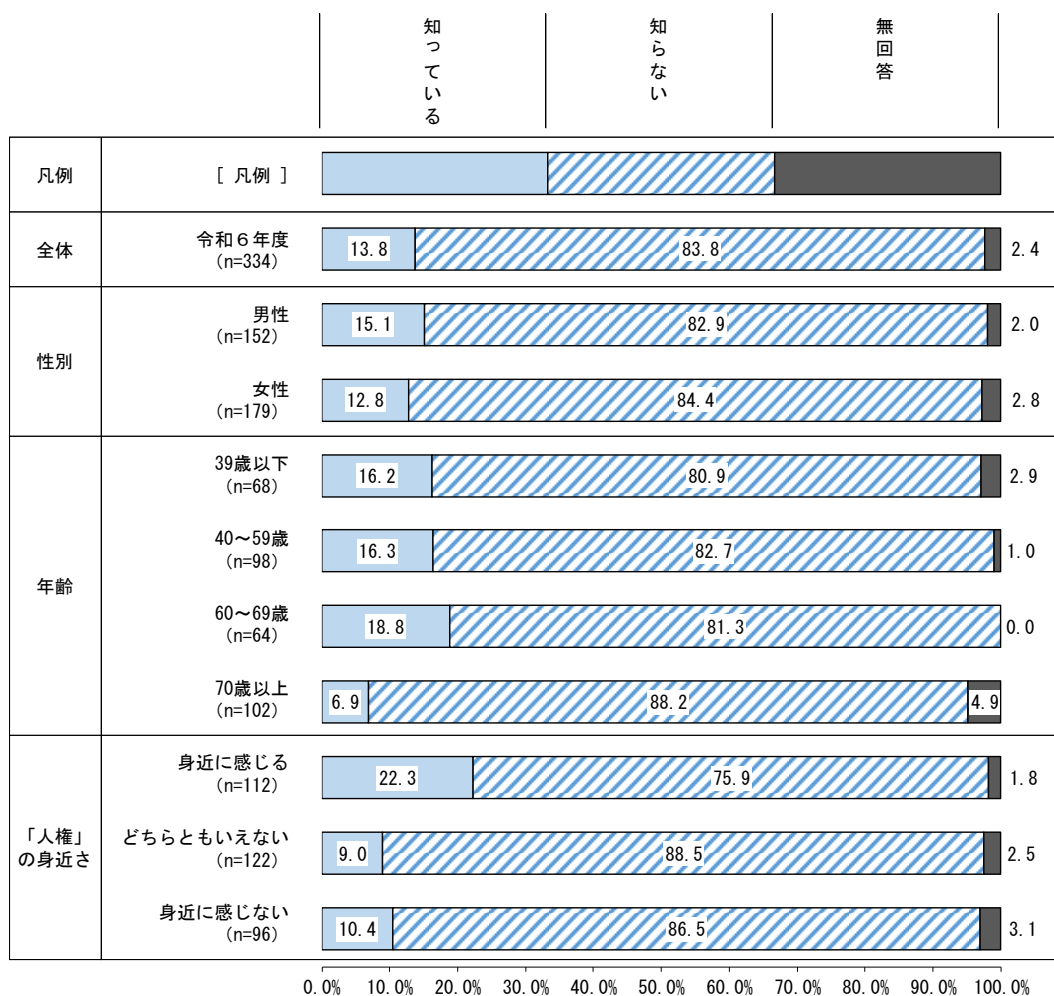
【年齢】

- 70歳以上では、「知っている」が6.9%と、他の年齢層に比べて少なくなっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じる人では、「知っている」が22.3%と、他の区分に比べて多くなっています。

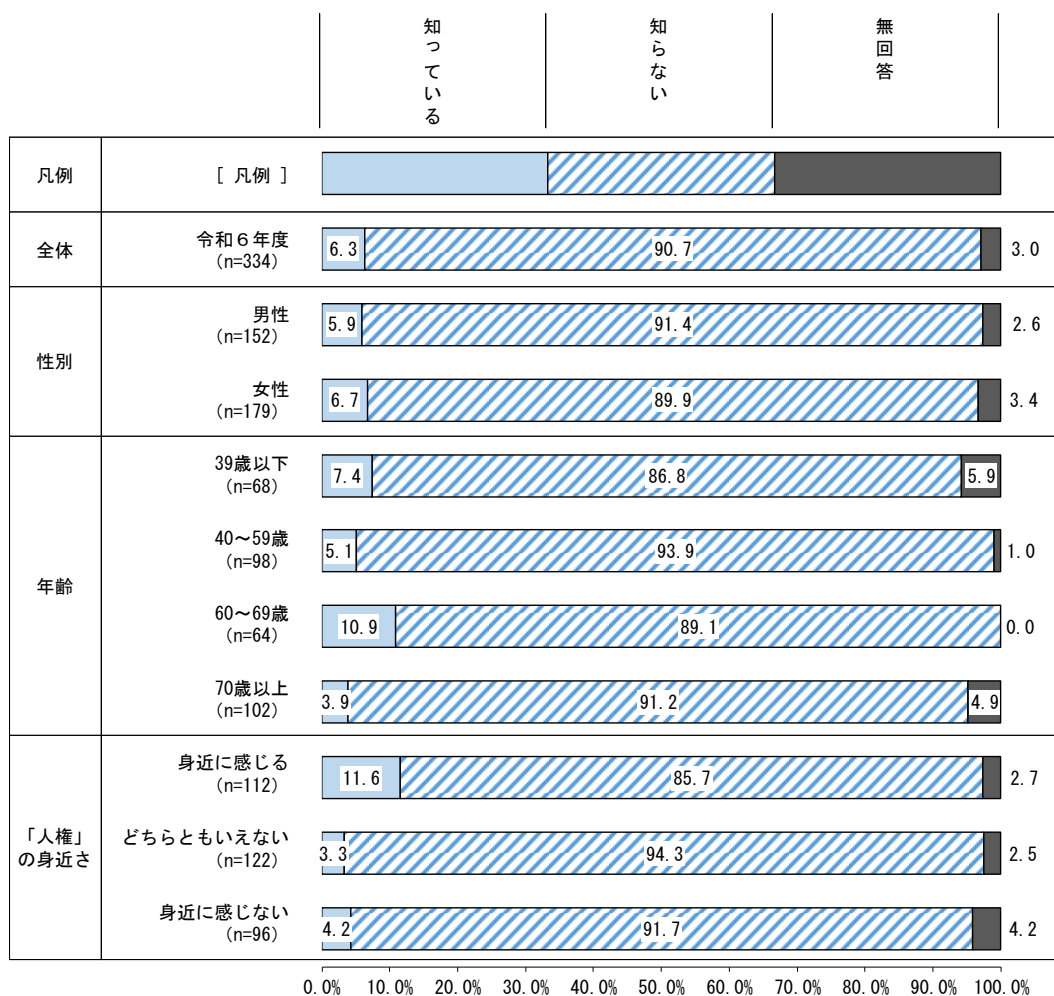
【高砂市パートナーシップ・ファミリーシップ制度】



③ インターネットモニタリング事業

- 【全体】**
 ○ インターネットモニタリング事業について、「知っている」が6.3%、「知らない」が90.7%となっています。
- 【年齢】**
 ○ 60～69歳では、「知っている」が10.9%と、他の年齢層に比べて多くなっています。
- 【「人権」の身近さ】**
 ○ 身近に感じる人では、「知っている」が11.6%と、他の区分に比べて多くなっています。

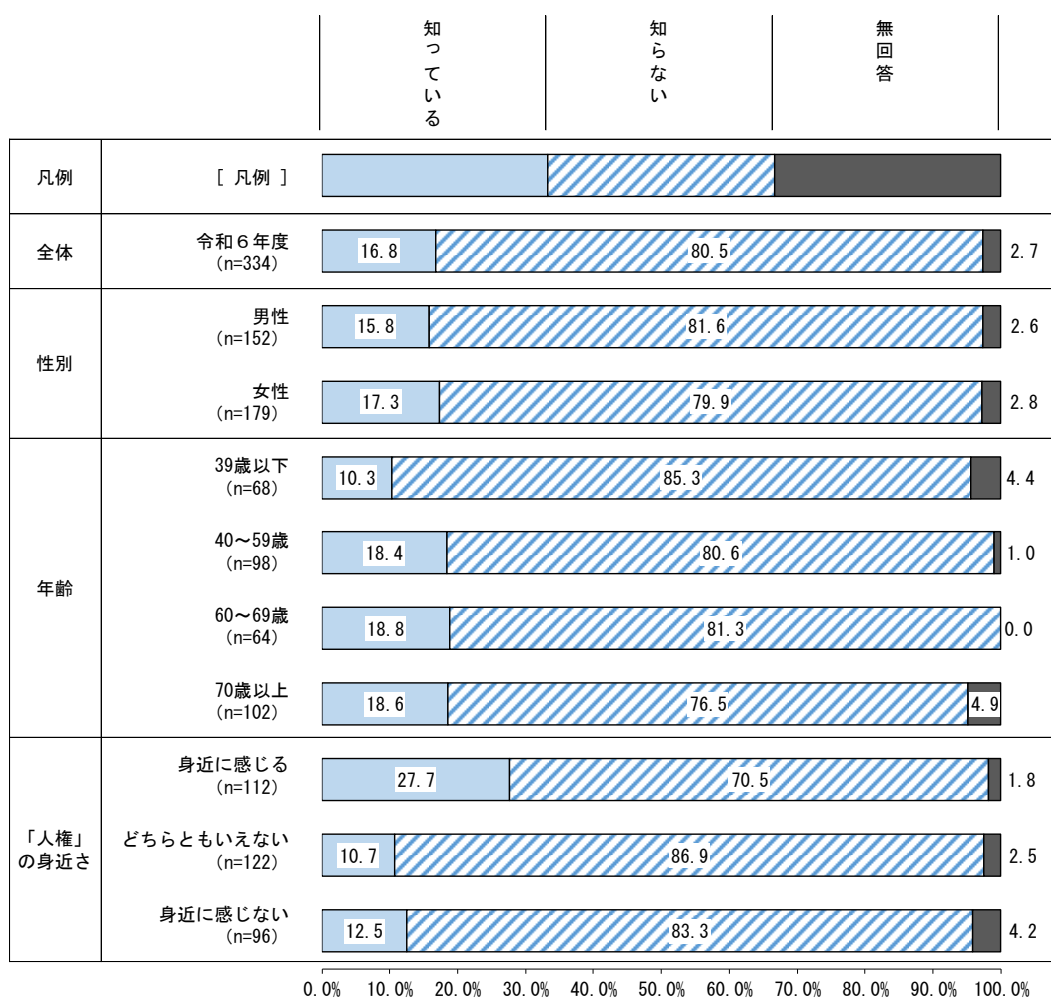
【インターネットモニタリング事業】



④ 校区人権教育推進事業

- 【全体】**
 ○ 校区人権教育推進事業について、「知っている」が16.8%、「知らない」が80.5%となっています。
- 【性別】**
 ○ 男性では、「知っている」が15.8%、「知らない」が81.6%となっています。
 ○ 女性では、「知っている」が17.3%、「知らない」が79.9%となっています。
- 【年齢】**
 ○ 39歳以下では、「知っている」が10.3%と、他の年齢層に比べて少なくなっています。
- 【「人権」の身近さ】**
 ○ 身近に感じる人では、「知っている」が27.7%と、他の区分に比べて多くなっています。

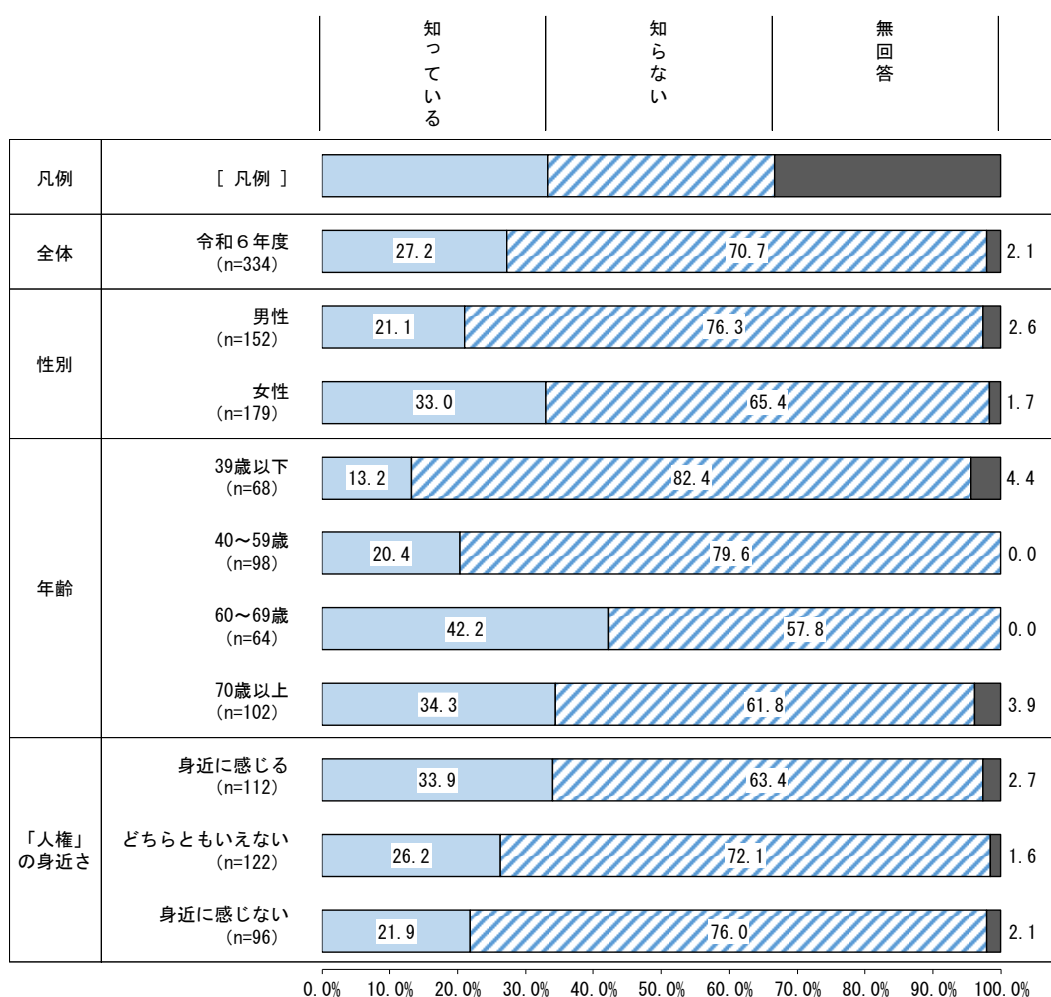
【校区人権教育推進事業】



⑤ 隣保館事業（みのり会館が実施する事業）

- 【全体】**
 ○ 隣保館事業（みのり会館が実施する事業）について、「知っている」が27.2%、「知らない」が70.7%となっています。
- 【性別】**
 ○ 女性では、「知っている」が33.0%と、男性の21.1%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
 ○ 60～69歳では、「知っている」が42.2%と他の年齢層に比べて多くなっています。また、70歳以上でも34.3%となっている一方、39歳以下では13.2%、40～59歳では20.4%と少なくなっています。
- 【「人権」の身近さ】**
 ○ 身近に感じる人では、「知っている」が33.9%と他の区分に比べて多くなっています。また、「人権」を身近に感じるほど「知っている」が多くなる傾向が見られます。

【隣保館事業（みのり会館が実施する事業）】

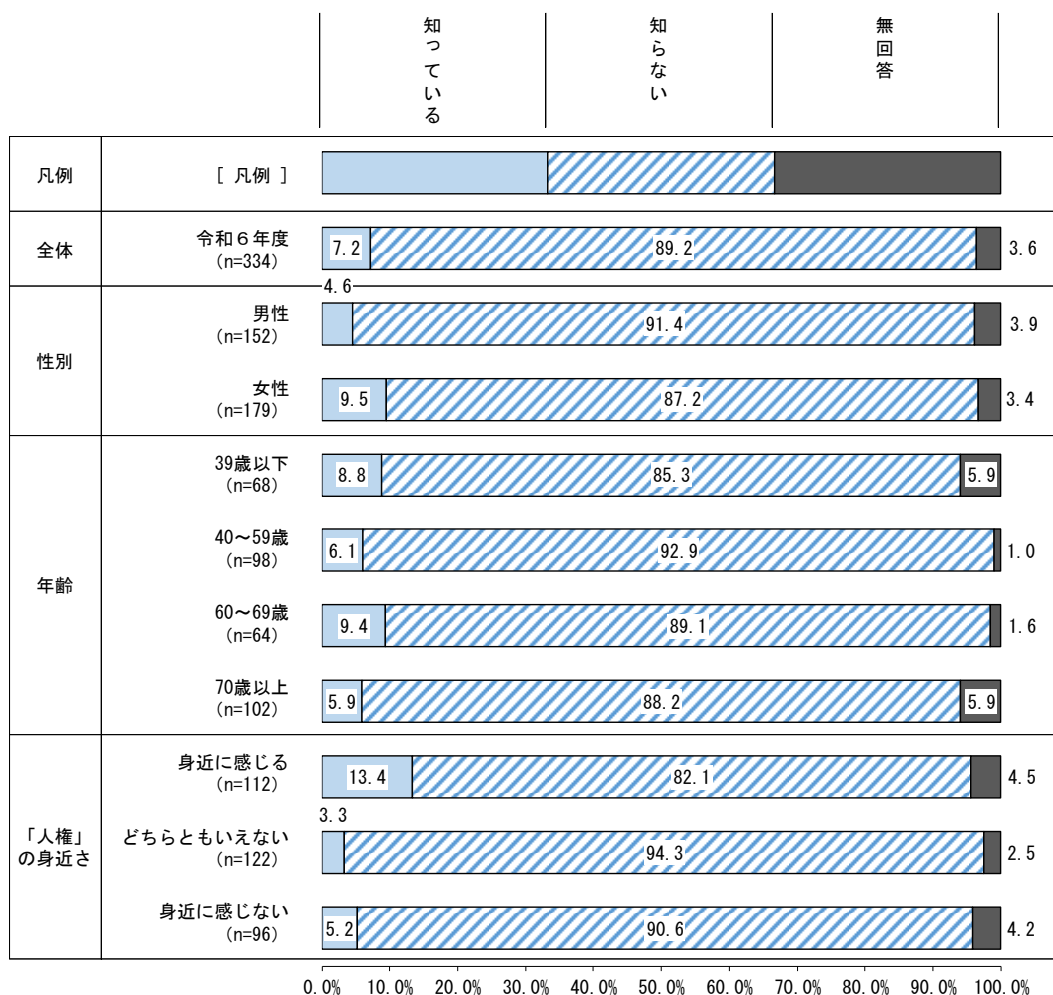


⑥ CAPワークショップ

【全体】
 ○ CAPワークショップについて、「知っている」が7.2%、「知らない」が89.2%となっています。

【「人権」の身近さ】
 ○ 身近に感じる人では、「知っている」が13.4%と、他の区分に比べて多くなっています。

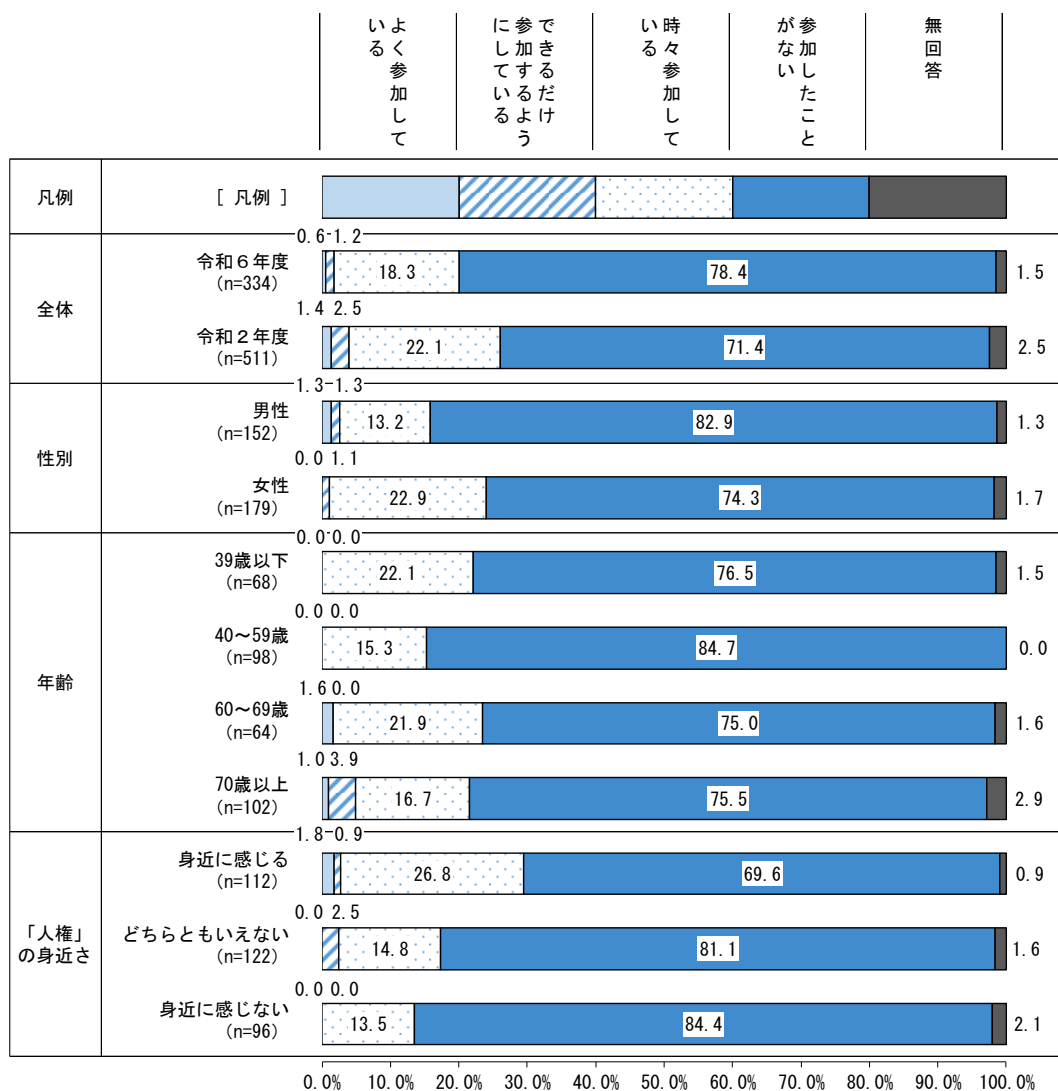
【CAPワークショップ】



Q5-2 あなたは、人権についての学習会、講演会、研修会、講座などに参加したことはありますか。(○は1つ)

- 【全体】**
- 学習会等への参加状況について、「参加したことがない」が78.4%で最も多く、次いで「時々参加している」が18.3%、「できるだけ参加するようにしている」が1.2%となっています。「よく参加している」「できるだけ参加するようにしている」「時々参加している」を合わせた“参加したことがある”は20.1%となっています。
 - 令和2年度調査と比べると、「参加したことがない」が7.0ポイント多くなっています。
- 【性別】**
- 男性では、「参加したことがない」が82.9%と、女性の74.3%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
- 40～59歳では、「参加したことがない」が84.7%と、他の年齢層に比べて多くなっています。
- 【「人権」の身近さ】**
- 身近に感じる人では、“参加したことがある”が29.5%と、他の区分に比べて多くなっています。また、「人権」を身近に感じるほど“参加したことがある”が多くなる傾向が見られます。

【学習会等への参加状況】

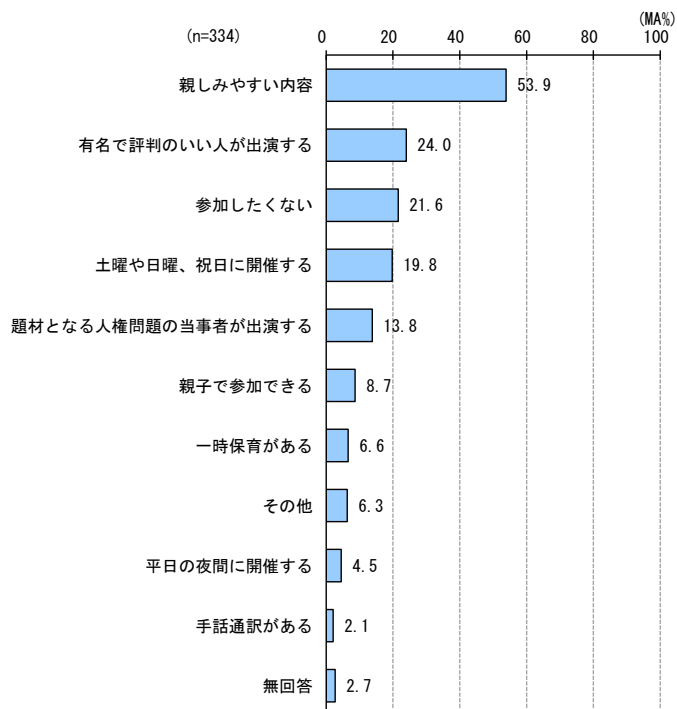


Q5-3 あなたは、どのような工夫があれば、人権についての学習会、講演会、研修会、講座などに参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)

【全体】

○ 学習会等に参加したいと思える工夫について、「親しみやすい内容」が53.9%で最も多く、次いで「有名で評判のいい人が出演する」が24.0%、「参加したくない」が21.6%となっています。

【学習会等に参加したいと思える工夫 (MA)】



【性別】

○ 男性では、「参加したくない」が24.3%と、女性の18.4%に比べて多くなっています。

【年齢】

○ 39歳以下、40～59歳では、「土曜や日曜、祝日に開催する」が約3割と他の年齢層に比べて多くなっています。また、39歳以下では、「親子で参加できる」が17.6%、「一時保育がある」が14.7%となっています。

【「人権」の身近さ】

○ どちらともいえない人、身近に感じない人では、「参加したくない」が2割以上と、身近に感じる人の13.4%に比べて多くなっています。

【学習会等への参加状況】

○ 参加したことがない人では、「親しみやすい内容」が48.1%で最も多く、次いで「参加したくない」が26.7%、「有名で評判のいい人が出演する」が20.2%となっています。

単位：%

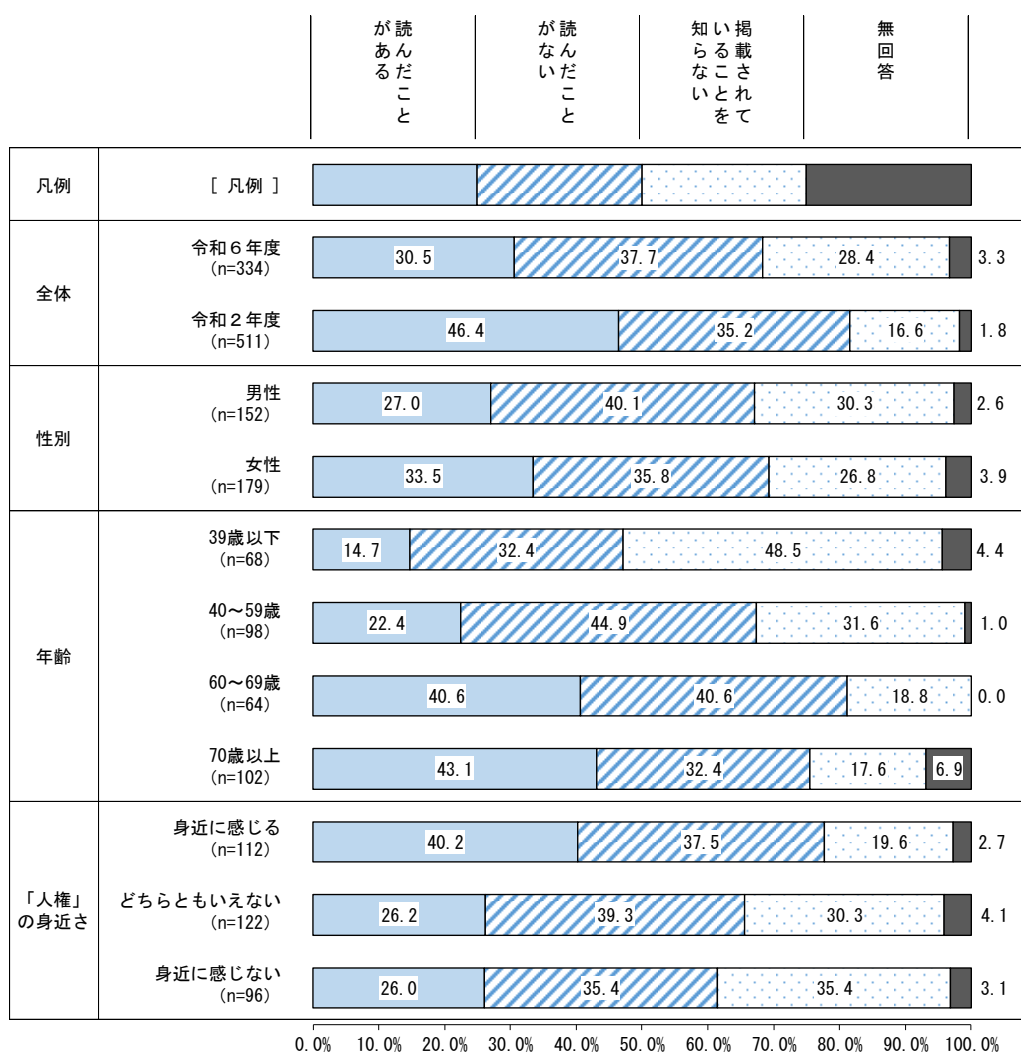
		母数 (n)	学習会等に参加したいと思える工夫(MA)										
			題材となる人権問題の当 事者が出演する	有名で評判のいい人が出 演する	親しみやすい内容	土曜や日曜、祝日に開催 する	平日の夜間に開催する	親子で参加できる	一時保育がある	手話通訳がある	その他	参加したくない	無回答
全体		334	13.8	24.0	53.9	19.8	4.5	8.7	6.6	2.1	6.3	21.6	2.7
性別	男性	152	15.1	25.7	53.3	22.4	5.3	7.9	5.3	2.0	4.6	24.3	2.6
	女性	179	12.8	22.9	54.7	17.9	3.9	9.5	7.8	2.2	7.8	18.4	2.8
年齢	39歳以下	68	10.3	20.6	48.5	27.9	2.9	17.6	14.7	2.9	10.3	19.1	1.5
	40～59歳	98	13.3	27.6	52.0	25.5	5.1	8.2	7.1	3.1	4.1	23.5	1.0
	60～69歳	64	15.6	31.3	65.6	17.2	6.3	7.8	3.1	-	7.8	14.1	3.1
	70歳以上	102	15.7	18.6	52.9	10.8	3.9	3.9	2.9	2.0	4.9	24.5	4.9
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	19.6	27.7	58.0	24.1	7.1	13.4	13.4	2.7	8.9	13.4	0.9
	どちらともいえない	122	9.8	22.1	55.7	18.9	3.3	6.6	4.1	2.5	3.3	24.6	4.1
	身近に感じない	96	12.5	22.9	47.9	16.7	3.1	6.3	2.1	1.0	6.3	26.0	3.1
学習会等 への 参加状況	よく参加している	2	50.0	100.0	100.0	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-
	できるだけ参加する ようにしている	4	-	25.0	75.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-
	時々参加している	61	26.2	37.7	78.7	31.1	6.6	18.0	11.5	6.6	-	3.3	1.6
	参加したことがない	262	11.1	20.2	48.1	17.6	3.4	6.5	5.7	1.1	8.0	26.7	1.5

Q5-4 市が発行する広報「たかさご」に掲載している人権に関する記事を読んだことはありますか。①～②のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

① じんけん通信「あけぼの」(年4回掲載)

【全体】
○ じんけん通信「あけぼの」について、「読んだことがない」が37.7%で最も多く、次いで「読んだことがある」が30.5%、「掲載されていることを知らない」が28.4%となっています。「読んだことがある」「読んだことがない」を合わせた“知っている”は68.2%となっています。
○ 令和2年度調査と比べると、「読んだことがある」が15.9ポイント少なく、「掲載されていることを知らない」が11.8ポイント多くなっています。
【性別】
○ 女性では、「読んだことがある」が33.5%と、男性の27.0%に比べて多くなっています。
【年齢】
○ 60～69歳、70歳以上では、「読んだことがある」が4割以上となっている一方、39歳以下では14.7%、40～59歳では22.4%と少なくなっています。また、39歳以下では、「掲載されていることを知らない」が48.5%と、他の年齢層に比べて多くなっています。
【「人権」の身近さ】
○ 身近に感じる人では、「読んだことがある」が40.2%と、他の区分に比べて多くなっています。また、「人権」を身近に感じるほど“知っている”が多くなる傾向が見られます。

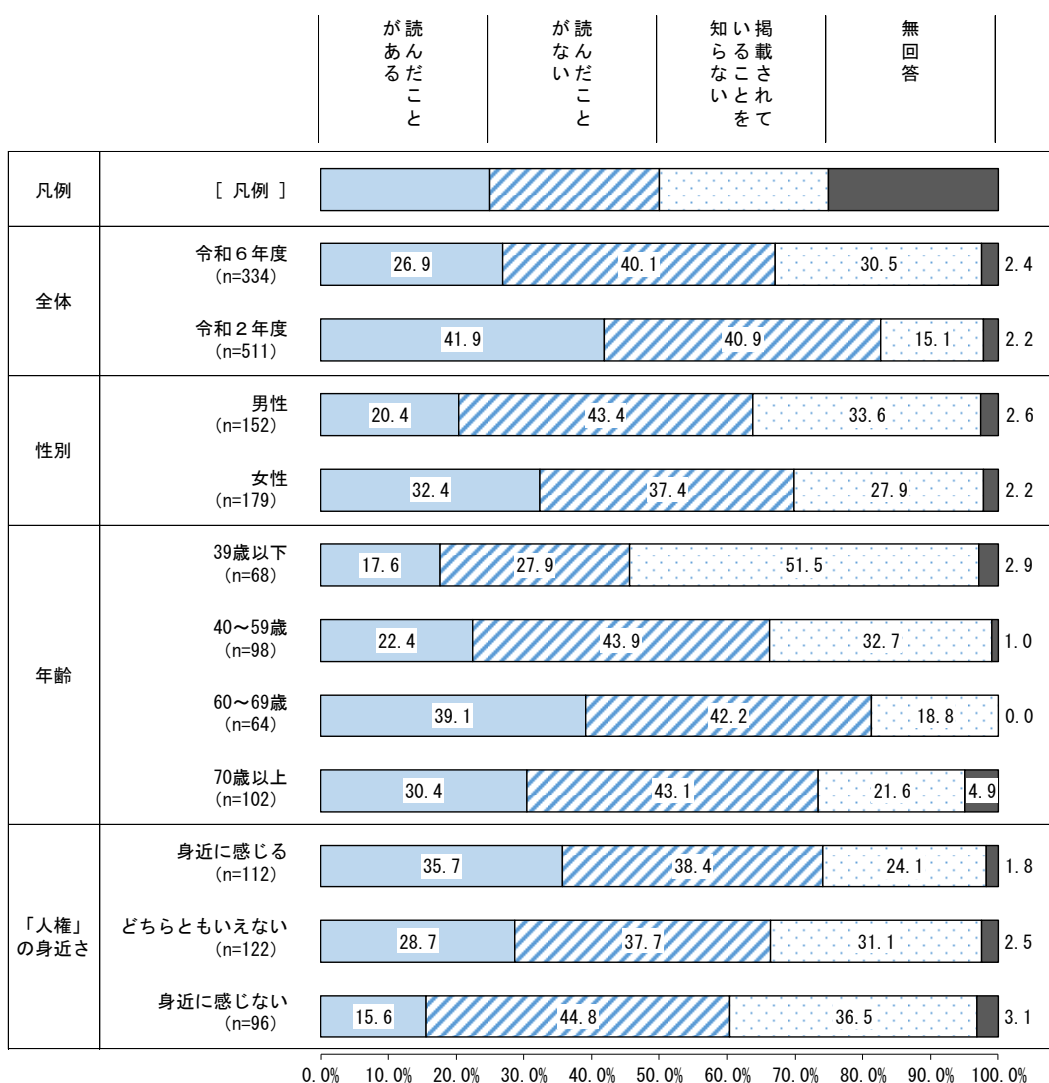
【じんけん通信「あけぼの」】



② 「みのり会館だより」(年4回掲載)

- 【全体】**
- 「みのり会館だより」について、「読んだことがない」が40.1%で最も多く、次いで「掲載されていることを知らない」が30.5%、「読んだことがある」が26.9%となっています。「読んだことがある」「読んだことがない」を合わせた“知っている”は67.0%となっています。
 - 令和2年度調査と比べると、「読んだことがある」が15.0ポイント少なく、「掲載されていることを知らない」が15.4ポイント多くなっています。
- 【性別】**
- 女性では、「読んだことがある」が32.4%と、男性の20.4%に比べて多くなっています。
- 【年齢】**
- 60～69歳では、「読んだことがある」が39.1%と他の区分に比べて多くなっています。また、70歳以上でも30.4%となっている一方、39歳以下では17.6%、40～59歳では22.4%と少なくなっています。また、39歳以下では、「掲載されていることを知らない」が51.5%と、他の年齢層に比べて多くなっています。
- 【「人権」の身近さ】**
- 身近に感じる人では、「読んだことがある」が35.7%と、他の区分に比べて多くなっています。また、「人権」を身近に感じるほど“知っている”が多くなる傾向が見られます。

【「みのり会館だより」】

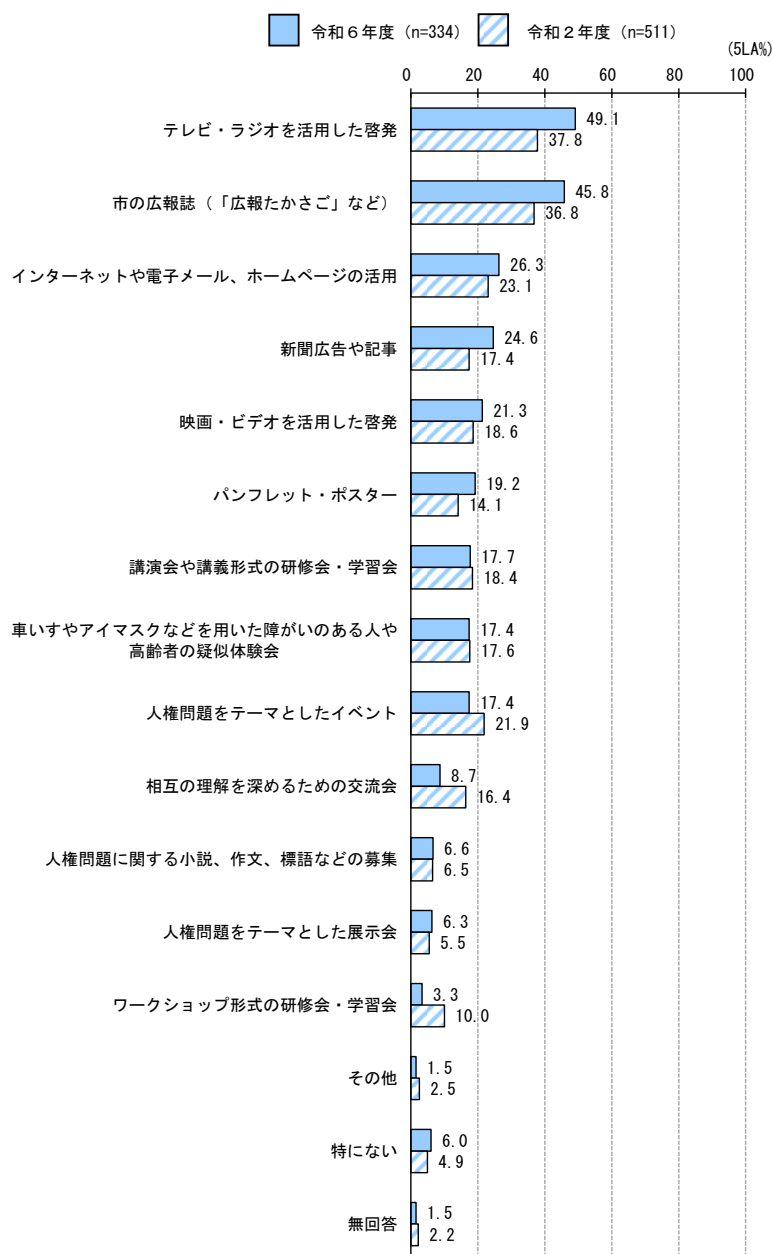


Q5-5 あなたにとって、人権尊重についての理解を深めやすいものはどれですか。(〇は5つまで)

【全体】

- 人権尊重についての理解を深めやすいものについて、「テレビ・ラジオを活用した啓発」が49.1%で最も多く、次いで「市の広報誌（「広報たかさご」など）」が45.8%、「インターネットや電子メール、ホームページの活用」が26.3%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「テレビ・ラジオを活用した啓発」「市の広報誌（「広報たかさご」など）」「新聞広告や記事」「パンフレット・ポスター」が多くなっています。一方、「相互の理解を深めるための交流会」「ワークショップ形式の研修会・学習会」が少なくなっています。

【人権尊重についての理解を深めやすいもの(5LA)】



※令和2年度調査…「人権啓発を進めるためには、市民に対してどのような啓発活動が効果的と思われますか。」

【性別】

- 「市の広報誌（「広報たかさご」など）」は、特に女性で49.7%と男性に比べて多くなっています。
- 男性では、「パンフレット・ポスター」「インターネットや電子メール、ホームページの活用」が女性に比べて多くなっています。
- 女性では、「車いすやアイマスクなどを用いた障がいのある人や高齢者の疑似体験会」が男性に比べて多くなっています。

【年齢】

- 「市の広報誌（「広報たかさご」など）」は、特に60～69歳で54.7%、70歳以上で66.7%と多くなっています。
- 39歳以下では、「テレビ・ラジオを活用した啓発」に次いで「映画・ビデオを活用した啓発」が39.7%と多く、他の年齢層に比べても多くなっています。
- 39歳以下、40～59歳では、「インターネットや電子メール、ホームページの活用」が3割以上と、他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じない人では、「市の広報誌（「広報たかさご」など）」が39.6%で最も多く、次いで「テレビ・ラジオを活用した啓発」が38.5%、「映画・ビデオを活用した啓発」が24.0%となっています。

単位：%

	母数 (n)	人権尊重についての理解を深めやすいもの(5LA)							
		テレビ・ラジオを活用した啓発	新聞広告や記事	市の広報誌（「広報たかさご」など）	映画・ビデオを活用した啓発	パンフレット・ポスター	メール、ホームページの活用	講演会や講義形式の研修会・学習会	ワークショップ形式の研修会・学習会
全体	334	49.1	24.6	45.8	21.3	19.2	26.3	17.7	3.3
性別	男性	50.0	25.0	41.4	19.7	22.4	35.5	17.8	1.3
	女性	48.0	24.0	49.7	22.9	16.8	19.0	17.9	5.0
年齢	39歳以下	50.0	10.3	26.5	39.7	19.1	36.8	13.2	4.4
	40～59歳	55.1	24.5	32.7	19.4	19.4	33.7	13.3	4.1
	60～69歳	51.6	21.9	54.7	25.0	28.1	21.9	26.6	4.7
	70歳以上	40.2	36.3	66.7	8.8	13.7	15.7	19.6	1.0
「人権」の身近さ	身近に感じる	55.4	18.8	53.6	21.4	18.8	34.8	24.1	6.3
	どちらともいえない	50.0	32.8	44.3	18.9	21.3	25.4	18.0	1.6
	身近に感じない	38.5	20.8	39.6	24.0	17.7	18.8	10.4	2.1

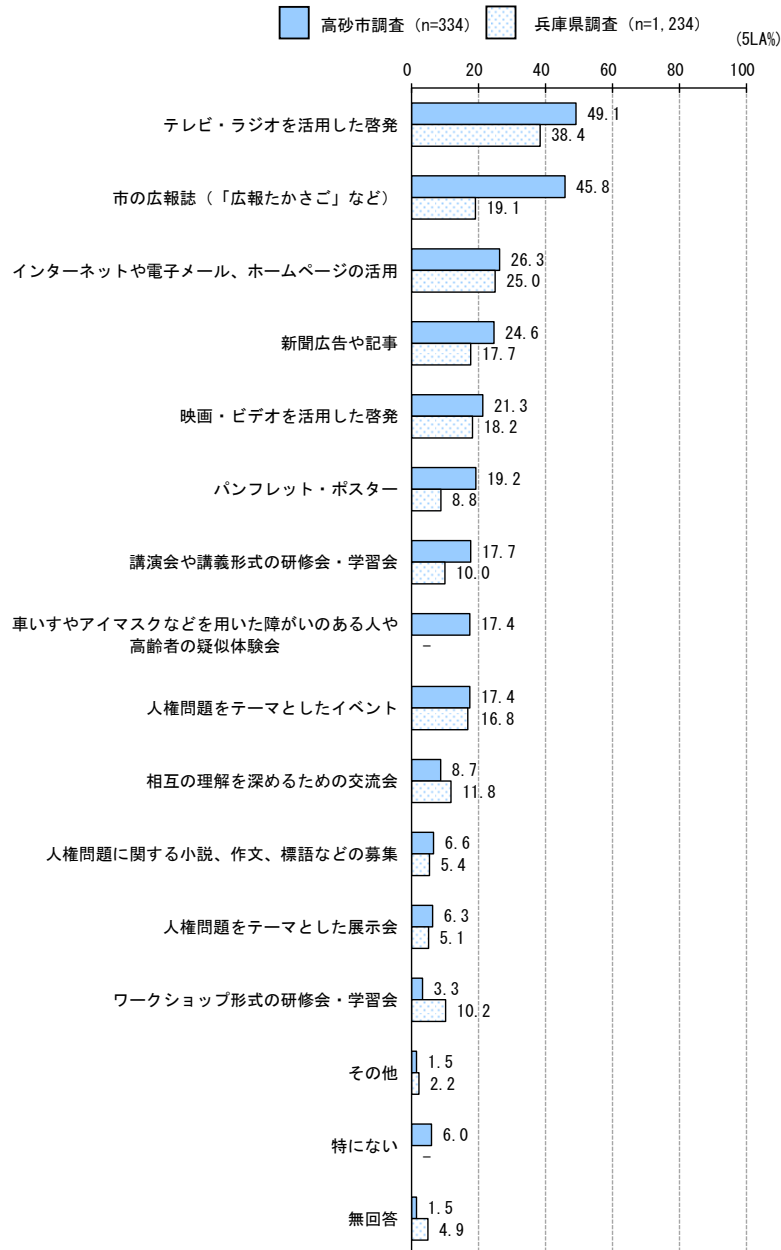
単位：%

	母数 (n)	人権尊重についての理解を深めやすいもの(5LA)							
		相互の理解を深めるための交流会	車いすや高齢者の障がいのある人など	人権問題をテーマとした展示会	人権問題に関する小説、文、問題集	人権問題をテーマとしたイベント	その他	特になし	無回答
全体	334	8.7	17.4	6.3	6.6	17.4	1.5	6.0	1.5
性別	男性	7.9	11.8	5.3	6.6	16.4	1.3	7.9	2.6
	女性	9.5	22.3	7.3	6.7	18.4	1.7	4.5	0.6
年齢	39歳以下	11.8	23.5	16.2	4.4	14.7	1.5	7.4	-
	40～59歳	7.1	17.3	6.1	8.2	16.3	-	6.1	1.0
	60～69歳	12.5	20.3	4.7	10.9	21.9	3.1	3.1	-
	70歳以上	5.9	11.8	1.0	3.9	17.6	2.0	6.9	3.9
「人権」の身近さ	身近に感じる	9.8	23.2	10.7	10.7	29.5	1.8	2.7	-
	どちらともいえない	7.4	16.4	4.1	5.7	12.3	1.6	7.4	3.3
	身近に感じない	9.4	12.5	4.2	3.1	10.4	1.0	8.3	1.0

【全体】

- 兵庫県調査と比べると、「テレビ・ラジオを活用した啓発」「市の広報誌（「広報たかさご」など）」「新聞広告や記事」「パンフレット・ポスター」「講演会や講義形式の研修会・学習会」が多くなっています。一方、「ワークショップ形式の研修会・学習会」が少なくなっています。

【人権尊重についての理解を深めやすいもの(5LA)】



※兵庫県調査…「人権啓発を進めるために、あなたは、県民に対してどのような啓発活動が効果的と思われますか。」

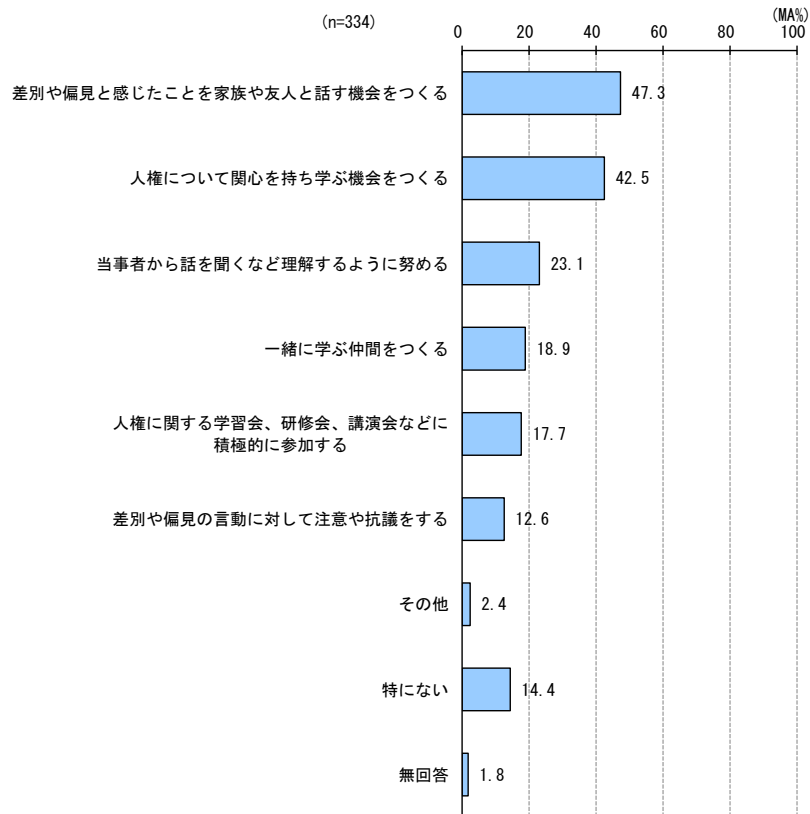
(6) さいごに

Q6-1 人権問題の解決のために、あなたはどのようなことができますか。(〇はいくつでも)

【全体】

○ 人権問題の解決のためにできることについて、「差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる」が47.3%で最も多く、次いで「人権について関心を持ち学ぶ機会をつくる」が42.5%、「当事者から話を聞くなど理解するように努める」が23.1%となっています。

【人権問題の解決のためにできること (MA)】



【性別】

- 「差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる」は、特に女性で52.5%と男性に比べて多くなっています。
- 男性では、「特にない」が19.0%と、女性に比べて多くなっています。

【年齢】

- 「差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる」は、特に40～59歳で58.2%と他の年齢層に比べて多くなっています。また、「人権について関心を持ち学ぶ機会をつくる」は、特に39歳以下で55.9%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 年齢層が下がるほど「当事者から話を聞くなど理解するように努める」「一緒に学ぶ仲間をつくる」が多くなる傾向が見られます。
- 70歳以上では、「特にない」が20.6%と、他の年齢層に比べて多くなっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じる人では、「人権について関心を持ち学ぶ機会をつくる」が55.4%と、他の区分に比べて多くなっています。
- 「人権」を身近に感じないほど「特にない」が多くなる傾向が見られます。

単位：%

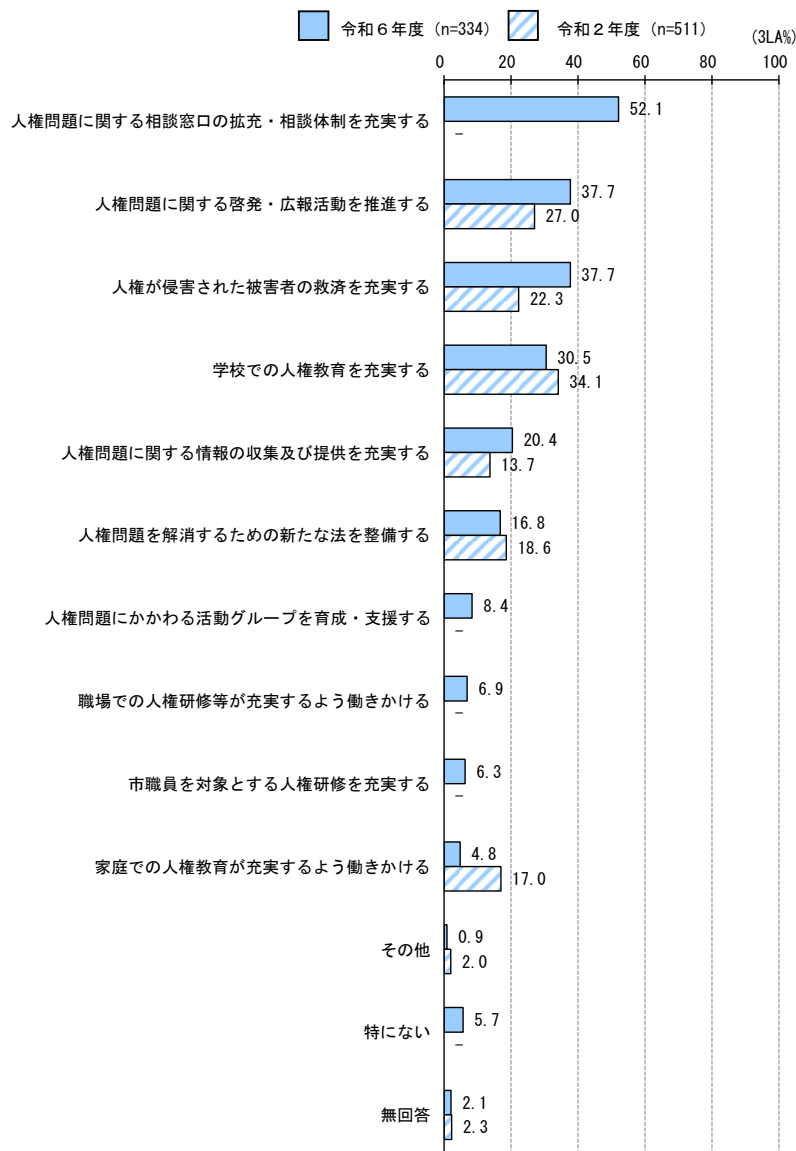
		母数 (n)	人権問題の解決のためにできること(MA)								
			を差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる	学人権について関心を持ち学ぶ機会をつくる	理解するから話を聞くなど	一緒に学ぶ仲間をつくる	人的修権に講演する会など、積極的に参加する	て差別や偏見の言動に対する注意や抗議をする	その他	特にない	無回答
全体		334	47.3	42.5	23.1	18.9	17.7	12.6	2.4	14.4	1.8
性別	男性	152	41.4	40.8	25.7	17.8	13.2	10.5	2.6	19.1	2.0
	女性	179	52.5	44.7	21.2	20.1	20.7	14.5	2.2	10.6	1.7
年齢	39歳以下	68	45.6	55.9	30.9	29.4	19.1	17.6	2.9	13.2	-
	40～59歳	98	58.2	44.9	25.5	21.4	12.2	11.2	2.0	9.2	-
	60～69歳	64	48.4	46.9	20.3	18.8	14.1	7.8	1.6	14.1	-
	70歳以上	102	37.3	29.4	17.6	9.8	23.5	13.7	2.9	20.6	5.9
「人権」の身近さ	身近に感じる	112	50.0	55.4	34.8	27.7	22.3	17.9	1.8	7.1	0.9
	どちらともいえない	122	50.8	38.5	17.2	13.1	14.8	12.3	3.3	13.9	2.5
	身近に感じない	96	39.6	33.3	17.7	15.6	14.6	7.3	2.1	24.0	2.1

Q6-2 人権問題の解決のために、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

- 市が力を入れていくべきことについて、「人権問題に関する相談窓口の拡充・相談体制を充実する」が52.1%で最も多く、次いで「人権問題に関する啓発・広報活動を推進する」「人権が侵害された被害者の救済を充実する」が37.7%、「学校での人権教育を充実する」が30.5%となっています。
- 令和2年度調査と比べると、「人権問題に関する啓発・広報活動を推進する」「人権が侵害された被害者の救済を充実する」「人権問題に関する情報の収集及び提供を充実する」が多くなっています。一方、「家庭での人権教育が充実するよう働きかける」が少なくなっています。

【市が力を入れていくべきこと(3LA)】



※令和2年度調査…「人権問題を解決するために必要と思われることは何ですか。」

※今回調査で選択肢を整理したため、令和2年度調査と同一の選択肢のみ比較対象としています。

【性別】

- 「人権問題に関する相談窓口の拡充・相談体制を充実する」は、特に女性で54.7%と、男性に比べて多くなっています。一方、「人権問題に関する啓発・広報活動を推進する」は、特に男性で41.4%と女性に比べて多くなっています。

【年齢】

- 「人権問題に関する相談窓口の拡充・相談体制を充実する」は、特に40～59歳で63.3%と他の年齢層に比べて多くなっています。
- 39歳以下では、「人権が侵害された被害者の救済を充実する」が44.1%で最も多くなっています。また、「学校での人権教育を充実する」が41.2%と、他の年齢層に比べて多くなっています。
- 70歳以上では、「人権問題に関する相談窓口の拡充・相談体制を充実する」に次いで「人権問題に関する啓発・広報活動を推進する」が46.1%と、他の年齢層に比べても多くなっています。

【「人権」の身近さ】

- 身近に感じる人では、「人権問題に関する相談窓口の拡充・相談体制を充実する」が54.5%で最も多く、次いで「人権が侵害された被害者の救済を充実する」が47.3%、「人権問題に関する啓発・広報活動を推進する」が42.9%となっています。
- 身近に感じない人では、「特にない」が11.5%と、他の区分に比べて多くなっています。

単位：%

		母数 (n)	市が力を入れていくべきこと(3LA)						
			広 報 活 動 を 推 進 す る 啓 発 ・ 実 行 の 充 実	実 行 の 充 実 に 関 連 す る 制 度 の 充 実	人 権 が 侵 害 さ れ た 被 害 者 の 救 済 を 充 実	収 入 支 出 に 関 連 す る 情 報 の 充 実	新 た な 法 を 整 備 す る た め の 充 実	研 究 員 を 充 実 す る た め の 充 実	実 務 場 所 で の 人 権 研 修 等 が 充 実
全体		334	37.7	52.1	37.7	20.4	16.8	6.3	6.9
性別	男性	152	41.4	48.7	38.2	21.7	18.4	7.2	7.2
	女性	179	34.6	54.7	38.0	19.6	15.6	5.6	6.1
年齢	39歳以下	68	32.4	42.6	44.1	11.8	20.6	4.4	11.8
	40～59歳	98	31.6	63.3	40.8	24.5	19.4	3.1	5.1
	60～69歳	64	40.6	48.4	43.8	18.8	10.9	10.9	6.3
	70歳以上	102	46.1	50.0	27.5	23.5	15.7	7.8	4.9
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	42.9	54.5	47.3	24.1	19.6	8.0	8.0
	どちらともいえない	122	39.3	51.6	37.7	15.6	19.7	7.4	9.0
	身近に感じない	96	30.2	50.0	28.1	21.9	10.4	3.1	2.1

単位：%

		母数 (n)	市が力を入れていくべきこと(3LA)					無 回 答
			学 校 で の 人 権 教 育 を 充 実	家 庭 で の 人 権 教 育 が 充 実	人 権 問 題 に 関 連 す る 活 動 の 充 実	そ の 他	特 に な い	
全体		334	30.5	4.8	8.4	0.9	5.7	2.1
性別	男性	152	28.3	3.3	5.9	1.3	7.9	2.0
	女性	179	33.0	6.1	10.6	0.6	3.9	2.2
年齢	39歳以下	68	41.2	2.9	5.9	1.5	7.4	2.9
	40～59歳	98	27.6	5.1	9.2	-	3.1	1.0
	60～69歳	64	31.3	3.1	9.4	1.6	4.7	1.6
	70歳以上	102	26.5	6.9	8.8	1.0	7.8	2.9
「人権」 の身近さ	身近に感じる	112	30.4	1.8	9.8	0.9	1.8	1.8
	どちらともいえない	122	33.6	5.7	9.8	-	4.9	1.6
	身近に感じない	96	28.1	7.3	5.2	2.1	11.5	3.1

Q6-3 人権についてどのような問題がありますか。考えておられることをご自由にご記入ください。

カテゴリー	件数（重複あり）
子どもについて	9
障がいのある人について	3
外国人について	3
LGBTQ+などについて	2
部落差別（同和問題）について	5
インターネットについて	9
働く人について	1
人権啓発について	9
相談について	3
アンケートについて	4
その他	15

・ 子どもについて

ご意見	回答者の属性	
学校や職場、公共交通機関といった公共の場で性犯罪やいじめなどの問題が起こっているというニュースを日々目にします。いじめについては、被害を受けている子ども、その保護者が相談をしているにも関わらず、学校などは、上手く対処することができずに時間だけが過ぎていく状態になっていること、今の日本は少子高齢化が進んでいるため、このような問題でこれからの日本を支えていく子どもたちの命が失われるのは、改善すべき点だと思うので、自分は関係ないと思うのではなく、自分にも関係があるという自覚を持って行動してほしいと思います。	男性	20～29歳
子どもの人権問題。特に虐待、いじめ、不登校について。	男性	70歳以上
子どものいじめが気になります。大人には理解できないいじめがあると思います。不登校になってからでは遅いです。担任の先生にまかせるには、負担が大きすぎます。専門の知識のある方を各学校におくとか、相談窓口を多くしてほしいです。	女性	70歳以上
学校で小さい時から他人と仲良くするための道徳教育をもっと勉強できるようにしてほしい。	男性	70歳以上
基本は家庭内での会話だと思います。親がしっかりした人権についての考えを持ち、子へと継げていくために、大人が学ばねばなりません（とはいえその大人も昔は子どもだった訳ですが）。どこからでも始めていく活動が大切ですね。	女性	60～69歳
最近では、小学生でもスマホを持っている家庭が多いと思う。インターネット上でのプライバシーの取り扱いを学校などで定期的に教育する機会を作るべきだと思う。（インターネットのカテゴリと重複）	男性	30～39歳
孫が学校でいじめられた時に「子ども同士が暴力や仲間外れ、無視などのいじめをすること」「いじめをしている人や、いじめられている人を見つめふりをする」ということが問題であると思いました。	女性	70歳以上

ご意見	回答者の属性	
こどもができてから常に今後のことが心配になりました。まだ小さいですが、これから一人で行動する機会が増えていくにつれ危険なことに巻き込まれないかと……。あれこれ便利になっていくのは良いことですが、不安が尽きません。見守りカメラを増やすなど対応して下さると助かります。←こどもの人権。	女性	30～39歳
高砂市の教育委員会は柔軟性が足りないと思う。明石市を見習ってもらいたい。遅れすぎだと思う。	女性	40～49歳

・障がいのある人について

ご意見	回答者の属性	
私は人権が守られてると感じたことはありません。市のほうへ何度も相談に行っても事務的に扱われ帰りは足が重く感じ行くだけムダだったとも思います。福祉も充実しておらず障害者が困っていることの助けにもなっていないと感じています。住みにくいです。法律や市の決まりごとで相談しても却下されるばかりです。なんとかならないのでしょうか？	女性	60～69歳
障害のある人の施設は山の近くによくあるように、高砂市も形だけは福祉に力を入れているようにしているだけで放置している。今にも驚くような建物は地震があればどう責任を取るのか。間違いなく市は障害ある方に対して人権を尊重していない。地震でもあれば、潰れてしまえばいいと考えているようにしか思えません……。市役所が新しくなれば、次に取りかかって欲しいと思っていたのに、何もしない。最悪。	男性	50～59歳
障害を持っていても家族が隠している。特に発達障害（アスペルガー症候群）者のことは理解してあげるべき。	男性	70歳以上

・外国人について

ご意見	回答者の属性	
以前聞いたことがある逆差別はなくなっているの（高砂市では）？部落民への優遇制度（固定資産税等の免除や運転免許取得費補助）、在日外国人（条例住民）への優遇制度……。憲法に規定されている生活保護の対象は日本人のみのはず。（部落差別（同和問題）のカテゴリと重複）	男性	60～69歳
移民が入ってきている中、事件や自国文化を行う等の行為が連日ニュースになっているが、対策をしているのかわからない状況で、今後も対応策をせずに移民の受け入れしかならないのか不安しかない。	男性	30～39歳
外国人に使う金を日本人に与えてほしい。なぜ日本に住む日本人より日本に住む外人のほうがお金があるのか？おかしくないか？税金も、作らなければ日本人はもっと給料がある。考えてほしい。外国人を日本に住まわさないで。住まわすなら日本人優先でしてほしい。	女性	20～29歳

・LGBTQ+などについて

ご意見	回答者の属性	
同性恋愛を認めてほしい。	女性	20～29歳
LGBTQの人を配慮した設備作りやルール作りをするのは良いが、通常の人と体の性が一致している人に不利になるようなことになるのはおかしい。	男性	20～29歳

・部落差別（同和問題）について

ご意見	回答者の属性	
部落差別（同和問題）は、表面上、今は大きく取り上げず、人権問題としてまとめています。しかし、結婚となると、いまだにその差別意識を持っている高齢者はあります。外国籍との結婚も同様です。これからの世代を（若者）考えると意識を広く正しく持つよう啓発は続けていくことが必要と思います。	男性	70歳以上
人権について身近に感じたことがないのです。同和問題については、わざわざ取り上げなくともいいと思います。	女性	70歳以上
高校生になった時に初めてクラスの1人に自ら私は部落出身だと話してくれました。それが私にとって身近な同和問題だったのですが、彼女はとても明るく私も別に何の問題もなく、仲良く過ごしました。その後私は色々転居して大阪府下である地域は部落と耳にしましたが、それは正しくない情報と認識だと思っていたので、特に同和問題について知らない人が多いのではないかと思います。知っていても私のように差別なく交流されている人も多いのではと思うので、取り上げてされるなら大きく国民団体の目にふれるように正しい知識を公開されたほうが良いのかと思いました。	女性	60～69歳
以前聞いたことがある逆差別はなくなっているの（高砂市では）？部落民への優遇制度（固定資産税等の免除や運転免許取得費補助）、在日外国人（条例住民）への優遇制度・・・憲法に規定されている生活保護の対象は日本人のみのはず。（外国人のカテゴリと重複）	男性	60～69歳
インターネット等の人権侵害は顔が見えず、発信者が特定されないこともあるため、なくなるのは難しいと思うが、一人ひとりの考え方が正しい方向に向かうよう有名な方（影響のある人）等が根気よく話してほしい。部落差別に関しては本当にバカげた差別で、私がこどもの頃、大人に「この地域は・・・」と聞いた時、「みんな同じだし、仲良くしたら良いのに」と呆れた記憶があります。その後学校で「部落差別はダメです」と学び、わざわざ知らなかったこと（地域を限定）を教えられ、この大人たちは何なんだ！！と腹が立ったことがあります。奥深い問題もあるかもしれませんが、今更・・・平和に仲良くするにはわざわざ教える必要もなくそういうことを話してくる人、「この地域は部落なのよ」などと言う人は軽蔑のまなざしで無視すればいいし、「だからそれが何ですか？」と逆に聞いてやればいい。こどもの頃腹が立った思い出がよみがえり長文失礼しました。全ての人がお互いを尊重、思いやりの心で仲良くできる社会になればいいと願います。（インターネットのカテゴリと重複）	女性	50～59歳

・インターネットについて

ご意見	回答者の属性	
インターネットによる誹謗中傷の拡散	男性	60～69歳
離婚する際に全く知らない人から私の至らない点や身に覚えのない誹謗中傷を書かれました。その人達は何も社会から指導されることなく何事もなく生きてますが、私は今も心に傷を負っています。人を傷つけておいて何の罪もない世の中です。その中には学校の元校長の方もいました。学校で何を教えているのでしょうか。人権教育を教える立場の人間がそのような世の中です。何も期待していません。	女性	30～39歳
最近では、小学生でもスマホを持っている家庭が多いと思う。インターネット上でのプライバシーの取り扱いを学校などで定期的に教育する機会を作るべきだと思う。（こどものカテゴリと重複）	男性	30～39歳
SNSなどインターネットで間違った情報が流れ、広がるのが怖いと思う。	女性	60～69歳
3-11のインターネットによる人権侵害が今一番の問題と思う。警察、政府、裁判所etcしっかり取り締まる法整備を早急にしてほしい。	女性	70歳以上
人権問題について学べる場があればいいと思います。インターネットの書き込みも良い悪いも考えずにしている人もいます。（人権啓発のカテゴリと重複）	女性	50～59歳
インターネット等の人権侵害は顔が見えず、発信者が特定されないこともあるため、なくなるのは難しいと思うが、一人ひとりの考え方が正しい方向に向かうよう有名な方（影響のある人）等が根気よく話してほしい。部落差別に関しては本当にバカげた差別で、私がこどもの頃、大人に「この地域は・・・」と聞いた時、「みんな同じだし、仲良くしたら良いのに」と呆れた記憶があります。その後学校で「部落差別はダメです」と学び、わざわざ知らなかったこと（地域を限定）を教えられ、この大人たちは何なんだ！！と腹が立ったことがあります。奥深い問題もあるかもしれませんが、今更・・・平和に仲良くするにはわざわざ教える必要もなくそういうことを話してくる人、「この地域は部落なのよ」などと言う人は軽蔑のまなざしで無視すればいいし、「だからそれが何ですか？」と逆に聞いてやればいい。こどもの頃腹が立った思い出がよみがえり長文失礼しました。全ての人がお互いを尊重、思いやりの心で仲良くできる社会になればいいと願います。（部落差別（同和問題）のカテゴリと重複）	女性	50～59歳
バカにするためにSNSで一般人の顔写真を晒す行為などが見受けられ、恐ろしいなと思う。	女性	20～29歳
インターネットによる差別書き込みが後を絶たないと思う。内容もよくわからない人達が憶測で言葉を発してしまうのはどういう気持ちなのか全くわからない。	女性	40～49歳

・働く人について

ご意見	回答者の属性	
正規雇用と非正規雇用の差による明らかな対応の違い	男性	30～39歳

・人権啓発について

ご意見	回答者の属性	
外見的な障害であれば周りは気付く（理解しようと思ったりする）ことは割とできるかと思いますが、内面的な障害については、人前では全力で気付かれないようにしていると思うので周りが気付きにくいと感じます。外見、内面と関係なく幼少期から人権とは何かということを経験等をしていくことが必要と感じます。人権だけでなく物事のとらえ方は人それぞれだと思うので理解しようと思う心を育てることが必要と考えています（当事者を100%理解することはできませんので）。	女性	40～49歳
コロナ禍により、必然的に生じてしまった小さな心の壁のようなものが、年代を問わずまだ残っているように感じます。地域の“ラジオ体操”に参加させていただいたのですが、何気ない会話から、簡単なコミュニケーションから心の壁は薄く、小さくなっていくのでは…？と感じています。年齢を問わずに参加できる催しなどがあれば是非参加したいなあと思います。	女性	60～69歳
人権は憲法に保証された権利であり、みんなが守り、推進していくにはどうしたらいいのか、常に頭の中において、みんなが実行していくにはどうしたらいいのか、市、市民すべての人が考え、行動していく機会を作っていけたらいいと思う。	男性	70歳以上
人権侵害等の問題を解決することは、非常に困難であると感じています。人に対して優しい気持ちで接することができるような社会を目指す。また、どのようなことが人を傷つけているのかという課題を一人一人が認識して生活するしかありません。	男性	50～59歳
人権問題について学べる場があればいいと思います。インターネットの書き込みも良い悪いも考えずにしている人もいます。（インターネットのカテゴリと重複）	女性	50～59歳
人権と言うフレーズが重たく感じる。今風のカタカナで理解しやすいフレーズを若者に広めてもらう。そのためにSNSを上手に使う。そういうSNSに特化した部署を作ってみるのもよし。	男性	40～49歳
なかなかすぐに解決できる問題ではないと思うので、公的機関が進んで情報発信、啓発活動を継続して行っていただきたい。	男性	70歳以上
人権侵害を受けているということをもっとも気づけていないことがあると思います。例えば一世代前はハラスメントが当たり前でも当時は気づけなかったなど。やっとハラスメントはだめだというように認識が広がってきたと思いますが、そうした声を上げていくのはいつも当事者からになると思います。しかし当事者は声を上げづらい。なので、市が積極的に人権意識に根付いた啓発活動をし、あらゆる差別を許さない認識を広げていってもらえるとありがたいと思いました。	女性	30～39歳
人権問題と言っても当事者でなければわからないことはたくさんあると思います。行政も含め当事者でない人が、こうしたら良いだろうと勝手に進めるのではなく、行政が当事者に寄り添ったり、要望を聴いたり、同じ人が出ないように取り組みを検討したり、進めることが大事かなと思います。	男性	40～49歳

・相談について

ご意見	回答者の属性	
人権問題に関して、相談できる機関、システムがあったとしても、当事者が相談まで実行に移せず抱え込んでしまう人も少なからず存在する点。	男性	20～29歳
どこからが人権問題かわからないので、当事者が1人で問題を抱えることが多いと思う。気軽に相談できる場所があってほしい。	女性	50～59歳
人権侵害を受けた人が「仕返し」「周囲の目」等を気にして、自分自身の内に納めてしまい、他の人はそれに気づいていないのでは？ 受けた人間が周囲の人に伝えやすい環境を作るべき。	男性	70歳以上

・アンケートについて

ご意見	回答者の属性	
人権は一言で表現すると、難しいですよ。なかなか解決できないですよ。これは難しいアンケートですね。調査して何になるのか！	女性	40～49歳
毎日の生活に手一杯で特に人権に関して意識していることはあまりありません。このアンケートを受けたことを機会として考えていきたいと思いました。	女性	70歳以上
今まで人権に関して他人事のように考えてましたが、今回の調査をきっかけに考える機会になりました。ありがとうございます。	女性	70歳以上
こんなアンケートに何か意味があるのでしょうか。	男性	60～69歳

・その他

ご意見	回答者の属性	
人権、人権と声高に訴える以前に人間として、日本に住み、県に、市に、生活しているうえで、国税、県税、市税を納めたうえで、人権を主張すべきではないでしょうか？ まず、それを一番に考えることだと思います。一生懸命働いた人には所得がある、働かない人には所得がない、差別があって当たり前、人権にも差別があって当たり前ではないでしょうか？	女性	70歳以上
人権問題がまだまだ根強いですね。	女性	70歳以上
私は県外から嫁いできましたが高砂市内のある地区では、嫁入りした女性の嫁入り支度を近所の皆さまに披露しなければならない習慣があると聞き、驚きました。まだそんなことをしている地域があるのか、と。今までもそうであったからという理由で今後もそのようなことが行われるようでは、人権意識というものもなかなか育たないのではないかと思います。この高砂に来てから31年、この街を自身の第2の故郷と思い、大事な街であるからこそ、上記のようなことを悲しく思いもします。	女性	50～59歳
時代の流れで、宗教や仏教などが薄れて自己主義が多く、道徳精神が欠けている。	男性	70歳以上
身近な問題として考えにくい。	男性	60～69歳
人権問題では、自分自身差別されたり、差別したことはありません。	男性	70歳以上
今のところ、身近にはない。	男性	70歳以上

ご意見	回答者の属性	
昔に比べたら問題点が減っている気がする。	女性	50～59歳
仕事や立場を超えた真の人間性や正義感、論理感を持った方に出会える機会がほしい。公的機関に頼れないような状況が多いように思います。	女性	60～69歳
現時点で身近に人権について問題が起こっていないので難しいが考えていけないといけないと思いました。	男性	40～49歳
皆が住みやすい町にそれぞれが感心を持ってお互い様精神で生活できたら良いですね。絶対に差別はあってはならないです。	女性	50～59歳
あまり真剣に考えていませんでした。	女性	70歳以上
地域内でのつながりが減り、収入による格差が広がりトラブルが増えて行くことが予想される。	男性	60～69歳
侵害した側を罪に問えないなら何しても無駄	男性	20～29歳
人権ってとても難しい問題だと思います。	男性	18～19歳

3. 調査結果のまとめ

(1) 人権問題に対する意識について

① 「人権」の身近さと社会全体の人権意識

- 約3割の人が「人権」を身近に感じている。男性や39歳以下が多い。
- 高砂市を人権が尊重されている市だと感じる人は約4割と前回調査より多くなっている。5年前と比べた市民の人権意識の向上を感じている人は約3割で、特に女性や「人権」を身近に感じる人が多い。
- 年齢層が下がるほど5年前に比べて人権が侵害されることは減っていると感じる人が多くなる傾向が見られる。

- ・「人権」を“身近に感じる”人は約3割。性別では男性（約4割）、年齢別では39歳以下（約5割）で“身近に感じる”人が多い。一方、70歳以上では“身近に感じない”人が約3割と多い。
- ・今の日本の社会は人権が尊重されていると“思う”人は約5割。高砂市については約4割と社会全体と比べると少ないが、前回調査（約3割）と比べると多くなっている。社会全体、高砂市のいずれも、「人権」の身近さ同様、性別では男性、年齢別では39歳以下で“そう思う”人が多い。
- ・市民一人ひとりの人権意識は5年前に比べて高くなっていると“思う”人は約3割。女性は男性に比べて「人権」を“身近に感じる”人や社会全体、高砂市は人権が尊重されていると“思う”人が少ないが、5年前に比べて人権意識が高くなっていると“思う”人は男性よりもやや多い。また「人権」を身近に感じる人ほど“そう思う”人が多くなる傾向が見られる。
- ・5年前に比べ人権が侵害されることは減っていると“思う”人は約3割。年齢層が下がるにつれて、“そう思う”人が多くなる傾向が見られる。「人権」を身近に感じない人では、“そう思う”人が約4割と多い。

② 人権や差別をめぐる考え方

- 人権問題や差別は差別を受ける人の側だけの問題ではないと考える人、差別の法的禁止措置を求める人、他人の権利を尊重しない人が増えていると感じる人が多いが、能力による格差や差別の完全な解消は難しいと考える人が多い。
- 差別に対して抗議や反対をすることで問題が解決しにくくなるという考え方には年齢層によって差があり、全体として意見が分かれている。
- 「人権」を身近に感じる人では、差別の完全な解消は無理ではないと考える人、差別に対して抗議や反対をすることで問題が解決しにくくなることはないとする人が多い。

- ・「人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない」「差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い」という考え方については反対する人がそれぞれ約8割、約6割と多い。いずれも女性で反対する人が多く、また「人権」を身近に感じる人ほど反対が多くなる傾向が見られる。また、「個人の権利より、地域みんなの利益を優先することが大切だ」という考え方についてはどちらともいえない人、反対する人がいずれも約4割だが、男性はどちらかという賛同寄り、女性はどちらかという反対寄りの意見とわずかに男女差が見られる。39歳以下では賛同も比較的多いものの反対が多く意見が分かれている。「人権」を身近に感じる人では「どちらともいえない」が少なく賛同・反対意見に分かれている。

- ・「競争社会だから能力による格差が生じるのは仕方がない」「どのような手段を講じて、差別を完全になくすことは無理だ」という考え方については賛同する人がそれぞれ約5割、約6割と多い。いずれも性別では男性、年齢別では39歳以下で賛同する人が多い。「どのような手段を講じて、差別を完全になくすことは無理だ」という考え方については、「人権」を身近に感じる人では反対意見が他の区分に比べて多い。
- ・「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」という考え方については賛同・反対が同程度（約3割）となっているが、年齢別に見ると、70歳以上では賛同、39歳以下・60～69歳では反対、40～59歳では同程度と年齢差が見られる。また、「人権」を身近に感じる人では反対意見が他の区分に比べて多い。
- ・「差別は法律で禁止する必要がある」「自分の権利ばかり主張して、他人の権利を尊重しない人が増えている」という考え方については賛同する人がそれぞれ約5割、約7割と多い。いずれも「人権」を身近に感じる人で強い賛同意見を持つ人が多い。

③ 人権侵害の経験

- 約2割の人が過去5年間で人権が侵害された経験あり。「人権」を身近に感じる人では経験がある人が約3割と多く、人権侵害被害と身近さとの関連性がうかがえる。
- 「職場等でのハラスメント」が前回調査からさらに多くなり約5割。
- 人権侵害を経験した約7～8割の人において問題は解消されていない。

- ・ 過去5年間で人権が侵害された経験が「ある」人は約2割。特に女性や69歳以下で2割以上と多い。また、「人権」を身近に感じる人では、「ある」が約3割と多い。
- ・ 経験した人権侵害の内容としては、「職場でのハラスメント」（約5割）「あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害」（約3割）「公的機関や企業・団体による不当な扱い」（約3割）が多い。前回調査と比べると「職場等でのハラスメント」「公的機関や企業・団体による不当な扱い」「プライバシーの侵害」「差別待遇」が多くなっている。
- ・ 経験した人権侵害について、「あまり解消されていない」が約4割、「全く解消されていない」が約3割。また、「人権」を身近に感じる人では、「あまり解消されていない」「全く解消されていない」がともに約4割と多い。

④ 関心のある人権問題

- インターネットによる人権侵害に関する問題への関心が高い。
- 女性に関する問題は、当事者である女性や59歳以下では関心が高い。
- 性自認、性的指向に関する問題は59歳以下と60歳以上で関心度に差が見られる。

- ・関心のある人権問題について、「インターネットによる誹謗中傷などの人権侵害に関する問題」が約6割で最も多く、次いで「障がいのある人に関する問題」「高齢者に関する問題」がともに約4割。
- ・女性（約4割）や39歳以下（約5割）、40～59歳（約4割）では「女性に関する問題」が多い。
- ・「LGBTQ+など性自認、性的指向に関する問題」は59歳以下（約2～4割）と60歳以上（1割未満）で大きな差が見られる。
- ・「人権」を身近に感じる人では「インターネットによる誹謗中傷などの人権侵害に関する問題」に次いで「障がいのある人に関する問題」が約6割と多い。

(2) 各分野の人権問題について

① 女性に関すること

- 仕事と家事や育児・介護を両立できる環境の整備が多くの人に問題視されている。
- 当事者である女性と男性で問題意識にやや差が見られる。
- セクシュアル・ハラスメントは年齢層が下がるほど問題視される傾向が見られる。

- ・女性の人権上、問題があると思うことについて、「男女ともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」が約6割で最も多く、次いで「男女の固定的な性別役割分担意識」が約4割、「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」が約3割となっている。
- ・性別に見ると、「男女の固定的な性別役割分担意識」は女性で、「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」は男性で多い。また、「セクシュアル・ハラスメント」は、年齢層が下がるにつれて多くなる傾向が見られる。

② こどもに関すること

- 心理的虐待や育児放棄、いじめに関することが多くの人に問題視されている。
- 子育て世代（39歳以下）の意見として、こどもへの体罰やこどもを育てる環境が孤立していることが挙げられている。

- ・こどもの人権上、問題があると思うことについて、「こどもに心理的虐待を加えたり、子育てを放棄すること」が約6割で最も多く、次いで「こども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをすること」が約4割、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること」が約3割となっている。
- ・39歳以下では、「保護者がいうことを聞かないこどもにしつけのつもりで体罰を与えること」「家庭、学校、地域の連携が弱く、こどもを育てる環境が孤立していること」が他の年齢層に比べて多い。

③ 高齢者に関すること

- 詐欺などによる被害、住・生活環境に関することが多くの人に問題視されている。
- 親などの介護を担う世代（40～69歳）の意見として、介護支援制度が不十分であることが挙げられている。

- ・ 高齢者の人権上、問題があると思うことについて、「悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと」が約4割で最も多く、次いで「高齢者が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」「身近に店舗がない、移動手段がないなどで日常の買い物が行きにくい、不便であること」がともに約3割となっている。
- ・ 「高齢者が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」は、60～69歳では約5割、70歳以上では約4割と多い。
- ・ 40～59歳、60～69歳では、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」が3割以上と他の年齢層に比べて多い。

③ 障がいのある人に関すること

- 住環境、就労も含めた社会参加に関することが多くの人に問題視されている。
- 住環境については、特に60歳以上や「人権」を身近に感じる人で整備が不十分と感じている人が多い。

- ・ 障がいのある人の人権上、問題があると思うことについて、「障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」が約5割で最も多く、次いで「働く場所や機会が少なく、待遇が十分保障されていないこと」が約4割、「社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと」が約3割となっている。
- ・ 「障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」は、60～69歳、70歳以上で5割以上と多い。
- ・ 「人権」を身近に感じる人（関心のある人権問題について約6割が「障がいのある人に関する問題」と回答）では、「障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと」が5割以上と多い。

④ 外国人に関すること

- こどもへの教育や災害時の情報発信時における言語対応、差別行為が多くの人に問題視されている。
- シニア世代（60歳以上）の意見として、病院などにおける言語対応が不十分であることが挙げられている。

- ・ 外国人の人権上、問題があると思うことについて、「言語の問題等により外国人のこどもに対する十分な教育ができないこと」が約4割で最も多く、次いで「災害などの情報提供において、外国語での情報発信が十分でないこと」「差別的な発言（ヘイトスピーチなど）や行為など受けること」がともに約3割となっている。
- ・ 60～69歳、70歳以上では、「病院や施設などで、外国語の表記などの対応が十分でないこと」が他の年齢層に比べて多い。

⑤ 性自認、性的指向に関すること

- パートナーとの関係が公に認められないこと、差別やいじめがあることが多くの人に問題視されている。特に若い世代で問題視している人が多い。
- 性的マイノリティであることを本人の承諾なしに第三者に伝えることは、年齢層が下がるほど問題視される傾向が見られる。

- ・ 性自認、性的指向に関することで人権上、問題があると思うことについて、「パートナーとの関係が公に認められないこと」「差別的な言動をされること」が約4割、「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」が約3割となっている。
- ・ 「パートナーとの関係が公に認められないこと」「差別的な言動をされること」は、特に39歳以下で多い。また、39歳以下では、「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」も他の年齢層に比べて多い。
- ・ 「性的マイノリティであることを本人の承諾なしに第三者に伝えること」は、年齢層が下がるにつれて多くなる傾向が見られる。

⑥ 犯罪被害者やその家族に関すること

- プライバシーの侵害、精神的・経済的負担、警察に相談しても期待どおりの結果が得られないことが多くの人に問題視されている。
- プライバシーの侵害は年齢層が下がるほど問題視される傾向が見られる。

- ・ 犯罪被害者やその家族の人権上、問題があると思うことについて、「過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること」が約5割で最も多く、次いで「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」「警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと」がともに約4割となっている。
- ・ 「過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること」は、年齢層が下がるにつれて多くなる傾向が見られる。また、「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」は、特に39歳以下で他の年齢層に比べて多い。

⑦ 部落差別（同和問題）に関すること

- 部落差別（同和問題）の理解度には39歳以下と40歳以上で差が見られ、39歳以下では約半数が言葉のみを認知している状況。また、「人権」を身近に感じる人ほど理解度が高い。
- 結婚問題での周囲からの反対、同和地区への居住の敬遠、差別的言動が多くの人に問題視されている。39歳以下では差別的言動、40歳以上では結婚問題を問題視する人が多い。
- 家族や地域の人から伝え聞くことや社会全体に残る偏見・差別意識が部落差別（同和問題）の原因であるとする人が多い。
- 解決するための方向性については、学校の人権教育で正しい知識を教える、わざわざ取り上げずそっとしておくといった両極の意見が見られるが、「人権」を身近に感じる人では後者が少なく、教育・啓発・交流が必要とする人が多い。

- ・部落差別（同和問題）が「どのような問題か知っている」人は約5割、「言葉を聞いたことはある」人は約3割。年齢別に見ると、40歳以上では約5～6割が「どのような問題か知っている」と回答しているのに対し、39歳以下では約5割が「言葉は聞いたことがある」と回答している。また、「人権」を身近に感じる人ほど「どのような問題か知っている」が多くなる傾向が見られる。
- ・部落差別（同和問題）に関して起きている人権問題について、「結婚問題で周囲からの反対があること」が約5割で最も多く、次いで「いわゆる同和地区への居住の敬遠があること」「差別的な言動があること」がともに約4割となっている。年齢別に見ると、40歳以上では「結婚問題で周囲からの反対があること」が約6割で最も多いのに対し、39歳以下では「差別的な言動があること」が約5割で最も多い。また、地区別に見ると、荒井地区では、「いわゆる同和地区への居住の敬遠があること」が約6割で最も多く、他の地区に比べても多い。
- ・部落差別（同和問題）の原因や背景について、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から教えられる偏見・差別意識」「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」が約4割「社会全体に残る差別意識」が約3割となっている。前回調査と比べると、「社会全体に残る差別意識」は少なくなっている。59歳以下では、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から教えられる偏見・差別意識」が最も多いのに対し、60歳以上では、「社会全体に残る差別意識」が最も多い。また、中筋地区では、「社会全体に残る差別意識」が約7割と他の地区に比べて多い。
- ・部落差別（同和問題）を解決するための方向性について、「小・中学校などの人権教育で、部落差別（同和問題）に関する正しい知識を教える」が約5割で最も多く、次いで「わざわざ取り上げず、そっとしておくほうがよい」が約4割、「市民一人ひとりが住所や出身地に関係なく活発に交流する」が約3割となっている。「人権」を身近に感じる人ほど「わざわざ取り上げず、そっとしておくほうがよい」が少なく、その他の項目が多くなる傾向が見られる。

⑧ インターネットに関すること

- 無責任な発言、他人への悪口や差別的表現の掲載、情報の訂正や回収が難しいことが多くの人に問題視されている。
- 39歳以下の意見として、他人のプライバシーに関する情報を掲載することが挙げられている。

- ・インターネットによる人権侵害で、問題があると思うことについて、「情報発信者が特定されないため、無責任な発言を行うこと」が約7割で最も多く、次いで「他人へのひどい悪口などや差別的な表現などを掲載・投稿すること」が約6割、「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」が約4割となっている。
- ・「他人へのひどい悪口などや差別的な表現などを掲載・投稿すること」は、特に39歳以下、60～69歳で6割以上と多い。
- ・39歳以下、40～59歳では、「他人のプライバシーに関する情報を掲載・投稿すること」が他の年齢層に比べて多い。

(3) 相談体制について

- 人権侵害を受けたとき、家族や身近な人、公的機関に相談する人が多い。相談先は性別や年齢により差が見られる。公的機関に相談する割合は前回調査から多くなっている。
- 市の広報誌が主な情報の入手先となっているが、男性や59歳以下では市のホームページ・SNSから情報を入手している人も多い。一方、39歳以下では情報の入手先がない人が4人に1人となっている。

- ・ 人権侵害を受けたときの対応について、「家族、親族に相談する」が約6割で最も多く、次いで「友達、同僚、上司など身近な人に相談する」が約5割、「公的機関に相談する」が約4割。前回調査と比べると「公的機関に相談する」が多くなっている。「家族、親族に相談する」「友達、同僚、上司など身近な人に相談する」は女性や69歳以下、「公的機関に相談する」は男性や70歳以上で多い。
- ・ 相談窓口や市の事業・施策の情報の入手先は、「市の広報誌（広報「たかさご」など）」が約6割で最も多く、次いで「市のホームページ・SNS」が約4割、「新聞・雑誌」が約2割となっている。「市の広報誌（広報「たかさご」など）」は女性や60歳以上、「市のホームページ・SNS」は男性や59歳以下で多い。「人権」を身近に感じる人では、「市の広報誌（広報「たかさご」など）」が約7割、「市のホームページ・SNS」は約5割と多い。また、39歳以下では4人に1人が「どこからも得ていない」と回答している。

(4) 人権啓発について

① 市の取り組みの認知度

- 人権週間は約4割、隣保館事業は約3割の認知度。隣保館事業は60歳以上で認知度が高い。一方、インターネットモニタリング事業、CAPワークショップは1割未満と認知度が低い。
- じんけん通信「あけぼの」、「みのり会館だより」は約7割の認知度だが、閲読経験のある人は約3割。39歳以下では約半数が掲載されていることを知らない。

- ・ 市の取り組みの認知度について、人権週間は約4割、隣保館事業は約3割と多い。いずれも特に女性で多い。隣保館事業については、59歳以下（約1～2割）と60歳以上（約3～4割）で年齢差が見られる。また、「人権」を身近に感じる人ほど認知度が上がる傾向が見られる。一方、インターネットモニタリング事業、CAPワークショップは1割未満の認知度となっている。いずれも「人権」を身近に感じる人では1割以上。
- ・ じんけん通信「あけぼの」、「みのり会館だより」とともに認知度は約7割、「読んだことがある」人は約3割となっている。いずれの記事も女性や60歳以上で「読んだことがある」人が多い。また、「人権」を身近に感じる人ほど認知度が上がる傾向が見られる。一方、39歳以下では「掲載されていることを知らない」が約5割。

② 人権啓発

- 人権についての学習会等に参加経験がある人は約2割。「人権」を身近に感じる人ほど参加経験がある人が多いが、男性や40～59歳では参加経験がない人が多い。
- 親しみやすい内容であれば参加したいと考える人が多い。また、勤労世代（59歳以下）からの意見として、土日祝日の開催が挙げられている。
- テレビ・ラジオを活用した啓発が人権尊重についての理解を深めやすいと考える人が多い。60歳以上では市の広報誌、59歳以下ではインターネットなどの活用、さらに39歳以下では映画・ビデオを活用した啓発と、年齢によって効果的な啓発方法に差が見られる。映画・ビデオを活用した啓発は、「人権」を身近に感じない人にも親しみやすいことがうかがえる。

- ・人権についての学習会等に、“参加したことがある”人は約2割で、そのうちのほとんどが「時々参加している」。「人権」を身近に感じるほど“参加したことがある”人が多くなる傾向が見られる。男性や40～59歳では「参加したことがない」が約8割と多い。「親しみやすい内容」（約5割）「有名で評判のいい人が出演する」（約2割）といった工夫があれば参加したいと思う人が多い。また、59歳以下では「土曜や日曜、祝日に開催する」（約3割）も多い。一方、人権についての学習会等に参加したことがない人のうち、約3割は工夫の如何を問わず「参加したくない」と回答している。
- ・人権尊重についての理解を深めやすいものとして、「テレビ・ラジオを活用した啓発」「市の広報誌（「広報たかさご」など）」がともに約5割、「インターネットや電子メール、ホームページの活用」が約3割と多い。年齢別に見ると、「市の広報誌（「広報たかさご」など）」は60～69歳では約5割、70歳以上では約7割である一方、59歳以下では約3割と年齢による大きな差が見られる。「インターネットや電子メール、ホームページの活用」は59歳以下で約3～4割、60歳以上で約2割となっている。39歳以下では「映画・ビデオを活用した啓発」が約4割と多い。また、「人権」を身近に感じない人では、「市の広報誌（「広報たかさご」など）」「テレビ・ラジオを活用した啓発」（約4割）に次いで「映画・ビデオを活用した啓発」（約2割）が多い。

(5) さいごに

- 家族や友人と話すこと、人権への関心や理解を深めることが、人権問題の解決のために自分自身にできることであると考える人が多い。一方、70歳以上や「人権」を身近に感じない人にも行動を促すきっかけが必要。
- 市に対しては、相談窓口の拡充・相談体制や被害者の救済の充実、人権啓発・教育の推進が求められている。

- ・人権問題の解決のために、自分自身では「差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる」（約5割）「人権について関心を持ち学ぶ機会をつくる」（約4割）「当事者から話を聞くなど理解するように努める」（約2割）ができると思う人が多い。一方、70歳以上や「人権」を身近に感じない人では、約2割が自分自身にできることは「特にない」と回答している。
- ・人権問題の解決のために市が力を入れるべきことについて、「人権問題に関する相談窓口の拡充・相談体制を充実する」が約5割で最も多く、次いで「人権問題に関する啓発・広報活動を推進する」「人権が侵害された被害者の救済を充実する」が約4割、「学校での人権教育を充実する」が約3割となっている。

高砂市 人権に関する市民意識調査

【調査ご協力をお願い】

市民の皆さまには、日頃から市政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本市では、すべての人の人権が尊重される社会の実現に向けて取り組みを進めています。来年度に現計画の期間が満了することに伴い、令和8年度から5年間を計画期間とする「高砂市人権教育及び啓発に関する基本計画」を策定します。このアンケート調査は、本市にお住まいの18歳以上の方の中から無作為抽出による1,000人の方に回答をお願いし、計画の策定に活用してまいりたいと考えています。

お答えいただいた内容はすべて統計的に処理し、個々の内容を公表することはありません。つきましては、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年9月

高砂市長 都倉 達殊

調査票記入後は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、
10月11日(金)までに投函してください。

インターネットからもご回答いただけます

下記 URL もしくは右記 QR コードを読み取って回答ページにアクセスしてください。

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/R6takasago/jinken/>

※インターネットで回答した方は調査票の返送は不要です。



【お問い合わせ先】

高砂市 福祉部 人権福祉室 人権推進課

TEL (079)443-9060(直通) FAX (079)443-3144

ご記入にあたってのお願い

1. お名前のご記入は不要です。
2. 封筒の宛名の方ご本人がお答えください。ご本人による記入が難しい場合は、代理の方にご記入いただいても構いません。
3. 黒の鉛筆または黒のボールペンで記入してください。
4. 回答欄のあてはまる番号を○で囲んでください。「その他」の場合は、その番号に○をつけ、()内に具体的に記入してください。○をつける数は設問ごとに記載しています。

日本国憲法では、基本的人権として、個人の尊重、生命・自由・幸福追求の権利、法の下での平等などが保障されています。この調査でおたずねする「人権」は、それらのことを指しています。

1 あなたのことについて

1-1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

※自認する性でお答えください。

※「3 その他」には「どちらでもない」「わからない」などを含みます。

- | | | |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

1-2 あなたの令和6年8月1日現在の年齢を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1 18～19歳 | 2 20～29歳 | 3 30～39歳 | 4 40～49歳 |
| 5 50～59歳 | 6 60～69歳 | 7 70歳以上 | |

1-3 あなたのお住まいの地区を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|--------------------------------------|--------|---------|--------|
| 1 高砂地区 | 2 荒井地区 | 3 伊保地区 | 4 中筋地区 |
| 5 曾根地区 | 6 米田地区 | 7 阿弥陀地区 | 8 北浜地区 |
| 9 わからない ⇒地区がご不明の場合は住所をご記入ください(町 丁目) | | | |

1-4 あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------------------|------------------------|
| 1 勤め人(常勤・フルタイム) | 2 勤め人(非常勤/パート・アルバイトなど) |
| 3 自営業(家庭内職者を含む) | |
| 4 家族従事者(自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に従事している) | |
| 5 学生 | 6 専業主婦・専業主夫 |
| 7 無職 | 8 その他() |

2 人権問題に対する意識について

2-1 あなたは、「人権」をどのくらい身近な問題として感じておられますか。

(○は1つ)

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 非常に身近に感じる | 2 かなり身近に感じる |
| 3 どちらともいえない | 4 あまり身近に感じない |
| 5 まったく身近に感じない | |

2-2 次の①～④について、あなたはどのように思われますか。①～④のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そうは思わない	そうは思わない
記入例	①	2	3	4	5
① 今の日本は、人権が尊重されている社会である	1	2	3	4	5
② 今の高砂市は、人権が尊重されている市である	1	2	3	4	5
③ 市民一人ひとりの人権意識は5年前に比べて高くなっている	1	2	3	4	5
④ 5年前に比べ人権が侵害されることは減っている	1	2	3	4	5

2-3 人権や差別をめぐるいろいろな考え方について、あなたの考えに最も近いのはどれですか。①～⑧のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そうは思わない	そうは思わない
① 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない	1	2	3	4	5
② 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い	1	2	3	4	5
③ 競争社会だから能力による格差が生じるのは仕方がない	1	2	3	4	5
④ 個人の権利より、地域みんなの利益を優先することが大切だ	1	2	3	4	5
⑤ どのような手段を講じて、差別を完全になくすことは無理だ	1	2	3	4	5
⑥ 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	1	2	3	4	5
⑦ 差別は法律で禁止する必要がある	1	2	3	4	5
⑧ 自分の権利ばかり主張して、他人の権利を尊重しない人が増えている	1	2	3	4	5

3 各分野の人権問題について

【女性に関すること】

3-1 女性に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(○は3つまで)

- 1 男女の固定的な性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）
- 2 昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い
- 3 女性の社会進出のための支援制度の不備
- 4 男女ともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境が整備されていないこと
- 5 地域の慣習やしきたりに女性の参加制限があること
- 6 ドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力・暴言）
- 7 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
- 8 マタニティ・ハラスメント（妊娠・出産などを理由とする不利益な扱いなど）
- 9 パワー・ハラスメント（職場でのいやがらせやいじめ）
- 10 ストーカー行為
- 11 売春・買春、援助交際
- 12 アダルトビデオ、ポルノ雑誌におけるヌード写真や映像の商品化など
- 13 リベンジポルノ（元交際相手などの性的な画像などを、相手の同意を得ることなく、インターネットの掲示板などに公表する行為）が行われていること
- 14 痴漢^{ちかん}やわいせつ行為などの性犯罪
- 15 その他（)

【子どもに関すること】

3-2 子どもに関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(○は3つまで)

- 1 保護者がいうことを聞かない子どもにしつけのつもりで体罰を与えること
- 2 子どもに心理的^{きやくたい}虐待を加えたり、子育てを放棄すること
- 3 こどもの貧困問題
- 4 家庭、学校、地域の連携が弱く、子どもを育てる環境が孤立していること
- 5 子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをすること
- 6 いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること
- 7 学校や就職先の選択などについて、大人がこどもの意見を無視すること
- 8 教師が児童や生徒に体罰を加えること
- 9 ビデオ、インターネットでの子どもを取り巻く性情報のはんらん
- 10 スマートフォンなどを介して性被害に遭う子どもがいること
- 11 インターネットでの特定個人への誹謗中傷
- 12 親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること
- 13 児童買春やこどものヌード写真・映像を商品化すること
- 14 その他（)

【高齢者に関すること】

3-3 高齢者に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(○は3つまで)

- 1 高齢者が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと
- 2 働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと
- 3 高齢者だけでは賃貸住宅などへの入居が難しいこと
- 4 悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと
- 5 病院での看護や福祉施設での介護の対応が十分でないこと
- 6 高齢者が邪魔者扱いされ、意見や行動が尊重されないこと
- 7 近所や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること
- 8 家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと
- 9 情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
- 10 身近に店舗がない、移動手段がないなどで日常の買い物が行きにくい、不便であること
- 11 認知症が原因で判断能力が十分でない高齢者の権利が守られていないこと
- 12 家族が世話することを避けたり、家族から虐待を受けたりすること
- 13 家族以外の関係者から虐待を受けること
- 14 その他 ()

【障がいのある人に関すること】

3-4 障がいのある人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(○は3つまで)

- 1 障がいのある人が暮らしやすいまちづくりや住環境整備が十分でないこと
- 2 働く場所や機会が少なく、待遇が十分保障されていないこと
- 3 学校や職場で不利な扱いを受けること
- 4 障がいのある人だけでは賃貸住宅などへの入居が難しいこと
- 5 病院での看護や福祉施設での介護の対応が十分でないこと
- 6 スポーツ活動や文化活動などに気楽に参加できないこと
- 7 社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと
- 8 情報をわかりやすい形にして伝える配慮が十分でないこと
- 9 障がいのある人の意見や行動が尊重されないこと
- 10 家族が世話することを避けたり、家族から虐待を受けたりすること
- 11 家族以外の関係者から虐待を受けること
- 12 その他 ()

【外国人に関すること】

3-5 日本に居住している外国人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(○は3つまで)

- 1 入学時や学校で不利な扱いを受けること
- 2 就職時や職場で不利な扱いを受けること
- 3 言語の問題等により外国人のこどもに対する十分な教育ができないこと
- 4 住宅の申込みや入居で不利な扱いを受けること
- 5 年金など社会保障制度で不利な扱いを受けること
- 6 結婚問題で周囲からの反対があること
- 7 差別的な発言（ヘイトスピーチなど）や行為など受けること
- 8 文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けたりすること
- 9 病院や施設などで、外国語の表記などの対応が十分でないこと
- 10 災害などの情報提供において、外国語での情報発信が十分でないこと
- 11 政治に意見が十分反映されないこと
- 12 その他 ()

【性自認、性的指向に関すること】

3-6 LGBTQ+ など性自認、性的指向に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(○は3つまで)

- 1 職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること
- 2 就職時や職場で不利な扱いを受けること
- 3 パートナーとの関係が公に認められないこと
- 4 差別的な言動をされること
- 5 賃貸住宅などへの入居が難しいこと
- 6 宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること
- 7 じろじろ見られたり、避けられたりすること
- 8 性的マイノリティであることを本人の承諾なしに第三者に伝えること（アウティング）
- 9 その他 ()

【犯罪被害者やその家族に関すること】

3-7 犯罪被害者やその家族の人権侵害について、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(○は3つまで)

- 1 犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと
- 2 警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと
- 3 過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること
- 4 事件に関する周囲からの中傷やうわさ話があること
- 5 捜査・刑事裁判で受ける精神的負担が大きいこと
- 6 刑事裁判手続きに犯罪被害者や家族の声がまだ十分反映されないこと
- 7 インターネットで情報が拡散されること
- 8 その他 ()

【部落差別(同和問題)に関すること】

3-8 あなたは、部落差別(同和問題)を知っていますか。(○は1つ)

- 1 どのような問題か知っている ⇒ 3-8-1 ハ
- 2 言葉を聞いたことはある ⇒ 3-8-1 ハ
- 3 知らない ⇒ 3-9 ハ

3-8で「1」「2」と答えた方にお伺いします

3-8-1 部落差別(同和問題)に関して、あなたは、今、どのような人権問題が起きていると思われますか。(○はいくつでも)

- 1 差別的な言動があること
- 2 差別的な落書きがあること
- 3 インターネットを利用した差別的な情報の掲載・投稿があること
- 4 就職時や職場での不利な扱いを受けること
- 5 結婚問題で周囲からの反対があること
- 6 身元調査を実施すること
- 7 地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱いがあること
- 8 いわゆる同和地区への居住の敬遠があること
- 9 その他 ()
- 10 特に起きているとは思わない

3-9 部落差別(同和問題)は、日本社会の歴史的過程で形作られた身分差別により、一部の人が、長い間、経済的、社会的、文化的に低い状態に置かれることを強いられてきた日本固有の人権問題です。今もなお、部落差別(同和問題)が続いている原因や背景として、あなたのお考えに近いものはどれですか。(○は3つまで)

- 1 家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)、親戚から教えられる偏見・差別意識
- 2 地域の人から伝えられる偏見・差別意識
- 3 職場などで伝えられる偏見・差別意識
- 4 社会全体に残る差別意識
- 5 個人の理解不足
- 6 学校での人権教育が十分でないこと
- 7 市の人権問題の啓発が十分でないこと
- 8 落書きやインターネット上などで差別意識を助長する人がいること
- 9 その他 ()

3-10 あなたは、部落差別(同和問題)を解決するためには、どのような方向が望ましいと思いますか。(○は3つまで)

- 1 小・中学校などの人権教育で、部落差別(同和問題)に関する正しい知識を教える
- 2 市民が自ら差別や人権について学ぶ機会を増やす
- 3 市民一人ひとりが住所や出身地に関係なく活発に交流する
- 4 市が教育・啓発に効果的に取り組む
- 5 わざわざ取り上げず、そっとしておくほうがよい
- 6 その他 ()

【インターネットに関すること】

3-11 インターネットによる人権侵害について、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(○は3つまで)

- | |
|----------------------------------|
| 1 他人へのひどい悪口などや差別的な表現などを掲載・投稿すること |
| 2 情報発信者が特定されないため、無責任な発言を行うこと |
| 3 捜査対象である未成年者の名前・顔写真を掲載・投稿すること |
| 4 第三者が無断で他人の電子メールを閲覧すること |
| 5 犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること |
| 6 ポルノ画像など有害なホームページがあること |
| 7 リベンジポルノが行われていること |
| 8 悪質商法によるインターネット取引での被害があること |
| 9 いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと |
| 10 差別を助長するような情報を掲載・投稿すること |
| 11 他人のプライバシーに関する情報を掲載・投稿すること |
| 12 その他 () |

4 相談体制について

4-1 人権侵害を受けたとき、あなたはどうしますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--|-----------------|
| 1 友達、同僚、上司など身近な人に相談する | 2 家族、親族に相談する |
| 3 警察に相談する | 4 弁護士に相談する |
| 5 公的機関（法務局・市役所などの人権相談窓口、人権擁護委員 ^{ようご} など）に相談する | |
| 6 地域の自治会長や民生委員・児童委員に相談する | |
| 7 民間団体などに相談する | 8 新聞などマスコミに相談する |
| 9 相手に抗議する | 10 自分で処理する |
| 11 その他 () | 12 何もしない |

4-2 あなたは、相談窓口や市の事業や施策の情報を、主に何(だれ)から得ていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1 新聞・雑誌 | 2 ポスター・リーフレット |
| 3 市のホームページ・SNS | 4 市の広報誌（「広報たかさご」など） |
| 5 市の職員 | 6 家族・親族 |
| 7 友人・地域の人 | 8 学校 |
| 9 その他 () | 10 どこからも得ていない |

5 人権啓発について

5-1 市が次のような取り組みをしていることをご存じですか。①～⑥のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

	知っている	知らない
① 人権週間 …毎年12月4日～10日を「人権週間」とし、本市では人権フェスティバル等の事業や市内小中学生の人権啓発ポスター・標語入賞作品を展示する機会を通じて人権啓発を行っています。	1	2
② 高砂市パートナーシップ・ファミリーシップ制度 …性的マイノリティの方が、お互いを人生のパートナーとして尊重し、協力し合うことを約束した関係にあることを市に届出し、市が受理したことを証明する制度。お二人に子や親等の近親者がいる場合には、家族として尊重し、協力し合う関係にあることをあわせて届出することができます。	1	2
③ インターネットモニタリング事業 …インターネットの掲示板等を検索することにより、悪質・差別的な書き込みを監視し、差別事象の早期発見、拡散防止に努め、抑止効果を図っています。	1	2
④ 校区人権教育推進事業 …日常生活の中で個人が人権感覚を身につけることができるよう、地域における教育及び啓発リーダーの育成、地域実践活動や交流の場の提供を行っています。	1	2
⑤ 隣保館事業(みのり会館が実施する事業) …人権教育として講演会や学習会・研修・講座等の開催や人権相談に取り組んでいます。	1	2
⑥ CAPワークショップ …「Child Assault Prevention(子どもへの暴力防止)」の頭文字をとったもの。子どもの安全と安心を守るために、子どもたちに「自分を守ろう」という力を育てるためワークショップを実施しています。	1	2

5-2 あなたは、人権についての学習会、講演会、研修会、講座などに参加したことはありますか。(○は1つ)

1 よく参加している	2 できるだけ参加するようにしている
3 時々参加している	4 参加したことがない

5-3 あなたは、どのような工夫があれば、人権についての学習会、講演会、研修会、講座などに参加したいと思いませんか。(○はいくつでも)

1 題材となる人権問題の当事者が出演する	2 有名で評判のいい人が出演する
3 親しみやすい内容	4 土曜や日曜、祝日に開催する
5 平日の夜間に開催する	6 親子で参加できる
7 一時保育がある	8 手話通訳がある
9 その他 ()	10 参加したくない

5-4 市が発行する広報「たかさご」に掲載している人権に関する記事を読んだことはありますか。①～②のそれぞれに回答してください。(○はそれぞれ1つ)

	が読んだこと あること	が読んだこと がないこと	知らないこと を掲載されて
① じんけん通信「あけぼの」(年4回掲載)	1	2	3
② 「みのり会館だより」(年4回掲載)	1	2	3

5-5 あなたにとって、人権尊重についての理解を深めやすいものはどれですか。(○は5つまで)

- | | |
|--|-----------------|
| 1 テレビ・ラジオを活用した啓発 | 2 新聞広告や記事 |
| 3 市の広報誌(「広報たかさご」など) | 4 映画・ビデオを活用した啓発 |
| 5 パンフレット・ポスター | |
| 6 インターネットや電子メール(メールマガジンなど)、ホームページの活用 | |
| 7 講演会や講義形式の研修会・学習会(出前講座など) | |
| 8 ワークショップ形式(討議・活動)の研修会・学習会 | |
| 9 相互の理解を深めるための交流会 | |
| 10 車いすやアイマスクなどを用いた障がいのある人や高齢者の疑似体験会 | |
| 11 人権問題をテーマとした展示会 | |
| 12 人権問題に関する小説、作文、標語などの募集 | |
| 13 人権問題をテーマとしたイベント(講演会、コンサート、展示会などを複合的に実施) | |
| 14 その他() | |
| 15 特にない | |

6 さいごに

6-1 人権問題の解決のために、あなたはどのようなことができますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------------|--|
| 1 差別や偏見と感じたことを家族や友人と話す機会をつくる | |
| 2 人権について関心を持ち学ぶ機会をつくる | |
| 3 当事者から話を聞くなど理解するように努める | |
| 4 一緒に学ぶ仲間をつくる | |
| 5 人権に関する学習会、研修会、講演会などに積極的に参加する | |
| 6 差別や偏見の言動に対して注意や抗議をする | |
| 7 その他() | |
| 8 特にない | |

6-2 人権問題の解決のために、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 人権問題に関する啓発・広報活動を推進する
- 2 人権問題に関する相談窓口の拡充・相談体制を充実する
- 3 人権が侵害された被害者の救済を充実する
- 4 人権問題に関する情報の収集及び提供を充実する
- 5 人権問題を解消するための新たな法を整備する
- 6 市職員を対象とする人権研修を充実する
- 7 職場での人権研修等が充実するよう働きかける
- 8 学校での人権教育を充実する
- 9 家庭での人権教育が充実するよう働きかける
- 10 人権問題にかかわる活動グループを育成・支援する
- 11 その他 ()
- 12 特になし

6-3 人権についてどのような問題がありますか。考えておられることをご自由にご記入ください。

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、

10月11日(金)までに投函してください。